ほう-おおい［砲覆］夜間又は雨天の際などに，砲身をおほふに用ひる帆布製のもの。《ガン-カバー(gun-cover)》

ぼうおん-さいすいき［防溫採水器］深海の溫度を比較的正確に測定するために，採光器のまはりにゴムやエボナイトを卷き，或は二重にしたもの。更に正確を期するためには顚倒寒暖計を用ひる。⇨顚倒寒暖計。

ほう-か［砲架］砲身を載せる臺。

ぼうか-きょうれん［防火敎練］艦船部隊で火災が發生した時を想定して行ふ訓練。通例土曜日の午前にこれを行ふ。

ほう-かく［砲廓］露天甲板でない甲板の左右舷側に裝備されてゐる，中口徑砲(副砲)及び砲員を防護するため，1～2門毎に裝甲隔壁を以て區劃してある所。砲廓內は彈庫火藥庫に通じ，その砲員等の居住室となつてゐる。——**ほう**［砲廓砲］砲廓內に裝備してある大砲。大艦の副砲は多くこの式。

ぼうか-たい［防火隊］他艦船又は陸上火災の場合に派遣する，軍艦の部署で定められてある消防隊。

ぼうか-ひ［防火扉］航空母艦の格納庫內を，數區劃に鐵製鎧戶式の扉を設け，ガソリンのガス發火を豫防し，又延燒を防止する。

ぼうかよう-ておけ［防火用手桶］火災用の手桶で，商船の船橋・船尾樓などに備へてあるもの。《ファイヤー-バケット(fire-bucket)》

ぼうかよう-ホーズ［防火用ホーズ］火災の場合に使ふもので長さ約50～60呎の蛇管。《ファイヤー-ホーズ(fire-hose)》

ほう-かん［砲艦］揚子江のやうな大河を航行して，警備に從事し，又河岸に在る敵を砲擊したり機雷を處分して作戰を容易ならしめる吃水の淺い小艦。河用砲艦ともいふ。

ほう-かんばん［砲甲板］舊式軍艦の中甲板(ミッドシップ)直下の甲板。昔は上甲板(スパーデック)下の數個の甲板の一を指した。

ほう-き［方旗］國際信號旗の文字旗中C～Zの24旗で，その形方形なるもの。⇨別刷圖版。

ほうき-せん［放棄船］委棄船に同じ。→同項。

ぼう-ぎょ［防禦］ふせぎまもること。——**かいめん**［防禦海面］戰時又は事變に際し，一定の區域を限つて特定の制限又は禁止を設けた海面。——**かんばん**［防禦甲板］鋼鈑を重搭した特種の厚い鋼甲板で，通例その

の兩側は下方に彎曲し，水線下に於いて舷側と接合し，たとひ舷側は敵彈のために破られるも，この甲板によつて機關室・彈藥庫等主要の部を防護するためのもの。——**こうわん**［防禦港灣］國防上必要とする場合に防禦施設をなし又は航行の制限禁止をなす一定水面をいふ。防禦海面令に規定する水面は防禦港灣に該當すべく又たとひ防禦海面令により指定せられたる水面にあらずと雖も要塞地帶に編入せられたる水面の如きは廣義に於いて防禦港灣といひ得る。⇨防禦海面。——**すいいき**［防禦水域］一國の國防上必要と見做す水上區域。——**すいらい**［防禦水雷］侵入する敵艦を防禦するため，港灣などの海中に敷設しおく水雷・機雷の類。——**ほうか**［防禦砲火］敵の飛行機又は驅逐艦等の來襲に對抗する射擊。

ぼうぎょ-もう［防禦網］水雷防禦網に同じ。→同項。——**ふせつかん**［防禦網敷設艦］潛水艦を防ぐため，各種の鐵製網を敷設する特種の船。大仕掛な防禦網を急に敷設するものを急設網艦，小仕掛なものを防潛網艦，網を碇置せずに浮泛移動する手輕な網を取扱ふものを捕獲網艦といふ。

ぼう-くう［防空］航空機で空中から攻擊する敵に對して防禦すること。——**かんしいん**［防空監視員］防空監視船に乘組み，防空監視に從事する甲板部員。——**かんし-せん**［防空監視船］無線電信又は無線電話の施設を有する100噸以上の汽船及び150噸以上の機帆船又はこの外の運輸通信大臣の指定する船舶で，防空監視に從事せしめられるもの。——**かんし-にっし**［防空監視日誌］防空監視船に備へ置き，監視の狀況・航空機等の狀況・天候及び海象の概要等を記載し，その船舶が管海官廳所在の港に入港した時に船長がこれをその官廳に提出して檢閱を受けるもの。——**くちくかん**［防空驅逐艦］高角砲ばかりを裝備して飛行機射擊を主目的とした，現今外國海軍に於いて使用する驅逐艦。——**じゅんようかん**［防空巡洋艦］航空母艦の側衞，輸送船團の防衞，海陸協同作戰に於ける上陸作戰などに，敵機の襲擊からこれを防護する任務を持つ高角砲を多數裝備した，現今外國海軍に於いて使用する巡洋艦。

ほうぐ-てんけん［砲具點檢］艦長が副長・砲術長・水雷長・機關長・砲臺將校・掌砲長等を從へ，各砲・砲架及び砲具並びに舵具及び信號器具等を點檢すること。水雷關係兵器も同時に行ふた例とす。

ぼう-けい［謀計］自己の軍事行動の利益のために，敵を誤謬に陷らせる虛

僞。その適法なものを奇計，違法なものを背信行爲といふ。

ほうけい-ひせき-けいすう ハウ…［方形肥瘠係數］造船用語。所要の排水量を得るために，船の前後で瘠せ，下の方で丸味をつけるのに，船の排水容積を長さ・幅・吃水の相乘積で除した値で，概ね0.75～0.50のもので，速力の大きい船では小さく，遲い船では大きく定める。

ほう-げき ハウ…［包擊］敵を包圍して攻擊すること。

ほう-げき ハウ…［砲擊］大砲を以て射擊すること。

ぼうげん-たい バウ…［防舷帶］短艇の緣板(ヘリイタ)の直下外側を圍繞する木材。

ぼうけん-たいしゃく バウ…［冒險貸借］昔時アフリカ北岸カルタゴ附近に於いて行はれたる船舶又は積荷を抵當とする一種の貸借法。

ぼうげん-ぶつ バウ…［防舷物］船が岸壁・棧橋・他船その他と接觸の際又は氷塊・漂材等のため外舷の摩損を防ぐ用をなすものの總稱。コルクその他を帆布・革・籐などで覆つた球形のもの，竹・木・索などを束ねたものなどの持運式のものと，舷緣外に固定したものとがある。その場所により船首防舷物と船尾防舷物に分つ。繫船岸に取附け又は水面に浮かせておく角材や竹束等も防舷材といふ。《フェンダー(fender)》

ほう-こう …カウ［縫航］①航行中の船舶が，障害物を避けつつ縫ふが如くに進行すること。②帆船が狹水路に於いて風上の方向に進む時に屢々間切走をなすこと。⇨間切走(マギリ)。

ほう-こう ハウ…［砲熒］大砲(主として海軍で用ひる稱呼)。陸軍では火砲といふ。——**へいき**［砲熒兵器］大砲・機銃・彈丸・火藥・射擊指揮裝置及びこれに要する光學兵器等を總括した稱呼。

ほう-こう ハウ…［砲口］大砲の筒口。——**いりょく** …ホ…［砲口威力］射彈が砲口を辭去するときに有する運動エネルギー。彈量に速度の自乘を乘じた値の2分の1で，米瓩單位でそれを表はす。——**えん**［砲口焰］射彈が砲口を離れた後に，膛中で燃えきれなかつた發射火藥が，砲口外で燃える光焰。——**せん**［砲口栓］大砲の膛中に，砂塵雨水の侵入し，又は大氣の濕氣のため膛面の汚瀆酸化すること等を防ぐために砲口に施す栓。

ほう-こう ハウカウ［砲窖］小口徑砲を搭載する潛水艦の潛航中の抵抗を減ずるためこれを隱顯式として納める上部構造物。現今は口徑の增大したため露出のまま潛航することになつてゐる。

ほうこう-かく ハウカウ…［方向角］照準線と自艦首尾線との交角をいひ，自艦艦首より測定せる角度を以て呼稱する。

ほうこう-だ ハウカウ…［方向舵］飛行機の尾部に縱に取附けて方向を調整する舵。《縱舵(タテカヂ)》

ほうこう-たんちき ハウカウ…［方向探知器］指向性受信アンテナを用ひ，受信された電波の發信源を測定する裝置で，これによつて敵艦又は敵機の所在を探知することが出來る。

ほうこう-とう ハウカウ…［方向燈］1方向のみを照射して，導燈の用をしたり，危險區域を示したりする夜標の一。

ほうこう-へんかん ハウカウ…クワン［方向變換］陣形運動中各艦が現隊形のまま逐次回頭して新針路に就くこと。

ぼうご-かんばん バウ…［防護甲板］防禦甲板に同じ。→同項。

ほうこく-ぎょじょう ハウコク…ヂヤウ［報國漁場］漁場の或る區域を限り，其處に勤勞奉仕等の方法により，共同して魚介藻類の增殖を行ひ，又は漁獲を行つて，その生產物を神社に奉納し，或はその賣上金を軍事又は公益事業に獻納し，若しくは出征軍人の遺家族等に贈呈する。その漁場を報國漁場と呼ぶ。

ほうこく-しょう ハウコク…［報告礁］艦船の報告により，海面上にその概位を記載し，航海者の警戒を促す淺灘・岩礁若しくは島嶼。正位置は未詳で，その存否も疑はしいものが多い。

ぼうご-はりいた バウ…［防護張板］氷などに對し舷側を保護するための張板。

ほう-ざ ハウ…［砲座］大砲を据ゑおく臺。

ぼう-ざい バウ…［防材］港灣に敵の驅逐艦・水雷艇などの侵入するのを阻止するため，强力な木材・鋼索・鐵鎖等で作られ，これを繫ぎ合はせ港口又は灣頭の水路に敷設しておくもの。

ぼうさ-てい バウ…［防沙堤］海濱に於いて，土砂などの海中に流れ去り，漸次陸岸の耗失するのを防ぐため，木材などで構成した簡單な護岸工事。

ほうじ-きゅう ハウジ…キウ［報時球］主要な港で，測候所・港務部等に設け，檣の上方に球を揭げ，特定の時刻に球を落下せしめ，正確な時を在港船舶に知らせる信號。船舶は碇泊中これによつて經線儀の誤差を測定するとともに，正確な時を知ることが出來る。航海中は無線報時信號による。

ほう-じく ハウ…ヂク［方舳］短艇の艇尾の寬濶且つ鞏固なるもの。カッター以上の大きさの短艇に用ひる。尖舳の對。

ぼう-しごせん-いどほう バウ…ゼン…ホウ［傍子午線緯度法］觀測者の子午線上に極めて

近き天象高度を測定して緯度を算する法。天象が子午線に正中の時，偶々雲に掩はれて觀測し難く，却つて正中の前後に明視し得る場合などに行ふ。近午緯度法ともいふ。

ほうじ-しんごう［報時信號］時刻信號に同じ。→同項。

ほう-しゃ［拋射］大砲の仰角を高めて射擊すること。

ほう-しゅ［砲手］武裝商船に乘組み，大砲の發射を掌るもの。その下に砲手見習が配員される。又，捕鯨砲の射手をもいふ。海軍では砲員と呼稱す。

ぼう-じゅ［傍受］發信された無線電信符號を，相手の受信すべきもの以外のものがそれを受信すること。

ほう-じゅつ［砲術］銃砲・彈藥・火具の使用に關する技術。**——か**［砲術科］艦砲射擊に從事し且つ砲術に關する諸般の事務を擔當する艦内の一科で，砲術長を科長としその下に砲術士・掌砲長及び下士官・兵を配す。數個の分隊に編成せられ各分隊に分隊長・分隊士が配屬される。**——し**［砲術士］砲術長の命を承け，その職務を分擔補助する乘組兵科士官。**——ちょう**［砲術長］砲熕その他兵器を掌り各砲臺分隊を指揮統一する職員。

ぼう-じゅん［防楯］砲の重要部と砲員とを防禦する楯(タテ)。

ほう-しょう［堡礁］海岸線の前面にあるか，島若しくは群島を圍繞する珊瑚礁で，孰れも該礁と海岸との間に深い水道を有するもの。

ぼう-しょう［棒檣］單材の檣。(ポール-マスト(pole-mast))

ぼうしょ-ふく［防暑服］酷暑の候及び熱帶地方に行動する艦船部隊の將兵又は船員が日常著用する半シヤツ半ズボンの輕快な服。

ほうしょ-ぶね［奉書船］御朱印船に同じ。→同項。

ぼうしょ-ぼう［防暑帽］酷暑の候及び熱帶地方に行動する艦船部隊の下士官・兵又は船員の著用する白布製緣つき帽。

ほう-しん［砲身］鋼製圓筒で彈藥を裝塡發射する大砲の主要部をなし，後部に尾栓を裝置したもの。大砲の筒。

ぼう-しん［妨信］無線や水中通信を妨害すること。これを避けることを妨信回避といふ。

ぼう-すい［防水］水の浸入せぬやうにすること。**——い**［防水衣］表面にゴムなどを引いて防水性を施してある布で作つた衣類。**——がい**［防水蓋］防水扉と同一の目的を以て防水區劃上下の甲板にある昇降口・積込口などを水密に閉鎖するために設けてある蓋で，その構造は概ね防水扉に同じ。**——かくしつ**［防水隔室］艦船で浸水を一部に止めるために水密隔壁を以て圍んだ室。(防水區劃)⇨水密隔壁。**——かくへき**［防水隔壁］船舶の外皮が損傷して船内に浸水してもこれを一部に止めて船の沈沒を防ぐために船内の區劃に設けた堅固なる障壁。⇨水密隔壁・支水隔壁。**——かまち**［防水框］圓材・楔などを併用して船舶の内部から浸水を遮防する目的に使用する特殊の函。**——きょうれん**［防水教練］艦船が擱坐・坐礁又は水線下に魚雷又は敵彈を受け艦底を損傷した場合等を想定して平素より行ふ應急訓練。**——くかく**［防水區劃］縱横の防水隔壁及び上下の鐵甲板で水密に區劃されてゐる部分。(防水隔室)**——せき**［防水蓆］帆布及び麻で製した方形の厚い蓆で，附屬索具を以て損所の外鈑に密著させ，外方から破孔を閉塞するのに用ひる。艦船の衝突・坐礁又は敵の砲彈を水線附近に受けた時などにこれを使用する。**——ひ**［防水扉］不慮の災害により防水區劃に海水の浸入するを防ぎ又は浸水を一區劃に抑止するため防水隔壁に裝著してある扉(トビラ)で，閉鎖した時に水密を完全ならしめるやうに四周に護謨片を附けてある。

ほうすい-いん［烹炊員］艦艇の主計兵で食物の調理に任する者。炊事掛・賄(マカナヒ)ともいふ。

ほうすい-しつ［烹炊室］艦船に於ける食物をにたきし且つ調理する室。賄所(マカナヒジョ)ともいふ。

ほうすい-ろ［放水路］水を導き流す路。

ほう-せん［砲戰］砲火を交へて戰ふこと。**——きょり**［砲戰距離］大砲を以て，戰鬪を交へる場合に，彼我の距離をいふ。緒期戰・夜戰などそれぞれの場合に於いて，決定すべき重要なる要素である。

ぼう-せん［防戰］守勢的作戰。その行爲を防禦といひ，わが攻擊に對する敵の防禦を抵抗といふ。

ぼうせん-たいさく［防潛對策］敵の潛水艦に對する防禦の方策。

ぼうせん-もう［防潛網］鋼線で作つた網で，その上部には燐化石灰などを入れた浮標が取附けてあつて，潛水艦がこの網にかかると，晝間は煙を出し夜間は火焰を放つので直にこれを知ることが出來るやうになつてゐる。

ほうそく-でんれい［砲側傳令］戰鬪中，各砲側の通信器に就き，射擊命令及び號令を砲員全部に傳へる配置にある兵員。

ぼうそ-ほう［防鼠法］棧橋又は岸壁に繫留する船舶の繫留索に，防鼠具を施し，又昇降用舷梯に鍼力板張りの舷門塞扉を施設すること。

ほう-だい［砲臺］艦艇又は陸上に於いて大砲を裝備してある場所。軍艦では位置によつて，上甲板砲臺・中甲板砲臺・前部砲臺・中央砲臺・後部砲臺といふ。**——-かしかん**［砲臺下士官］砲臺長・砲臺附の業務を輔佐し，砲員の操作・諸器具の整備竝びにこれが配給に注意し，要すれば各砲臺の傳令に從事する下士官。**——-ちょう**［砲臺長］軍艦の上中甲板を通じ，前後數個に横斷して砲臺區分をなし，これに分隊長を配して砲臺長とする。分隊士は砲臺附となる。

ほう-だん［砲彈］大砲の彈丸。

ほう-ちゃく［綁著］綱や紐で縛り結びつけること。《レーシング(lacing)》

ほう-ちょう［庖丁］捕鯨船の乘組員で，解剖刀を使つて鯨を解剖する者。

ぼう-ちょう［望潮］"もちしほ"に同じ。➔同項。

ほうちょう-きゅう［報潮球］潮の高さを示すため柱に揚げる球形の信號。

ぼうちょう-たん［暴潮湍］ラッパ形をした淺い入江又は河口に於いて，漲(滿)潮に際し押寄せる潮浪の前面が堤防のやうに高くなつて進むもの。⇨海嘯。

ぼうちょう-りん［防潮林］海岸地方で潮風による作物の鹽害又は海嘯等の慘害を防ぐために植ゑた松林その他の森林。

ほう-てい［鵬程］はるけき航路。⇨鵬翼。

ほうてい-かんばん-せん［法定甲板線］船側に描かれ，乾舷の高さを決定する線。この線の上緣から各吃水線までの垂直距離がその船のその時に於ける乾舷である。

ほうてい-たい［砲艇隊］小口徑砲を裝備する舟艇を以て編成し，主として河川流域に於いて出沒する敵の軍隊又は匪賊等を掃滅する任務に服するもの。

ほう-ど［豐度］水中に含有する養分の豐富程度で養分の多いものを豐度が高いといふ。

ほう-とう［砲塔］主力艦の大口徑砲はすべて堅固なる鋼鐵鈑を以て圍まれてゐる。その圍ひを砲塔といひ，戰鬪中砲員・砲機・彈藥を保護する。從來砲塔を搭載するのは主力艦のみであつたが，現今は巡洋艦・驅逐艦などもこれを裝備するやうになつた。**——-かん**［砲塔艦］砲塔を備へる裝甲艦。**——-ちょう**［砲塔長］軍艦で砲塔の配置に在り，砲塔を掌り砲塔員を指揮監督する特務士官・准士官等。

ぼうどう-ざい［防撓材］船舶が水壓・氣壓若しくは石炭その他荷物の壓力のために屈撓するのを防ぐため，その壓力を受ける鐵鋼板の一面若しくは兩面に固著補强してある材料。

ぼうどく-めん［防毒面］毒ガスを呼吸しないやうに，ゴム製覆面と吸收罐を結合したもので，吸收罐内に毒ガスを吸收させる。吸收劑として活性炭及び毒煙濾過用のフエルト等が容れてある。

ぼうは-てい［防波堤］外海の荒浪がそのまま港灣内へ入るのを防ぎ，泊地を靜穩ならしめるために，港を圍つたやうに造られたもの。

ぼうは-まく［防波幕］波浪の飛沫を蒙ることを防ぐために張りめぐらす帆布製の幕。

ぼう-び［防備］戰時自國領土の沿岸・重要都市・港灣・根據地・主要水道・海峽等を敵襲に對し防禦する一切のこと。海面・空中・陸上の3種に區分する。**——-せんたい**［防備戰隊］各軍港に置かれ，所在鎭守府所屬の艦船・驅逐隊・潛水隊・水雷隊及び掃海隊中より編制し防禦海面の防禦・警衞・警備に任ずる戰隊。**——-たい**［防備隊］各軍港及び要港に置かれ，海面防禦(海軍航空隊の所掌を除く)に關することを掌り海兵團の無い所では航空機によらざる空中防禦及び一般警備・陸上防火などにも任ずる。

ぼう-ふう［暴風］①荒い風。激しい風。嵐。②風速10米以上の風の總稱。强風・烈風・颶風をその中に含む。**——-くいき**［暴風區域］颱風や旋風が旋回しながら進む時，その渦卷の中に在る範圍。中心から直徑何粁といふやうに表示する。**——-けいほう**［暴風警報］暴風又は暴風雨の襲來する虞のあることを知らせる警戒報知。全國を9氣象區に分けて，中央氣象臺から警報を發する全國暴風警報と，地方測候所で各地方廳管内を4區以内に分けて，警報を發する地方暴風警報との2種がある。**——-けん**［暴風圈］暴風の吹き荒ぶ限られた區域。**——-しんごう**［暴風信號］地方暴風信號ともいひ，その地方に暴風の襲來することを警告するために，高い標柱の上に晝間は赤圓筒を，夜間は赤燈を揭げるもので，漁港などに多く建てられてゐる。**——-ず**［暴風圖］航海者が暴風の中心などを知る助けとなるもの。暴風中心圖。**——-とう**［暴風濤］暴風のためこれに相應して大きくなる浪。

ぼうふう-う ボウ‥［暴風雨］①大抵の場合に，低氣壓に伴つて起る暴風が雨を持ち來り嵐となるものをいふ。②航海上異常に强き風雨を意味する。**——ひょう** ‥ヘウ［暴風雨標］各港務部・燈臺・測候所等にて暴風雨の位置・進行方向を標示するための球・圓筒・圓錐・圓蓋及び燈火等の一定の標識をいふ。

ぼうふう-まど ボウ‥［防風窓］船橋の前方見張用窓の一部に取附け降雨・降雪中の見張を容易ならしめるもの。

ぼうふう-りん ボウ‥［防風林］風害を防ぐために，海岸や田圃又は家屋の近傍に仕立てる林のことをいふ。海岸にあるものは同時に防潮林にもなる。

ぼうま-ぶつ ボウ‥［防摩物］帆の摩損を防ぐため，檣や動索類などに取り附けるもの。

ぼう-む ボウ‥［防務］永久の目的を以て海岸に建設せる防禦地點の防備に關する事項。陸海軍の分擔とし，海軍は海上に於ける警戒勤務，その他艦船を以てする諸勤務を擔任する。

ほうむか-しかん ハフ‥クワン［法務科士官］海軍法務少尉～中將。元は法務官と稱し，專ら法律上の事務及び檢察・豫審・裁判の事務を取扱ふ文官であつたのが，現今は海軍高等武官になり司法官試補たる有資格者を採用する法務見習尉官から任用する。

ほうむ-かん ハフ‥クワン［法務官］法務科士官の舊稱。➔同項。

ほうむ-きょく ハフ‥［法務局］海軍省の一局。軍事司法・懲罰・監獄に關する事項を擔任する。

ほう-もん ハウ‥［砲門］砲を引出し，照準發射するため，舷側に設けてある開口で，通例蝶鉸を以て扉を取附けてある。

ほうもん-し ハウ‥［訪問使］外國軍艦入港の際，その港に碇泊中の軍艦から儀禮的に定例により該艦を訪問する海軍將校。

ほう-よく［鵬翼］①おほとりの翼を飛行機になぞらへていふ語。②帆。帆船の帆を船の翼と見ていふ語。

ぼうらい-ぐ ボウ‥［防雷具］軍艦に裝備し，自艦の航路及び後續艦，その他味方の艦艇の航路を自艦にて掃海し，航行を安全ならしむるもの。艏に綱をつけてそれに本器を取附けて航行すると，本器は水面下一定の深度を保持しつつ舷側から遠ざかる性能を有するため，綱が張られ機雷の繫維索が綱にかかると，本器の頭にある刃に辷り込んで切斷され，機雷が浮上ると射擊してこれを沈める。《パラベーン(paravane)》

ほう-りゅう ‥リウ［縫流］海流が島々の間を縫うやうにして流れること。

ほう-りゅう ハウリウ［放流］蕃殖を圖るため人工孵化した魚類を河川に放つこと。

ほう-りょく ハウ‥［砲力］砲火の威力。

ほう-れい ハフ‥［法令］艦隊の法規・編制・通信・儀制等に關する令達。

ぼう-ろう ボウ‥［望樓］①遠くを望むための高い建物。物見臺。②海軍望樓。現今はこれを廢止した。

ほおん-き［捕音器］水中聽音器の一部で水中音波を捕捉する器械。機關・推進器から離れた艦底又は上甲板に取附けられる。

ほ-かく ‥クワク［捕獲］①戰場で敵の艦船を奪ふこと。②拿捕された船舶又はその積荷の所有權を捕獲審檢所の檢定の結果として沒收すること。**——しんけんじょ**［捕獲審檢所］拿捕された船舶又はその載貨につき海戰法規に照し捕獲するや否やを審檢檢定し，又拿捕に關連して中立國より直ちに外交交涉を行はんとすることを避けんとする一種の交戰國の國內的裁判所。

ほかけ-ぶね［帆掛船］帆を揚げて走る船。《帆前船・帆船》

ほ-かん ‥クワン［補罐］補助罐(ホジョカマ)に同じ。➔同項。

ぼ-かん［母艦］飛行機を收容發著せしめ，又飛行機・潛水艦等に兵器・燃料・淸水・衣糧品等を供給し，飛行機・潛水艦乘員の休養設備を有する軍艦。航空母艦・水上機母艦・潛水母艦など。

ほ-き［補氣］①潛水艦で空氣壓搾機を以て氣蓄器內の空氣を補充すること。②魚雷や發射管の氣室等に壓搾空氣を補充すること。

ほ-き［補機］補助機械に同じ。➔同項。**——ちょう** ‥チヤウ［補機長］軍艦乘組の兵科特務士官・准士官(機關科出身者)で，補助機械に關する業務に服し分隊長を輔佐する。

ほきゅう-きち ‥ウ‥［補給基地］艦船に必需品を補充する作戰上の足場。

ほきゅう-せんすいかん ‥キフ‥［補給潛水艦］遠洋に出動し，潛水艦に對する必要品の補給を任務とする潛水艦。相當の工場能力を有し，洋上で僚艦の故障を修理する設備も具へてゐる。敵の制空權下で味方基地に軍需を補給する場合にも用ひる。

ほく-い ‥ヰ［北緯］赤道以北の緯度。➔緯度。

ほく-しん［北辰］北極星に同じ。➔同項。

ほく-と［北斗］北極に近い星座で斗狀をなして並んでゐる7星から成る。北斗星又は北斗七星ともいふ。東國にて“七曜の星”といひ，又四三の星

ともいふ。大熊座。

ほくよう-ぎょぎょう［北洋漁業］日本海・オホーツク海及びベーリング海に面する露領沿岸に於ける漁業，即ち極東露領水域に於ける漁業。最近では北千島漁業・アラスカの工船漁業などをも含めた一般北洋に於ける漁業を指すに至つた。

ほ-げい［捕鯨］鯨を捕へること。**——せん**［捕鯨船］鯨を捕獲するために，特別の設備を有し遠洋に航海する漁船。**——ほう**［捕鯨砲］捕鯨船に裝備してある，綱をつけた銛を發射して鯨を打つ砲。**——よう-ロープ**［捕鯨用ロープ］先綱と元綱からなつてゐて，先綱は4吋半のマニラ-ロープで，1本の長さは60尋，先端が銛に，他端は元綱に連結される。元綱は6吋のマニラ-ロープで，120尋のものが5本連結されてゐるので捕鯨用ロープの全長は660尋である。

ほ-げた［帆桁］帆を張るために檣の上に横にわたした材。

ほけつ-しょうしゅう［補缺召集］海軍に於いて臨時兵員の補缺，その他必要ある場合に歸休中又は豫備役の下士官・兵を召集すること。

ポケット［pocket］航空母艦から飛行機が發艦する際の甲板作業員の隱れ場所。

ポケット-せんかん［ポケット戰艦］袖珍戰艦に同じ。➔同項。

ほけん-こうろ［保險航路］保險者が船舶積荷の保險を引受け又は引受けたる航路。

ほご-あえん［保護亞鉛］推進器翼とその周圍の鋼材とは海水中で電流作用を起し，鋼が點蝕(ピッチング)を蒙るので船尾材附近所々に亞鉛板を固著し，身代りに腐蝕させて鋼材を保護する。蒸氣罐(ジョウキカン)内にも同樣亞鉛板を裝置して罐板及び支柱の腐蝕を防ぐ。

ぼ-こう［母港］船舶が籍を置いてゐる港。

ほご-さく［保護索］潛水艦が防潛網の下を潛り，又は機雷の敷設してある海中を通過する場合に，網や綱が推進器・艦橋その他に搦みつかぬやうに司令塔の前後に張つてある太い鋼索。

ほこ-つき［鉾突］鮑・海鼠・鰈・その他海底に棲む魚貝類を鉾で突いて捕ること。

ほご-ぼうえき［保護貿易］國内産業保護のために國家が直接又は間接に外國貿易に制限又は保護を加へること。自由貿易の對。

ほこや-の-そなえ［鋒矢の備］日本水軍の戰鬪隊形。鶴翼の備。凸梯陣。

ホーサー［hawser］麻綱(ヘンプロープ)即ち植物の纖維を材料として製した索(ツナ)で，白麻索・タール索・マニラ索・サイザル索などがある。

ほしき-かんてい-そくていぎ［保式艦底測程儀］航海兵器の一。螺旋(推進器)を納めてある小型の圓筒を，艦底から水中に出し，艦が進行すると圓筒内に上から下へ流れが出來て螺旋を廻し，その軸端は發電機に連續する發電子を回轉して電氣を起す。その電壓を艦橋にある速度指示器に表はしそれと並んで回轉數の累計で浬數を表はす航程指示器が備へ附けてある。

ほしき-ぎょらい［保式魚雷］英國人技師ロバート-ホワイトヘッド(Robert Whitehead)の發明した魚雷で，これを改良進歩したものが現在各國海軍で最も多く用ひられてゐる。

ほじ-せん［保持船］海上衝突豫防法の規定により，一船が他船の航路を避けてゐる間，その針路及び速力を保持すべしと定められた側の船。俗にこれを權利船といふ。➪權利船。

ほ-じゅう［補充］海軍の士官・准士官・下士官・兵を任用又は補缺すること。**——こうたい**［補充交代］艦船部隊の下士官・兵を或る一定の時期に補充し且つ入れかへること。**——しょうしゅう**［補充召集］臨時兵員の補缺その他必要なる時に歸休中又は豫備役下士官・兵を召集すること。**——へい**［補充兵］補充兵役に服する兵。第一補充兵と第二補充兵とがある。第一補充兵は原則として全員教育召集を受けることになつてゐる。第二補充兵は應召入團の上は海軍の兵籍に編入されて第一補充兵とともに各兵種に應じ海軍二等兵を命ぜられ，所定の教育召集期間現役の新兵とほぼ同樣の教育を受け，解除の際一等兵に進級退團歸鄉する。但し戰時事變の際は必要に應じ充員召集を命ぜられ國防の第一線に就く。**——へいえき**［補充兵役］兵役の一。現役兵の補缺に充つるもので海軍の第一補充兵役は17年4箇月。昭和17年より陸軍の兵籍に在る第二補充兵も海軍に召集される途が開かれた。

ほじゅう-タンク［補重タンク］潛水艦の魚雷・燃料・彈藥等の消耗によつて生ずる重量を補ふために海水を入れるのに用ひるタンク。豫備魚雷補重タンク・ガソリン補重タンク・機雷補重タンク等。

ほ-しょう［堡礁］珊瑚礁の一。島或は陸から少し離れ，防波堤狀をなしてゐるもの。所々に切れ目があり，船舶が出入出來て，内部は往々良港を

なしてゐる。岩礁ともいふ。

ほしょう-わたし［保證渡］船荷證券又は貨物引換證その他の證憑書類と引換でなく，銀行その他信用し得べきものの保證狀を徵して荷受人と見られる者に運送品を引渡すこと。

ほじょ-がま［補助罐］船舶碇泊中に，發電機・揚貨機・ポンプなどの運轉に必要な蒸氣を造る罐。《ドンキー-ボイラー(donkey-boiler)》

ほじょ-かんてい［補助艦艇］主力艦の補助を主眼とする艦艇の總稱。巡洋艦・驅逐艦・潛水艦・水雷艇の類。

ほじょ-きかい［補助機械］艦船で推進機とは關係なく動作する機械。揚錨機・操舵機・發電機・揚艇機・通風機等。略して補機と稱す。

ほじょ-こうくうぼかん［補助航空母艦］飛行機運搬艦。

ほじょ-こうろ［補助航路］政府又は公共團體より航路經營につき補助を受ける航路。命令航路の別稱。➔同項。

ほじょ-さくせん［補助作戰］決戰をなすに至るまでに行はれる準備的戰鬪の數々をいふ。決戰の對。

ほじょ-じゅんようかん［補助巡洋艦］特設巡洋艦に同じ。➔同項。

ほじょ-じょうきくだ［補助蒸氣管］補助塞止弁から蒸氣を各種の補助機械に引込む管。補助塞止弁のない場合は主蒸氣管から小さな枝管となつて分れてゐる。

ほじょ-タンク［補助タンク］潛水艦の豫備浮力竝びに釣合を補助的に調整するもの。⇨豫備浮力。

ほじょ-ぶたい［補助部隊］戰艦を中心とする主力部隊に對し輕巡洋艦戰隊・水雷戰隊などをいふ。

ほじょ-ほう［補助砲］軍艦の備砲のうち主砲・副砲以外の砲。

ほじょ-よく［補助翼］飛行機の主翼の兩端の後部に附いてゐる翼で，機を左右に傾ける用をなす。

ほ-じるし［帆印］船の所屬を表はすため，帆に表示された記標をいふ。

ほ-しん［保針］命ぜられた針路を保持するやうに操舵すること。

ホーズ［hose］蛇管。➔同項。

ほ-すそ［帆裾］帆の下緣又は下端。下緣。

ほ-ずつ［帆筒］船の中央に裝置したる檣の控柱。これに帆綱を通して帆を上下する。

ほ-ずな［帆綱］帆を檣に上下し又は繫止するための綱。《帆檣・帆索》

ボースプリット［bowsprit］船首に突出した大斜材をいふ。前檣を支持し帆を展ずる用をなす。《斜檣》

ホーズ-ホール［hawse-hole］錨鎖孔。➔同項。

ボースン［boatswain］甲板長(舊稱水夫長)。➔同項。

ボースンズ-チェアー［boatswain's chair］吊腰掛。➔同項。

ほぜい-そうこ［保稅倉庫］輸入手續未濟の貨物を藏置することを目的とし，保稅地域に設置せられる特別倉庫で，貨物の保管以外に改裝・仕分その他の手入をなすことを許される。

ほぜい-ひん［保稅品］輸入手續未濟の輸入品。同項。

ぼ-せん［母船］附屬小艇がその親船を指す稱呼。

ほせん-こうろ［保薦航路］推薦航路に同じ。➔同項。

ぼせんしき-ぎょぎょう［母船式漁業］工船漁業に同じ。➔同項。

ほぞ［枘］檣の最下端で內龍骨上に設けられた檣座に嵌入する部分をいふ。《テノン(tenon)》

ほ-そく［補測］以前に測量をした所の一部の改測。

ほ-だな［帆棚］和船で檣を立て，帆をまきおろしする所。

ほっ-きょく［北極］地軸及び天球の軸の北端。一般にはそれらを中心とする地域をもいつてゐるがそれは極地といふべきものである。⇨極地。

——-きょり［北極距離］天體の，天球上に於いて大圈に沿つて北極まで測つた角距離。**——-けん**［北極圈］地球上北緯66度30分の緯度圈。この圈以北では冬至の前後若干日間太陽は地平線上に現れず，夏至の前後若干日間太陽は地平線下に沒することなく，北極に至れば半年間は夜，他の半年間は晝である。**——-せい**［北極星］北極の眞上にある星。地球自轉のために殆んど位置を變へないので夜の方位の標準となる。上總の國にて"一つの星"又"番(バン)の星"といふ。**——-たんけん**［北極探檢］北極探檢は早くから試みられたが，北西水路・北東航路の發見によつて拍車をかけられ1895年ノルウエー人ナンセンは北緯86度4分に達し20世紀に入り伊人カーニは86度34分に達し，米人ピヤリは3回探檢の結果遂に北極に達した。1926年米人バードの飛行機による探檢に續いてノルウエー人アムンセンは伊人ノビレとともに半硬式飛行船ノルゲによつて探檢し，次いで濠洲人ウイルキンスの飛行機による探檢あり，最後にノビレ少將が飛行船イタリヤで到極した。

——ていりゅう[ツウ] [北極底流] 北極の萬年氷の下から降りた冷水が流れになつて赤道の方へ來るもの。

ホッギング [hogging] 船體が波頂に在る時前後部の垂下せんとする作用。船梁の中央部が上方に曲る傾向。サッギング(sagging)の對。

ホッグ [hog] 船 底の海藻などを削り落す丈夫な箒(ブラシ)又は刷毛。

ボックス [box] 短艇長の居所で背板とトランソムの間。

ほっこく-ぶね[ホクブ] [北國船] ①昔の加賀・能登・越後などの大型運送船。《團栗船(ドングリブネ)》 ②北前船(キタマエブネ)に同じ。→同項。

ぼっしゅう-せんこく [沒收宣告] 捕獲審檢所に於ける審檢により拿捕船舶又はその載荷の沒收を宣告すること。

ぼっち [保津船] 鰊・鮭・鱈等の定置漁具に於いて網の最奥部に繫つてゐて，網揚船が網を揚げ終つてここに來た場合，これと協力して漁獲物を取り込み根據地より來る運搬船に渡す用をなす船。

ほっぴょう-よう[ホクヒヤウ] [北氷洋] 北極を繞(メグ)る海洋。

ポッポ ヤップ島土人の交通漁獵用カヌー。

ほて 字未詳。和船の荷物を載せる敷物。一名荷敷。木で作り，川船に用ひるものを荷尻といひ，竹を把(タバ)ねて海船の左右の船側に敷くものを“ほて,,といふ。

ほ-で [帆手] 帆の横につけ帆を左右に引き止めるための綱。

ボート [boat] 短艇。我が國では一般に小船・はしけ船等，手漕艇のことをボートと稱へ，海上・河川・湖・池上で使用される。漕手の疲れた時，又は順風のある時は帆を使用し得るものがある。**——カバー** [boat-cover] 雨水・煤煙又は塵埃等を防ぎ且つ波浪の侵入をも防ぐもの。《短艇覆》 **——テークル** [boat-tackle] 短艇を揚卸しするに用ひるテークル。 **——デッキ** [boat-deck] 短艇甲板。→同項。 **——ノート** [boat-note] 荷揚港で積荷を艀取りした場合にその艀毎に發行し，本船一等運轉士と受荷主又は艀船頭とが記名捺印する艀取貨物の受渡證。 **——ハウス** [boat-house] 短艇を格納する設備のある小屋。《艇庫》 **——ロープ** [boat-rope] 短艇を降した時に該艇を維持し，又達著の際要すれば本艦から投げ與へる索。

ボート-フック [boat-hook] 爪竿。→同項。 **——ラニヤード** [boat-hook-lanyard] 細索の一端を爪竿に固結し內端をその柄に添つて凡そ三分一の處に結び留めたもので，その柄端を折損するも爪(フック)を失はないための索。

ポート-マーク [port-mark] 揚地印。積荷の仕向港を示すために荷印の下部に附記する港名。

ほ-なわ[ナハ] [帆繩] 帆綱に同じ。→同項。

ほぬい-いと[ヌヒ] [帆縫絲] 亞麻製のものと，苧麻(マヲ)製のものとあり，我が海軍では主に前者を用ひる。帆布を縫ひ，又は帆布に索條を縫著し又は滕孔(カガリアナ)を作るのに用ひられる。

ほぬい-ばり[ヌヒ] [帆縫針] 帆縫に用ひる鋼製の針で，その用途に應じ甲乙の2種がある。

ほぬい-ろう[ヌヒラウ] [帆縫蠟] 蜂蜜で製つた蠟で，帆布を縫ふ時，帆縫絲に塗布して滑り易くし，摩擦でその切斷するのを防ぐに用ひるもの。

ほね-のこぎり [骨鋸] 鯨體解剖作業用の蒸氣によつて動かされる長さ1間餘の大鋸で，骨を小さく切斷するもの。

ほ-ばしら [檣・帆柱・桅] 鐵製又は木製の圓材で帆を張るために立てたる柱。現在の軍艦や汽船の檣も習慣上“ほばしら”と言ふ。汽船はこれに信號桁・見張等を裝置す。帆船はこれに帆を掛け又横に取附けた桁(ヤード)に横帆を，斜桁に縱帆を展張する。3檣のときは前方より前檣・大檣・後檣，帆船の各檣は下方より下檣・後檣・トガーン及びローヤル檣より成る。《マスト(mast)》

ほひき-あみ [帆引網] 水中に投下し，帆に當る潮流の力によつて引曳する網。潮打瀨網(シホウチダミ)ともいふ。

ほ-ぶち [帆緣] 横帆の緣。縱帆の後緣。《リーチ(leech)》

ポーポイジング [porpoising] 航空用語。飛行機が水(陸)上で何度も跳躍すること。海豚(イルカ)の跳躍する狀に似てゐることから來た語。

ぼ-ほう[ハウ] [母砲] 子砲を取附けた場合，それを取り附けられた砲をいふ。子砲の對。

ほまえ-そうれん[マエサウ] [帆前操練] 船員をして實際帆の操作に熟せしむるやうに練習すること。

ほ-まち 船員が運送契約に基づく積荷の運送に際し，その以外の物品を密かに運送し，その報酬として金錢(運賃)又は物品を收受し私すること。又その私する金錢若しくは物品。外持(ホカヂ)の略なりといふ。私得。

ホーム-スピード 母港へ歸る時の船の速力の俗稱。早く母港へ歸りたいといふ氣持で，大體の豫定よりも自然早く母港へ著くやうになる。

ホーム-ポート［home-port］母港。➔同項。

ほ-もめん［帆木綿］ 帆に使用する丈夫で重い厚地の木綿織物。帆のほか，天幕・雨覆等にも用ひられる。

ほ-やく［帆役］ 帆の石數に應じて船に課した稅。

ボーライン［bowline］横帆を前方に張る索具。孕索。——**ノット**［bowline-knot］舫結(モヤヒ)。➔同項。

ボラード-ヘッド［bollard-heads］雙繫柱。➔同項。

ポラリス［(羅)Polaris］北極星。➔同項

ほり-いけす［堀活洲］ 海岸の砂地を堀下げて板圍とし，注排水口を設け，又は海岸の砂岩を穿つて池を作り，干滿の差或は波浪を利用して海水の交換を行ひ，魚類や蝦類を蓄養するもの。

ホリ-ストーン［holy-stone］甲板をこする磨石。⇨ハリ-ストーン

ほ-りゅう‥リウ［補流］海洋中の或る場所の海水が，他に流れたのを補ふために起る海流。(反流)

ほ-りょ［捕虜］俘虜の俗稱。➔同項。

ポルダー［polder］ オランダで海より低い沼地に堤防を築いて開墾した干拓地。

ポルックス［(羅)Pollux］天測常用恒星の一。 カストル星と竝んで同じ橙色に同程度の明るさに輝いてゐるので雙生兒座の名がある。

ホールド［hold］船艙。➔同項。

ホールド-ウオッチ［hold-watch］艙內監視。➔同項。

ホルムス-ライト［Holmes-light］救命焰・發光器。➔各項。

ホワイト-スコール［white-squall］ 雲も雨も伴はない急風。ブラック-スコールの對。

ほん-かん［本艦］ 軍艦・驅逐艦・潛水艦などで，その艦又は乘員が自艦を指していふ語。

ほん-しお‥シホ［本潮］紀州沿岸で黑潮のことをいふ。

ほんしょ-しごせん［本初子午線］地球上の經度の起算點とする線。英國グリニッチ天文臺を通過する子午線。

ほん-せん［本戰］全局の作戰目的を達するのに直接關係ある作戰。⇨支戰。

ほん-せん［本船］ ①船員が自分の乘組んでゐる船を指していふ語で“此の船”の意。②利害關係人が當該船を指していふ語で“其の船”の意。③親

船又は本(モト)船。——**つみこみねだん**［本船積込値段］エフ・オー・ビー＝F. O. B.（free on boardの略）に同じ。➔同項。——**つみこみわたし**［本船積込渡］本船渡に同じ。➔同項。——**わたし**［本船渡］本船積込渡とも稱し，船積港に於ける貨物の本船積込を以て賣買貨物の受渡時期及び場所とする賣買契約。從つて積込み迄に要する一切の費用は賣主の負擔である。

ボーン-ソー［bone-saw］ 骨鋸。➔同項。

ほんだわら-かいめん‥ダワラ‥［馬尾藻海面］大西洋の灣流のため，海藻が密集して航海の妨害をなす海面。サルガッソ海面(Sargasso Sea)といふ。

ほん-ちょく［本直］當直中の責任ある主要な將校。これを輔佐するものを副直といふ。

ポンツーン［pontoon］軍用鐵舟。艀(フナ)。起重機船。艀(ライター)。

ぼん-でん［梵天］ 海中に漁具の投じてある位置を表示する目標。例へば鮪延繩の幹繩1鉢に，1本宛を浮標に添へて水上に直立させる長さ15尺位の竹の先に小旗か竹笹又は棕梠皮のやうなものを附けた目標。夜間はこれに燈火を點じ或は“するめいか”を結び附ける。“ぼんでん”は流網等にも用ひる。⇨いかぼんでん。

ポントス［Pontos］ 希臘神話による水路の守護神。太古以來海底の洞窟に住むといはれる。

ポンプ-しゅんせつせん［ポンプ浚渫船］ 浚渫船の一種で，吸揚浚渫機を備へた船。繫留式のものは吸揚げた土砂を長いパイプで遠く陸岸又は埋立地に送ることが出來る。自航式のものは船內の泥艙に吸揚げた土砂を積み外海に運搬投棄する。

ポンプ-はいすい‥スイ［ポンプ排水］潛航中の潛水艦が元の水上狀態に復する際，メーン-タンクに入つてゐた海水を壓搾空氣で一度に押出してなほ殘つた水をポンプで排出すること。

ポンポン-ぶね［ポンポン船］ 發動機艇の俗稱。又ポンポン蒸氣ともいふ。

ほん-りゅう‥リウ［本流］支流に對して主な流をいふ。

ま

ま-あみ［眞網］①1網を2艘の網船で使用する場合に，右方の船には眞網，左方の船には逆網(サカ)を積み，兩方より投下しながら魚群を包圍し漁獲する。②右舷から網を卸すことを眞網，左舷から網を卸すことを逆網といふ地方もある。——**ぶね**［眞網船］二艘旋の網を投ずる場合に眞網を載せる右方の船。これに對して左方の逆網を載せる船を逆網船といふ。

マイアーレ［(伊)maiale］イタリヤ海軍の新兵器。前半は魚雷，後半が艇で，潜水服を著けた乘員は艇に馬乘りになり，敵艦に近づき潜沒して手足を動かしつつ進航し，特殊な裝置で艦底又は艦側に魚雷を密著させ，退避後時計仕掛で爆發させる。

まい-インチ-はいすい-トンすう［毎インチ排水噸數］或る船舶の吃水を平均1吋だけ沈めるのに要する搭載重量。

まい-か［埋火］機關用語。船舶が港に碇泊中，汽罐の使用を停止した後罐内に適度の汽壓を保たしめんとする場合に，燃炭を後方に押送りその上に石炭を積み，焚口戸及び灰落戸を密閉しておくこと。

まい-はだ［槇肌］"まきはだ"の音便。➔同項。

マウシング［mousing］①索條の所々に防舷物代用のものを設け，小蒸氣船などの外周に取附けたもの。②絞轆等の鉤を吊した時その鉤(フック)の外れぬやうに鉤に細索を卷く方法。《安全止(アンセンド)》

まえ-おも［前重］飛行機の頭が重いこと。《ノーズ-ヘビー(nose-heavy)》

まえかり-ぶね［前驅舟］旋網漁業の操業に當つて，その前方から狩棒を海中に投じ，魚群を網の中に狩り込む役をする船。⇨狩棒。

まえ-はぎ［前脛］網漁に出る漁夫が，藁でこしらへ前掛としてゐるもの。前當(マエアテ)・前蓑(マエミノ)といふ地方もある。

まえばらい-うんちん［前拂運賃］積荷發送前貨物積込の際支拂ふ運賃。

ま-おいかぜ［眞追風］舟の眞の後方より吹く風。

ま-かじ［眞楫・眞檝］楫の美稱。《眞櫂》

まき［卷］蛤・淺蜊等砂泥中に棲む貝を採る漁具。腰卷と船卷とある。⇨腰卷。

まきあげ-き［捲揚機］揚貨機に同じ。➔同項。

まき-あみ［旋網・卷網］漁網の一。多くは長方形をなし，囊網と兩翼とから成るものと，囊網のないものとがある。いづれも魚群を圍み，前者は兩翼を船内に繰入れ，魚を囊中に追込み，後者は網の裾を先に引揚げて漁獲する。

まき-うち［卷打］投網の漁法の一。十數艘の漁船が圓陣に竝び，一齊に網を投ずること。

まき-え［撒餌］"まきゑさ"に同じ。➔同項。——**ずり**［撒餌釣］飼附漁業などで行ふ釣方で，魚道に當る魚礁に時を定めて多量の餌を撒きつづけて魚を誘ひ，飼ひつけておいて釣る方法。——**ぶくろ**［撒餌袋］"しらす"又は鰯等の肉を細かく切つて入れる袋で，これから流出する餌で魚を寄せ集める。一本釣の手釣では，この袋を天秤に結びつけて使用し，棒受網では，竿の先に結んで使用する。いづれも海中の或る深さの所に撒餌するために用ひる。

まき-えさ［撒餌］目的とする魚の好む餌を撒布して，魚を集めること。釣漁業にも網漁業にも行はれる。

まき-じめ［卷締］滑車の帶索又は麻索を括る等，兩條ともに同一の緊張を受ける所に用ひる括著法。《スロート-シージング(throat-seizing)》

まき-なみ［卷波］海岸の淺い所へ進んで來る波の前面が，海岸に直角になつてきて，その上部の水は前の低い方に落ち，白く碎けつつ進み遂に崩れるもの。

まき-はだ［槇肌・槇皮・槇絮］高野槇(カウヤマキ)又は檜などの皮を柔らげて，緩い繩狀にしたもので，漏水を防ぐため，板の合せ目又は接ぎ目に詰めこむもの。古綱をほぐして纖維狀に戻して充てることもある。《船茹(ノメ)・コーキング(caulking)・オーカム(oakum)》⇨コーキング。

ま-ぎり［間切］帆走の際，上手廻又は下手廻を以て交互に右開きや左開きにて目的地に進むこと。——**ばしり**［間切走］縫航。逆風のとき，帆船が風を斜前方から受けて，"之"の字なりに進み，風上の目的地點に近寄ること。間切乘ともいふ。

まぎり-がわら［龍骨］大型和船の下底の舳から艫に通じて全體を支持す

る長材。(間切骨・航(カハラ))

まく-ひょう［膜氷］油を流したやうに薄い膜狀をなし，氷子の互に凍著せずに鉛色又は灰色を呈して海面を覆ふもの。

まくらなみ-じょうたい‥ジャウ［枕浪狀態］船が殆んど眞横に傾いて顚覆しかかつてゐる狀態。(ビーム-エンズ(beam-ends))

まぐろ-なわ‥ナハ［鮪繩］①鮪延繩の略稱。②鮪延繩には大繩・中繩・小繩の3種がある。その大繩の別稱で"しび繩"ともいふ。⇨蜻蛉繩(トンボ)。

まさ-いかり［正錨］錨に錨鎖が絡みついてゐない狀態をいふ。(クリアー-アンカー(clear-anchor))

ま-さく［麻索］麻・マニラ麻等を撚り合せて作つた綱。(ホーサー)

まさつ-ころ［摩擦轉子］動索を牽張する際，その摩擦を防ぐため甲板上或は側壁などに取附けてある回轉銲。

まじ［眞風］(方) 南寄りの風。(まぜ)

ま-しお‥シホ［眞潮］沿岸に竝行して流れる黑潮。房總半島南方海面に於ける特別な呼稱。沿岸に接近し來るものを"込み眞潮"，沿岸より遠ざからんとするものを"出し眞潮"といふ。

まし-がけ［增掛］荒天準備として帆の展張索(シート)，帆桁の操桁索(ブレス)など重要な索具類を補强するためそれ等に別の索を附けること。

まじめ　漁夫等の語。黃昏を"夕まじめ"拂曉を"朝まじめ"と稱し，一般に漁業の好時刻。"ますめ"又は"ますみ"といふ地方もある。

マス［MAS］伊國海軍の快速魚雷艇。伊語のMotoscafi-Anti-Sommergibili(機動驅潛艇)の頭文字をとつて名附けたもの。排水量12～30噸，速力18～30節，輕砲・機銃・魚雷・爆雷等を裝備す。前の世界大戰中にリッツオ(Rizzo)少佐の率ゐた2隻のマスがオーストリアの艦隊を襲擊し戰艦サント-ステファノを擊沈し，現大戰にも地中海で活動を續けた。

ますあみ-ぎょぎょう‥ゲフ［桝網漁業］定置漁業の一。垣網と側網(カヅキ)の2部分から成り，沿岸に沿つて游泳して來た魚類を，垣網によつて沖の方に導き，その先端に建て廻した側網の中へこれを導き，更に側網の諸所に取附けてある囊網の中に陷入れて捕る漁業。碇・土俵若しくは支柱等を以て一定の水面に敷設する。壺網(ツボ)・桝網など11種類ほど，これに該當する網がある。

マスト［mast］檣(ホバシラ)。➔同項。

マスト-ヘッド［mast-head］檣の頂上。——**マン**［masthead-man］禮砲・

艦飾等に當り旗章を開くために檣頂に昇る兵。

ませ［眞風］南の方から吹いて來る風。(まじ)

まち-あみ［待網］①水中に網を張り魚がその中に入つて來るのを待つこと。②底は囊狀で竹緣をつけこれを水中に沈めておき，魚の乘つて來るのを待つて捕へる網。

まち-ござぶね［町御座船］町屋形に同じ。➔同項。

まち-やかた［町屋形］總矢倉で日覆のある遊山船。(町御座船(マチゴザブネ)・借御座船(カリゴザブネ))

マーチンゲール［martingale］ジブ-ブーム又はフライング-ジブ-ブームを下方に張りつける索具。

マッド-アンカー［mud-anchor］普通の錨では埋沒する虞ある泥海の碇繫，又は燈船の如く長期間の繫泊に用ひる傘形又は蕈(キノコ)形をした錨。

ま-つら［間連］和船の內側の底板から上棚及び中棚を維持し，舷側を强固ならしめる曲材。肋(アバラ)と呼ぶ地方もある。造船中これの完成した時の祝を間連揃(マツラヒ)といふ。又，大船の舳の木をいふ地方もある。

まつら-ふね［松浦船］肥前の松浦で造る型の船。

まて［待］或る動作をなしつつある時に，"そのまま少しも動くな"の命令を傳へるための號音。"待て！"の號令で中止した作業を"掛れ"の號令で繼續する。⇨スチル(still)。

マートウ［碼頭］支那語。船著き場。(埠頭)

ま-とも［眞艫］①船の後方に向ふ側。②海上にて風が船の後方より眞直に吹くこと。——**ばしり**［眞艫走］帆を揚げ追風にて走ること。

マトロス［(蘭)matroos］船頭・船夫・水夫。一般にマドロスと訛(ナマ)る。

ま-な［眞魚］食膳に用ひる魚。

マニフェスト［manifest］積荷目錄。⇨積荷運賃明細表。

マニラ-ずな‥ツナ［マニラ索］熱帶地方，殊に比律賓群島に產する芭蕉科植物の纖維を材料として製した索で，能く水に堪へ輕量で浮び易い特性がある。

まね　大漁の合圖に船に揭げる旗。

ま-はんぷ［麻帆布］亞麻又は大麻を以て織つた布で帆及び器物覆を製するに用ひられる。(あさはんぷ)

ま-ぶね［間船］部切船(ブキリブネ)に同じ。➔同項。

ま-ほ［眞帆］順風に正しく懸けたる帆。十分に揭げた帆。片帆(カタホ)の對。

ま-みず…ミッ［眞水・淸水］鹽分などのまじらない普通の水。鹹水の對。(淡水)

——-タンク［淸水タンク］罐に補給する淸水・飲料用の淸水等淡水を貯藏する水槽。(淡水槽)**——-ぶき**［眞水拭］艦內日常手入として，艶拭のみでは塗粧面を淸淨ならしむること能はざる場合に行ふもので，よく絞つた雜巾で塗粧面を拭掃するとともに，屢々淸水をこれに灑いで汚染・鹽分等を除去すること。⇨艶拭(ツヤキ)。**——-ポンプ**［淸水ポンプ］①甲板下の淸水槽より淸水を汲み出すポンプ。②甲板上の淸水槽に淸水を送るポンプ。

まめ-せんかん［豆戰艦］　袖珍戰艦に同じ。➔同項。

まめ-でんきゅう…キウ［豆電球］大砲の夜中照準器や，魚雷の夜間發射にそなへて方位盤に取附ける極めて小さな電球。

マラス　印度地方で板を椰子絲で括つた縛り船。

まる［丸］日本の船名などに添へる特有語。

まる-がま［圓罐］　外周は圓筒形をなし胴といひ，兩端は鏡鈑といふ平坦面をなしてゐる罐。焚き口を一方にのみ有するものを片面罐(カタメンガマ)，兩端に焚き口があるのを兩面罐といふ。

まるき-ぶね［獨木舟・丸木舟］①木を刳(ホ)り凹めて造つた船。(うつろぶね・うつおぶね・またたぶね・まろきぶね)②丸木の形のやうな細長く底の深い船。

まるた-かけ［丸太掛］　樽若しくは圓壔形物體を揚卸するに用ひる索。このための結索法を樽結(タルビム)といふ。

まわり-なみ［回浪］　海岸の近くで風のために曲る浪。その曲つた角度に比例して波の高さが低くなる。土砂を海岸や河口等に打揚げ，砂丘を築き上げたり，砂堆を作つて河流を曲折させたりする。

まん-かん［滿干］滿潮と干潮。(みちひ・干滿(カンマン))

まんかん-しょく［滿艦飾］紀元節・天長節・明治節又は皇禮砲を發射すべき日などに碇泊中の軍艦が各檣頭に軍艦旗を揭げ，艦首より各檣に亙り艦尾まで信號旗を連れて艦を飾り立てること。外國のために行ふ滿艦飾には大檣頭にその國の旗章を揭揚する。

まんき-へい［滿期兵］　現役の期限が滿ちて退團する兵。

まん-げつ［滿月］　太陽と月との黃經の差が180度の時，太陽に照らされた月の全部分を地球に向けることとなり，月は完全な圓形に見える。(望)

まん-さい［滿載］　積載能力の限度迄一杯に積荷を搭載すること。**——-きっ**

すいせん［滿載吃水線］　船舶及び人命の安全を期するため，船舶に適當な乾舷を保有せしめ，過當な吃水にて航海するの危險を防ぐため，各海洋の各季節に應じ，船舶に許すべき極度の滿載吃水線を定めてこれを標示せるもの。(乾舷標・船積極印)**——-じょうたい**(ジョウタイ)［滿載狀態］潛水艦が滿載定額を搭載し出師準備を完成せる狀態。⇨輕荷狀態・常備狀態。**——-はいすいりょう**(ハイスイリャウ)［滿載排水量］　燃料・淸水・食糧その他の消耗品を最大限度に搭載した時の軍艦の全重量。商船では貨物・燃料・淸水・乘客・乘組員・倉庫格納品・食糧等を最大限度に搭載した時卽ち滿載吃水線まで搭載せ時の排水量。⇨排水量。

まん-じゅ［滿珠］神代に彥火火出見尊が，海神の宮で得させられたといふ玉の名。これを海に漬けると潮が滿ちて來るといはれるもの。干珠の對。(潮滿瓊(シホミツタマニ))

まん-すい…スイ［滿水］①水の充分に滿ちること。②河水などの漲り滿ちること。③潛水艦のタンクに注水して充滿させること。

まんせき-きっすいせん-きょうてい(マンセキキツスイセンキヤウテイ)［滿積吃水線協定］1930年倫敦に於いて行はれた萬國會議の際調印された協定で，各國の滿載吃水線に關する規定を國際的に統一することを目的とする。

まんせん-しょく［滿船飾］商船の各マストの檣頂に國旗を揭揚し，又船首から各マストを經て，船尾まで國際信號旗を連揭するもので，四大節を初め海の記念日，同一の港に在る帝國海軍艦船が滿艦飾を行ひ天皇又は皇族に對し奉り皇禮砲を行ふ場合等に施行する。

まん-ちょう…テウ［滿潮］海面が一日の中で最も高くなつた時の稱。⇨潮汐。

——-せん［滿潮線］滿潮汀線に同じ。➔同項。**——-ていせん**［滿潮汀線］滿潮時に於ける海面と陸地との交線。干潮汀線の對。

マントレット［mantelet］彈片防止用遮蔽幕又は楯。

マン-ホール［manhole］　潛孔(ダイヤ)・人孔(ジンコウ)。➔各項。

マンモス［mammoth］　もと原始巨象の意であるが，北大西洋航路に於ける快速優秀巨船を呼ぶに用ふ。

み

み-あみ［身網］一般に網漁具の中樞部。旋網では中央の魚捕部。定置網では囊網部。

み-お［水尾］船の進航する時その船尾の後方に漂ふ長く白い水筋。（航跡）

みお［澪・水脈］河海若しくは泥洲間の淺水部中，やや深くして船の通航し得る水路。（みよ）**——ぎ**［澪木］"みを"のしるしに立てる木。（澪標（ミヲツクシ））**——じるし**［澪標］"みをつくし"に同じ。➔同項。**——すじ**［澪筋］澪（ミヲ）に同じ。➔同項。**——つくし**［澪標］航行する船に澪を知らせる目標に立てた杭或は浮標を碇置して澪筋を明示するもの。（みをぎ・みをぐひ・みをじるし）

み-おし［水押・船首］和船の船首材。（みよし・によし）

みお-びき［澪引］水先案内をすること。**——の-ふね**［澪引の舟］水脈を案内する船。水先案内の船。

みがき-いし［磨石］甲板磨き石。（ハリ-ストーン(holy-stone)）

みかげ-ぶね［御影船］昔，攝州御影で石を運んだ船。

みか-しお［三日潮］陰曆の13日と28日との潮の滿干で，極めて急な速潮（ハヤシホ）。➪大潮（オホシホ）。

みか-しお［嚴潮］怒れる潮。怒れる濤（ナミ）。

みかずき-はま［三日月濱］三日月のやうに彎曲した海岸砂濱。（灣頭濱）

みき［幹］錨の本幹，卽ち主部をなす銲。（シャンク(shank)）

みぎ-いかり［右錨］右舷に備へ，錨泊に常用する主錨。（右舷錨・スターボード-アンカー(starboard anchor)）

みぎ-げん［右舷］船舶の後部から前部を見通した中央線の右側。發音を正確にするため海軍では"うげん"といはず"みぎげん"と呼ぶことに定められてゐる。**——ちょく**［右舷直］➪左舷直（ヒダリゲンチョク）・兩舷直。

みぎ-びらき［右開］帆船が右舷側より風を受けて前進すること。左開の對。（スターボード-タック(starboard-tack)）

み-ぎわ［汀］①滿潮と干潮の間の傾斜せる部分。又この間の堆積物をもいふことがある。②陸地が水に接する所。（みなぎは・なぎさ・みづぎに）

みくまり-の-かみ［水分の神］水の疏通分配を掌る神。天の水分の神と國の水分の神の2柱があつて，諸國にこれを祀るものが多い。

み-さお［水棹］水中に差して船を動かし，常には苫（トマ）を掛けるのに用ひる棹。

みず-あか［水垢］①水中に溶解したものが，水底に沈澱したり，石に附著したり，又は浮游するもの。（みあか）②硅藻。魚の食用となるもの。水中の岩や石についてゐる藍藻類や硅藻類に屬する下等な植物。鮎などの好んで食べるもの。

みず-あげ［水揚］①船舶に搭載した貨物を初めて問屋へ運びあげること。（陸揚（リクアゲ））②商人の船荷を陸に揚げて初めて店頭に出すこと。又，その所。③漁獲物を陸揚げすること。④經費などを差引かぬ漁獲高。

みず-あしに［水脚荷］水の底荷。➪底荷。

みず-あらい［水洗］油を排出したあとの油槽内に海水を充滿した後，船のポンプで再びその海水を船外に排出する油槽の洗淨操作の一法。➪蒸氣洗。

みず-うみ［湖］陸地の凹所に淡水が自然にたまつたもの。淡水湖・鹹水湖又火口湖・火口原湖・裾野湖・陷沒湖等の別がある。（湖水）➪湖沼。

みず-かき［水搔］櫂（オール）の先端の，水を搔くやや扁平の部分。（ブレード(blade)）

みず-き［水城］①天智天皇の御時，太宰府の近傍に堤を築き水を湛へた城郭。②水邊の城。

みず-きり［水切］艀取りした積荷を陸揚げすること。

みず-ぐい［水杙］①河水の流勢を殺ぐために岸に列ね打つた杙。②水尺（ミヅジク）に同じ。➔同項。

み-ず・く-かばね［水漬く屍］①海軍儀制曲の一。靖國神社參拜及び同祭日の遙拜式，その他一般招魂祭・忠靈塔の參拜等に奏するもの。②（古）水にひたる死體の意で，大君の御ためならばたとひ水中に朽果てようとも厭はずとの忠勇精神をいつたもの。

みず-げむり［水煙］①海や川沼などの水面に立ちのぼる霧。水蒸氣。②水の細沫の飛び散つて煙のやうに見えるもの。飛沫。みづけぶり。しぶき。

——しんごう［水煙信號］潜水艦が味方の監視艦艇から敵と誤認されるのを防ぐため鯨の息吹を眞似て水煙を吹上げて信號すること。

みず-さき［水先］①水の流れて行く方。②船・筏などが進むとき水を掻き分け碎く所。③船舶の航行する進路。④水先人。水先案内人。——き［水先旗］水先人がその業務に從事するため水先船に乘り込みたるとき晝間檣頭・旗竿又は帆の上部その他見易い所に掲揚してゐる旗。——く［水先區］一國の政府がその領海中，港の入口，海峽その他船舶の航行に危險なる區域として特に指定した區域で，その區域内に於いては水先人に限り船舶の水路を嚮導することが出來る。——しんごう［水先信號］水先人を要招せんとする時船長のなす信號。——せん［水先船］水先人が被嚮導船との交通等その業務に從事するために使用する船艇。船體外部を黑色に塗裝して船側及び大帆の上部に水先船たることを明示する。——ほう［水先法］水先人の資格・業務執行方法・權利義務・懲戒などを規定する法律。——めんじょう［水先免狀］水先人の資格證明の免狀。數年間實地航海に從事しその水先區の航路に熟達し，且つ船舶海事諸法規に通曉する者に就き試驗の上合格者に交付する。——よび［水先呼］水路嚮導卽ち水先人を招聘せんとする時に用ひる信號旗 G.（又は P.T.）をいふ。

みずさき-あんない［水先案内］船舶が航行危險の一定區域に出入する際，進路を案内すること。又その人。（水先人・パイロット(pilot)）——き［水先案内旗］水先旗ともいひ水先人が水先船に乘船してゐる間掲げるものにして方形旗の上半白，下半赤の旗。——にん［水先案内人］水先人に同じ。→同項。——りょう［水先案内料］水先人が水路を嚮導したる時その勞務に對し，船長に請求する案内料（報酬）をいふ。

みずさき-にん［水先人］一定の試驗に合格し水先免狀を有して港の入口，海峽その他船舶の航行に危險なる區域（水先區）に於いて船舶の水路を嚮導するを業とする者。水先案内人ともいふ。——くみあい［水先人組合］同一水先區の所屬水先人が水先業の健全なる發達のために組織する組合。

みず-じゃく［水尺］川岸や水中などに立てておく尺度を盛つた杙で，出水の高さを測るもの。（水杙）

みず-だめし［水試］船體の建造工事が了つてから，船内の水密を要する船艙や隔壁などに水を張つて水の漏洩の有無を檢査すること。

みず-だる［水樽］短艇に備へる要具の一で，飲料水を容れておく小樽。（ブレーカー(breaker)）

みず-でんま［水傳馬］飲料水を運搬する船。水取船。水船。

みず-ばしら［水柱］砲彈が海中に落下し又は魚雷が目的物に命中したときなどに，海面に高く柱のやうに上がる水。

みず-バラスト［水バラスト］水脚荷に同じ。→同項。

みず-びれ［水鰭］飛行艇の艇體の下部の兩側に取附けられた翼と同樣の形の構造物。翼端浮舟の代りに用ひられ飛行艇が水上に靜止せる時の安定を保つ。

みず-ぶね［水船］①飲料水を運搬する船。（水取舟・水傳馬）②浸水した船。

みず-まく［水幕］昔の海戰に，水に浸して矢玉を防ぐのに用ひた幕。

みず-めがね［水眼鏡］箱の底を拔いて硝子を嵌めたやうなもので，これを水につけて海の中を覗くと海底がよく見える。魚貝類を探す場合などに用ひる。

みずもの-にもつ［水物荷物］樽詰・壜詰等の液狀荷物。

ミズン-マスト［mizzen-mast］後檣。→同項。

みせい-かんせん［未成艦船］いまだ竣工してゐない艦船。未成艦・未成驅逐艦・未成潜水艦・未成艇などといふ。

み-せいぎょき［未成魚期］魚の體形・斑紋・色彩等は既に成魚に等しくなつてゐが性的にまだ熟してゐない時期。

みぞ［溝］龍骨の溝。（ラベット(rabbet)）

みそぎ［禊］河や海の水にひたり，身を淨めて罪又は穢れを祓ふ行事。

みぞ-みち［溝路］甲板の排水溝。（ウォーター-ウェー(water-way)）

みち-あみ［道網］魚群を知らず識らず誘導するために張る網。定置漁業の垣網などをいふ。（垣網・柵網）

みち-いた［道板］上陸する時に船から岸へかけわたす木板。

みち-いと［道絲］釣漁具で釣絲の鉤に接した一部分で鉤素（ハリス）を除いた以外の部分。綿絲・麻絲・澁絲・漆絲・人造テグス・本（ホン）テグス等を用ひる。

みち-しお［滿潮］潮がさして海水の表面が1日の中で最も高くなつたときの稱。

みち-ひ［滿干］滿潮と干潮と。海水が滿ちること干（ヒ）ること。（滿干（ヒ））・

干滿)

みちびき-かっしゃ[ミチビキカッシャ]［導滑車］索の引手の方向を變へるのに用ひる滑車で，多く切缺滑車が使用される。(リーディング・ブロック(leading-block))

みちひ-の-たま［滿干の珠］潮の滿干を自由にすることが出來るといふ珠。

みつぎ-ぶね［貢船］屬國などから時期を定めて君主に獻呈する貢物(ミツギモノ)を搭載した船。

みつ-ぎょ［密漁］規則を破つて竊に漁をすること。

みっ-こう[ミツカウ]［密航］法律・規則に違犯しひそかに渡航すること。

ミッドナイト-サン［midnight sun］夜半の太陽。盛夏又は眞冬に極地地方で見えるもの。

みつど-りゅう[ミツリウ]［密度流］溫度の高低・鹽分の多少に因る海水の密度の不均一のために，海水に傾斜を生ずることによつて起る海流。これが海流を起す最も重要な原因である。

ミッドル-ウォッチ［middle-watch］夜半直。→同項。

みつぷう-めいれい［密封命令］戰時機密保持の必要上，官憲が密封したまま船長に授ける命令で，船長は出港後これを開封しその命令に遵つて行動しなければならない。海軍では封密命令といふ。

み-つぼ［水粒］水泡の粒立つたもの。(みづたま・水滴)

みつ-ぼし［三星］オリオン座の中央に並んでゐる星。

みつめ-かっしゃ[ミツメカッシャ]［三目滑車］3孔を穿つた圓形の木片で，靜索等の端に附著し，これに締索を通して緊張するためのもの。鐵製のものもある。(デッド-アイ(dead-eye))

みつ-もう［密濛］霧・靄・雨・煙霧などで視界の極度に小さくなる天氣。

みつ-ゆ［密輸］國法を犯して密かに物資の輸入又は輸出をなすこと。密輸入又は密輸出といふ。

みつりょう-せん[ミツリヤウ]［密漁船］禁制を破つて密かに漁獵をする船。

み-と［水門・水戸］(古)河海の水の出入口。みなと。——**きょう**[ケウ]［水門敎］水先案内人。(新潟地方の語)

みな-かみ［水上］水の流れて來る上の方。(川上・上流)

みな-しも［水下］水の流れて行く下の方。(川下(カハシモ)・下流)

みなと［港・湊］船舶の安全に碇泊し得る自然的又は人工的の場所で，その使用目的により軍港・商港などに區別される。

みならい-いかん[ミナラヒイカウン]［見習尉官］軍醫・藥劑・主計・技術・齒科醫及び法務の各科がある。海軍部外の大學卒業者は中尉に，專門學校程度の卒業生は少尉に試驗の上採用任官させられるが，任官前何れも2箇月以上の見習期間は見習尉官となり地位待遇は少尉候補生の次である。

み-なわ[ミナハ]［水繩］和船で帆桁(ホゲタ)の中央に結びつけて，帆を上げ下げする繩。

み-はり［見張］航海・航空安全のため海上又は空を注視して船舶・陸地・島嶼・浮流物・敵機その他を警戒すること。又，その人をいふ。その場所に應じ艦橋見張・檣上見張などと呼ぶ。——**いん**[ヰン]［見張員］海軍用語。見張をする人。——**おけ**[ヲケ]［見張桶］捕鯨船の前檣頂に取附けてある見張人の入る鳥の巢のやうなもの。——**じょ**［見張所］海岸の要處に設け，海上の見張・通信及び氣象の觀測等を掌る所。——**ばん**［見張番］見張をする者。——**ぶね**［見張船］見張りをする船。

み-ふね［御船・皇船］天皇陛下の御召船。

みみ-ずな[ミヽヅナ]［耳索］帆の四隅の鳩目(クヮンメ)に取り附けた小索で，帆を帆桁に結び止めるのに用ひるもの。

みゃく-ずり[ミヤクヅリ]［脈釣］浮子を使用しないで釣絲に錘と鉤だけをつけ，竿先の脈動を見て釣る方法。

みょう-じょう[ミヤウジヤウ]［明星］宵の明星及び曉の明星の總稱。

みよし［船首・舳］へさき，船の先。和船の舳(ヘ)先の波を切る材から轉じて船首を意味することとなつた。水押の訛り。(みおし)

みん-せん［民船］普通，支那の沿海又は河川に於いて貨客の運送に從事する支那人所有の舟艇。主に帆船・艀等をいひ，又廣く原住民所有の舟艇で主に帆船・艀等をもいふ。⇨內河民船。

む

ムーアリング-ペンデント［mooring-pendent］繫船索。→同項。

むえん-かやく[ムエンカヤク]［無煙火藥］爆發に際し，殆んど煙と燃滓(モエカス)を生ずること

なく燃燒し，普通の火藥に比し强烈な爆發力を有する火藥。

む-かい［霧海］寒冷な海面に發生する霧層の俗稱。

む-がい［無礙］水道等に淺礁・沈船等のやうな，船舶の航行を阻礙するものがない時は該水道を無礙なりといふ。

むかい-かぜ［逆風・向風］進む方向から吹いて來る風。（むかふかぜ）

むがい-かんぱん［無礙甲板］船首から船尾まで平坦に續いてゐる見透しの甲板。（フラッシ-デッキ(flush-deck)）

むかい-しお［逆潮・向潮］進み行く前方より流れて來る潮汐。

むかい-ずな［迎索］大きな索を送り込むため頭初に附ける小索。（リーディング-ライン(leading-line)）

むかい-なみ［逆浪］船の進み行く前方より寄せ來る浪。

む-かく［霧角］霧中號角に同じ。➔同項。

むかで-ぶね［蜈蚣船・百足船］船首を蜈蚣の頭狀にし左右に櫂を多く列ねた船。蜈蚣の氣よく海蛇を制すといふ意味で造つた支那の船。

むかん-せんすいぐ［無管潜水具］苛性加里を充たした部分と，酸素の補充と呼吸氣の循環とを促す部分とより成る呼氣淸淨裝置のある潜水具。海上よりポンプにて空氣を送る要なく，海底に於いて全く獨立に呼吸することが出來る。

むかん-びょう［無錨錨］山字錨に同じ。➔同項。

むきず-ふなにしょうけん［無疵船荷證券］完全船荷證券・無故障船荷證券に同じ。➔同項。瑕疵又は不完全船荷證券の對。

むけいこく-げきちん［無警告擊沈］軍艦・驅逐艦・潜水艦などが相手方の商船に，何等警告を與へることなく突然これを擊ち沈めること。

む-こう［霧虹］霧の晴れる兆候として霧の中に現はれる微かな白光の虹に似た部分。（霧中弧光）

むこう-こ［無口湖］排水口のない湖。

むこうばらい-うんちん［向拂運賃］貨物が到達したる後，到達港に於いて支拂ふ運賃。（先拂運賃）

むこしょう-ふなにしょうけん［無故障船荷證券］通常，船荷證券に記載せられる約款以外に，何等積荷の數量・內容・包裝等に關し，所持人にとり不利益なる留保がなされてない船荷證券。卽ち完全なる積荷に對して發行せられる船荷證券で完全船荷證券ともいふ。不完全船荷證券の對。

むこんせき-げきちん［無痕跡擊沈］雷擊により船と人とをともに沈めて一切の痕跡を殘さぬこと。

むしまげ-ろっこつ［蒸曲肋骨］木造船の建造に當り，肋骨に天然曲材を得ること困難なる場合，これに代用する方法として，木材を蒸氣にて蒸し所要の形狀に曲げた肋骨。（ベント-フレーム(bent-frame)）

む-しょう［霧鐘］人力若しくは自動機で，晝夜の別なくある時間を隔てて鳴らす霧中信號。普通，浮標の頂部に裝置し，海波のため浮標の動搖により鐘を打鳴らすものが多い。

む-しょう［無章］特技章を有せざること。➔特技章。

むしろ［蓆］彈丸・裝藥その他，重量物を甲板に置く時その敷物となすもの，或は室の入口に置きて靴底を拭ふのに使用するもの。（マット(mat)）

むせいげん-せんすいかん-せん［無制限潜水艦戰］國際法を無視し，一定の水域に出入する船舶は，敵船たると中立國船たるとを問はず，無警告にて擊沈すること。

むぜい-こう［無稅港］自由貿易港に同じ。➔同項。

む-せん［無線］無線電信・無線電話の通稱。

むせん-こうしんけん［無線交信圈］無線を以て通信を交換し得る限られた區域。

むせん-こうほう［無線航法］①飛行機が或る定所から發せられる無線電波を感受し，それを傳はつて目的地に向つて飛行すること。②無線標識局よりの無線電波の測定によつて，自己の船位を知り航行する方法。（無電航法）➔無線標識局・無線方向測知所・無線方位測定機。

むせん-こうろひょうしき［無線航路標識］無線電信を航路標識に利用したもの。これに無線標識局と無線羅針局によるものとの2種がある。➔無線標識局・無線羅針局。

むせん-しつ［無線室］船舶の無線電信・無線電話の送受信をなす部屋。

むせん-しんごう［無線信號］無線電信信號・無線通信に同じ。➔無線電信信號。

むせん-そうじゅう［無線操縱］電波を利用して遠方にある機器を操縱すること。艦艇・水雷・航空機等軍事上の應用が主要なもの。

むせん-つうしんし［無線通信士］主任無線通信士の命を承け無線通信部の業務を分掌する船舶乘組員の一。主任無線通信士は船長の命を承け，無線

通信部に屬する業務を掌理する。

むせん-でんしん［無線電信］ 兩所を連絡するのに，導線を用ひず，電磁波の作用を應用して行ふ電信。火花の放電によつて電波を放送し，それを感受して記錄したのであつたが，その後電弧式・眞空管式などが發明され，受信裝置も音色をもつて受信するやうになつた。略して無電又は無線といふ。**——きょく**［無線電信局］船内に設けられた無線電信機を具へ，無電通信事務を取扱ふところ。**——しんごう**…ガウ［無線電信信號］この信號には無線電信局から發する無線報時信號，氣象臺から發する氣象通報，無線標識局から發する無線方位信號などがある。

むせん-でんわ［無線電話］ 電線を用ひず電波により通話をする電話。

むせん-ひょうしき-きょく…ケウ［無線標識局］ 無線航路標識の一。船舶からの求めに應じ，又は一定時刻に無線電信符號を發信し，船は經緯度の公示されてゐる無線標識局より發信する特殊の符號を無線方向探知器で受信し，同局よりの方向を測定して自分の位置を決定し，安心して航海を續けることが出來る。燈のついた燈臺のやうに，目では見えないが耳で聽いてその方向を知らせてくれるので無線燈臺ともいふ。《ラジオ-ビーコン(radio beacon)》

むせん-ふうし［無線封止］ 我が所在及び動靜などを敵に探知せしめざるために，無線の送信電波を一切發しないやうにすること。

むせん-ほうい-そくていき…ケウ［無線方位測定機］ 霧中航行の際などに海岸の無線方向測知所から發する電波の方向を受信し，方位線を海圖上に記載して，本船の位置を求める。又，霧中船舶相互に連絡を取つて衝突を豫防するためにも本機を使用する。《無線方向探知機》⇨無線方向測知所。

むせん-ほうこう-そくちしょ…ケウ［無線方向測知所］ 濃霧・降雪などの場合，船舶の航行を安全ならしめるために，方向探知機を備へた海岸局に於いて船舶からの要求を俟つてその發する無線電波の方向を測定し，これをその船舶に通報する無線羅針局。《ラジオ-コンパス-ステーション(radio-compass-station)》

むせん-ほうこう-たんちき…ケウ［無線方向探知機］ 無線方位測定機に同じ。→同項。

むせん-ほうじ…ケウ［無線報時］ 無線電信を以て定時を報じ艦船の時辰を整合せしむること。

むせん-よびだし-ふごう…ガウ［無線呼出符號］ 無線電信局所相互間で呼出すときに用ひる符號。信號符字を以て呼出符號とし，船舶に於いてはこれによつて船名と國籍とを明かにしてゐる。⇨信號符字。

むせん-らしん-きょく［無線羅針局］ 無線航路標識の一。船舶から發した電波の方位を無線局で測定して，船へ通知してくれる所。

むちゅう-ごうかく…カク［霧中號角］ 霧の深い海上で船の位置を警戒し衝突を豫防するために鳴らす角喇叭型の信號器。主として帆船及び他船に曳かれて運航する船舶に使用する。《フォッグ-ホーン(fog-horn)》

むちゅう-こうこう…カウ［霧中航行］ 濃霧の中を航行すること。

むちゅう-しんごう…ガウ［霧中信號］ 降雪その他船舶が霧中・暴風雨など展望の妨げある天候の際，海難事故を避けさせるため船舶相互の位置，又は燈臺・燈船などの位置を知らせるための音響信號。航行中の汽船は汽笛・汽角，帆船及び他船に曳かれて運行する船舶は霧中號角を用ひ，船舶碇泊中は號鐘を鳴らす。燈臺・燈船などのは霧笛・霧砲・爆發信號などを行ふ。《霧信號(キリシンガウ)》

むちゅう-ひょうてき…ケウ［霧中標的］ 濃霧の際，艦隊又は船團が單縱陣にて航行中，前續諸艦の後尾に曳いて白波を立たせ，後續各艦はそれを目じるしにして事故を避けるための浮標。

むちゅう-ふひょう…ヘウ［霧中浮標］ 霧中，後續艦の目標に供するため前續艦の艦尾に曳航する浮標。《霧中標的》

むちょう-てん…ウ［無潮點］ 潮浪の回轉中心で潮汐の昇降がない所。

むてき［霧笛］ 燈臺・燈船などに備へ附けてある霧中信號器の一種。蒸氣又は壓搾空氣により發聲弁を働かせサイレンを吹き鳴らして音響を遠方に傳達するもの。

むてき-かんたい［無敵艦隊］ 1588年西班牙王フィリポ二世が英國を攻めるために派遣した大艦隊。インビンシブル・アルマダ(Invinsible Armada)。現今は必勝の帝國海軍の艦隊の意味に用ひられる。

むてん［無電］ 無線電信・無線電話の略語。

むとう-こうこう…カウ［無燈航行］ 船舶が夜間航行の際，一切の燈光を外に漏れさせないこと。航海燈を點けないで航行すること。

むな-おび［胸帶］ 測鉛手が投鉛の際，胸に著ける帶。《ブレスト-バンド(breast-band)》

むなびれ［胸鰭］　魚類の鰓の後方にある鰭。左右2枚あつて緩かな游泳時に使用する。

むふう-たい［無風帶］　海洋上で年中又は季節によつて風の殆んど無くなる地方。赤道附近のものを赤道無風帶，緯度30度附近のものを温帶無風帶といふ。

む-ほう［霧砲］霧・雪・豪雨又は天氣濛濛の時に，燈臺から晝夜の別なく一定の時間を隔て火藥によつて放つ霧中信號空砲。

むぼうび-こう［無防備港］一切の軍事的防備を施設してない港。

むら-ぎみ［村君］　漁撈指揮者又は漁業主。（むらぎん）

め

めいあん-とう［明暗燈］　燈臺用語。不動光で一定の間隙毎に俄然1回の全暗を現はし，明間は暗間と同一であるか若しくはやや長いのを例とする。

めい-こ［明弧］　燈臺から發射する燈光の照らす範圍を示す圓弧。

めい-さい［迷彩］　自分の存在や行動を晦(クラ)まし，敵の攻擊を免れるために種々な彩色を施すこと。（擬裝・カムフラージ(camouflage)）

めい-すう［命數］　大砲の壽命。砲の精度を害しないだけの發射數の限度。

めい-ちゅう［命中］　砲彈や魚雷などの目的物に正しくあたること。（的中）

——**だん**［命中彈］射彈の目標に命中せるもの。——**りつ**［命中率］發射彈數に對する命中の割合。

めいてき-ふひょう［鳴笛浮標］霧中航行の船舶のため笛を吹鳴し音響を發する裝置を施してある浮標。

めいめい-しき［命名式］　船の進水にあたり，その船に名をつける儀式。命名が終ると，船體は船臺を離れて水中に滑り込んで浮ぶのでこれを進水式といふが，現今海軍では命名式を行ひ進水式とはいはない。

めい-めつ［明滅］　燈光の明るくなつたり消えたりすることで，光の强さの不規則に增減する點に於いて閃光と異なる。

めい-れい［命令］作戰・作業・行動・役務等に關する重要なる令達。——こ

うろ［命令航路］政府又は地方廳の命令によつて營む定期航路。使用船・航海度數・寄港地・郵便物運搬等につき特定の條件を附けられる代りに補助金を交付されるのを常とする故に又補助航路ともいふ。自由航路の對。

メガホン［megaphone］傳聲器。→同項。

めくら-ひこう［盲飛行］盲目飛行(モウモクヒコウ)に同じ。→同項。

めくら-ぶた［盲蓋］　荒天の際，舷窓・天窓などの硝子が破損した場合に，海水の侵入するを防ぎ，若しくは戰時・演習などで燈火の舷外に露はれるのを防ぐための鐵蓋。（デッド・ライト(dead-light)）

めくら-ぶね［盲船］　昔の軍用船。無垣の船で，龜の甲のやうに棟木に蝶番で板を張附け，その屋根板に狹間を設けて，內より外を覗ひ發砲し，或は竹製の火藥入籠を出して敵船に火を放つた。

めざし-つなぎ［目刺繫］　鰯などを數尾，目をさしつらねたやうな形に，數隻の船を横に舫つて碇泊すること。

メス［(蘭)mes］水夫の用ひる西洋形の小刀。（ナイフ(knife)）

メス-デッキ［mess-deck］下士官・兵の居住する甲板で食卓を並べる所。（居住甲板）

め-ずな［眼索］環狀をなした索で，滑車の帶索等に用ひるもの。また短艇の操舵櫂（スチャリング-オール＝steering-oar）をこれに通すことなどに用ひられる。

メス-ルーム［mess-room］高級船員の中，二等運轉士以下の食堂。略して"メス"ともいふ。

メタセンター［metacenter］船體が正平な時，その重心を通る垂直線と，船體が傾いた時の重心を通る垂直線との交點。この重心上の高さが船の動搖に著しく影響する。（傾心）

メタセントリック-ハイト［metacentric-height］重心よりメタセンターまでの高さ。

めつけ-いた［目附板］　木材を搭載する貨物船に於いて，甲板積木材を縛著するために，一定の間隔を置いて舷側厚板に鋲著してある鋼板。

メッセンジャー［messenger］揚錨機の錨鎖車，又は車地の胴に嚙合はざる大なる錨鎖又は錨索を捲込むために取附ける補助索。また荒天の際，揚錨機の力のみにては揚錨不可能のとき，補助索を揚貨機にて捲き錨を揚げることもある。

メッセンヂャー-ライン［messenger-line］洋中難破船を曳航する場合などに，彼我の間に連亙せしめ，通信書類の交換及び必要に應じリービング-ラインの送致に備へる索。

メート-レシート［mate-receipt］船積貨物受取證。船員受取證。積荷の積込を終りたる時，一等運轉士が荷造人に對し發行する積荷の受取證で，これと引換に船荷證券を發行し，又は船荷證書の代證とする。

め-なみ［雌波・女波］男波が高く强く一つ打つ前に，低く弱く二つ打ち寄せる波。男波の對。

めん-えき［免役］兵役法施行令用語。兵役免除に同じ。➔同項。

めん-かむり［面被］游泳の基本練習の一。眼をあけて顏面を充分に水につけ，少しづつ息を吐き出しながら出來るだけ長く敲足と同時に練習する。

めんきょ-ぎょぎょう［免許漁業］行政官廳の免許を受けて行ふ漁業。卽ち漁業權となる漁業で，他人を排斥し，その漁場を獨占して行ふことが出來る漁業。定置漁業・區劃漁業・專用漁業・及び特別漁業の4種がある。

メーンジャー［manger］錨鎖孔から流れ込んだ水が，後方に流れぬやうに仕切がしてある甲板。

メーンジャー-ボード［manger-board］艦首水除(カンシュスイジョ)。➔同項。

メーンスル［mainsail］大檣下桁(メインヤード)の帆。

めんせき-いふ［免責委付］船長が法定の權限内に於いてなしたる行爲又は船長その他の船員がその職務を行ふに當り他人に加へたる損害につき，船舶所有者は航海の終りに於ける船舶・運送賃及びその船舶につきて有する損害賠償又は報酬の請求權の範圍を限り責任を負ふもので，これ等の權利を債權者に讓渡するときは船舶所有者の責任は消滅する，斯くの如く船主が責任を免れんがために債權者に上記の權利を讓渡することを免責委付といふ。➪委付。

めんせき-やっかん［免責約款］船主が損害發生の場合その責任を免れるためになす特約で，船荷證券・貨物引換證・傭船契約書等に特に記載せられる免責條項。

メーン-タンク［main-tank］潛水艦に裝備してある水槽(タンク)で，これに滿水すれば艦の大部分の浮力を減殺せられ潛航が出來る。メーン-バラスト-タンク(main-ballast-tank)の略。

めん-はんぷ［綿帆布］木綿製の帆布で天幕・スクリーンその他雜用に供せられる。

メーン-ブレース［main-brace］大檣最下桁の轉回索。

メーン-マスト［main-mast］大檣。➔同項。(主檣)

メン-ロープ［man-rope］握索(ラッタル)。➔同項。

も

も-うお［藻魚］岩礁があつて海藻の繁茂する所に棲息する魚類の稱。めばる等の類。(もいた)

もう-きさ［濛氣差］氣差に同じ。➔同項。

もう-げき［猛擊］猛烈な勢で攻擊すること。

もうし-うけ［申受］士官室・士官次室などで定食以外の食品をあつらへること。

もうし-つぎ［申繼］①前任者が後任者に所管事項をいひつぐこと。②當直將校などが交代の際，必要な事項を次直の者にいひつたへること。

もう-しゃ［猛射］猛烈に敵を射擊すること。

もう-だん［盲彈］彈著後炸裂しない砲彈。

もう-どう［艨艟］いくさぶね。戰艦。

もう-ばく［猛爆］はげしく爆破すること。爆彈ではげしく打ち壞はすこと。

もう-ばく［盲爆］軍事上の目的如何を問はず，盲滅法に飛行機から爆彈を投下すること。

もうもく-ひこう［盲目飛行］針路を定むべき外界の目標を視認せずに，計器の指示のみにより飛行すること。(めくら飛行・計器飛行)

も-くず［藻屑］水中にある藻などの芥(ゴミ)。略して"もく"といふ。

もく-せん［木船］"きぶね"の②に同じ。➔同項。——**ほけん**［木船保險］木造船舶に對する海上保險で，本保險は木船保險法に基づき，木船保險組合が普通保險及び戰爭保險の元受をなし，これを政府が再保險する。

もく-そく［目測］計器を使用せずして目標の距離を目で見て測定すること。

もくてき-こう［目的港］仕向港・到達港に同じ。➔同項。

もくてつ-こうぞうせん［木鐵交造船］龍骨・船首材・船尾材その他内外の兩板には木を用ひ，肋材・梁材・内龍骨等には鐵或は銅を用ひて造つた船舶。略して木鐵船といふ。

もくひょうずき-しずめに［目標附沈荷］難船の時，船脚を輕くする等のため，浮標を附けて水中に投する貨物。

もくひょう-てい［目標艇］探照燈の探照稽古の際，その目標となるために所要の地點に赴き，各艦の探照を始めたる後，運動を起し潛航してこれに近接するやうに行動する艦載水雷艇・内火艇又は汽艇。射撃(空放)訓練の際に併用する。

もぐり［潛］潛水夫の俗稱。

もけい-せん［模型船］船の用途・航海方面などを條件として，理想的の船を建造するため，蠟でその船體を計畫どほりの模型につくり，實驗用のプールに浮べてこれを走らせ，船型・推進器・機關の馬力などに就いてあらゆる試驗をする。

もじ-あみ［綟子網］漁網の網地の一種。編まずに織つたもの，極めて細目でアミや稚魚を漁獲する。"もじ"又は綟子織ともいふ。

もじり［筌］"うへ"に同じ。→同項。

モスキトー-フリート［mosquito-fleet］蚊(カ)艦隊。→同項。

モーター［motor］發動機。——**シップ**［motor-ship］ディーゼル機關で推進される船舶。(ディーゼル船・モーター船)——**セーラー**［motor-sailor］小帆を備へた大型馬力の巡航船から，補助發動機を備へた純帆走ヨットに至る迄の變態的な補機巡航ヨット。——**ボート**［motor-boat］發動機艇(船)に同じ。→同項。

もたれ　流の岸に近い淺い所より，急に流れの中心へ深くなつてゐるその傾斜の個所。

もち-こし［持越］運送品を誤つてその仕向港以遠の港まで運送すること。

もち-しお［望潮］陰暦15日の最も高い潮。

もち-ば［持場］自分の受持の場所。己れの配置されてゐる所。

もち-ぶね［持船］所有船。

もっ-く［木工］工作兵のうち木具工業に從事する者の舊稱。

もっ-こうはん［木甲板］木で張つた甲板。鋼甲板の對。

もっそう-せん［持双船］①鐵船數隻を並べ木材を横桁にしこれに捲揚機を取附け人力若しくは動力によつて捲く裝置を施してある沈没船引揚作業用の船。②日本式捕鯨法にて捕獲した鯨を吊つて陸岸に運搬する船。

モデル-ボート［model-boat］ヨットの模型や動力を備へたパワー-ボート・商船・驅逐艦などの寫實的模型。池や川に浮べて走らせ設計の成績を競ふ。このために鐵筋コンクリート池を造り周圍に觀覽者を立たせる特別の設備を施したものがある。

もと-がま［主罐］船舶の推進用に使ふ蒸氣を發する主要なる罐(カマ)。(主汽罐・メーン-ボイラー(main-boiler))

もと-きかい［主機械］推進器を回して，船舶の推進用をつとめる機械。略して主機といふ。(メーン-エンジン(main-engine))

もとこぎ-ぶね［元漕船］鯛縛網漁業を行ふ際に，網船・船頭船・浮子遣(ブイヤリ)船と協同作業する船で，振網を積み沖に到り，魚見役の指圖によつて2艘の元漕船は，各分載した振網の兩端を結合し，これを海中に投じつつ左右に漕ぎ開いて半月狀に延べ，網の兩端を曳き海岸に向つて進むもの。元漕船には各々先曳の漕船を附けるのでこの名がある。

もと-じょうき-くだ［主蒸氣管］主塞止弁(モトシヤツク)箱に裝置した大形の管で，蒸氣を主機械に引込むもの。

もど-せ［戻せ］轉舵した後，針路に向つて船首を回轉せしめるために舵柄を戻す操舵法をいふ。(イージー-ヘルム(easy-helm))

もとち-ぬれ［元地濡］積込み前に受けた積荷の濡損。

もと-の-はり［元の針路］操舵號令詞。一時的變針を復舊せんとするときに用ひる。

もと-ぶね［本船］小舟をつれてゐる大きな船を小舟から指していふ語。(親船(オヤブネ)・本船(モトブネ))

もどり［戻］物を刺して引懸けるために，鉤(ヘリ)の先端に逆に出てゐる尖(トガリ)，釣針や銛(ヤス)の戻。(かり・かかり)

モニター-アンカー［monitor-anchor］荒天になつた場合に，碇泊中のヨット等が錨索の中途に小型錨を更に縛りつけ，二つの錨で碇泊の目的を達せしめようとする，その小型錨。

モニトル［monitor］回轉砲塔を有する吃水淺く舷の低い海防艦で，沿岸の作戰に使用するもの。

ものあげ-ば［物揚場］積荷を陸揚げする場所。(陸揚場・荷揚場)

もの-ずき…ツキ［物附］鯉の游泳群で，鯨や漂流物についてゐるもの。

ものほし-ずな…ツナ［物乾索］艦船で洗濯物及び濡物を乾すのに用ひる索。（クロス-ライン(clothesline)）

ものみ-ぶね［物見船］見物のために乗る船。（觀覽船）

も-ば［藻場］海底に海藻の生えてゐる所。多くの魚の産卵場となり，幼魚の安息場となるので大切にする。

ももさか-ぶね［百積船］（古）多量の荷物を積む大きな船。また，百尺もある大船。"ももさかのふね"ともいふ。

もや［霧・靄］霧の深いもの。

もやいモヤヒ［舫］舫索(モヤヒナワ)の略稱。→同項。——**かかり**［舫繋］①錨を入れた船に，次の船をもやひ，又その船に他の船をもやひ，幾艘もこのやうにして碇泊すること。②出港直前に錨鎖を繋索に代へて浮標に繋留する狀態をいふ。——**ぐい**…グヒ［舫杙］船もやひする時船をつなぎおく杙。——**ずな**…ツナ［舫索・繋綱・纜］①船をつなぐ綱。船と船とを繋ぐ時のみならず船を岸につなぐ綱をもいふ。②短艇の艇首に取附けた索で，艇を繋留するために用ひるもの。（ペーンター(painter)）——**ぶね**［舫船］互に繋ぎ合はせて泊つてゐる船。——**むすび**［舫結］舷外に作業する時，身を托し又は短艇の舫索(モヤヒナワ)を縛著繋留する時など多くの作業に用ひられる結索法。（ボーライン-ノット(bowline-knot)）

もや-うモヤフ［舫ふ］①船と船とを繋ぐ。②船を繋ぎ止める。

もり［銛・鏢］魚類・海獣などを突き刺す漁具。

モールス-しんごう…ガウ［モールス(Morse)信號］發光又は音響により文字を表はす符號を發して行ふ信號。

モールド［mould］造船の時に船體各部を實物大の圖にあらはしたもの。

もろこし-ぶね［唐土船］唐船(カラフネ)に同じ。→同項。

もろた-ぶね［諸手船］古代に用ひられた刳舟(クリフネ)の一種で，多くの人が漕ぐ早い舟。現今島根縣國幣中社美保神社の12月3日に行はれる神事に使はれる船。天孫降臨の際大巳貴尊(オホミムチノミコト)の命を奉じ，稲背脛尊(イナセハギノミコト)が美保關の事代主神(ヨトシロヌシノカミ)に使された時にこの舟を用ひられたといふ。

もん［門］大砲や魚雷發射管などを數へる語。

もん-きょう…ケウ［門橋］鐵舟2～3隻を適當な間隔に開きならべ，その上に桁を架し板を敷いたもの。陸軍で馬匹・車輛などを渡河させる際に用ひる。

モンスーン［monsoon］季節風。→同項。

や

やえ-の-しおじヤヘノシホヂ［八重の潮路］遠い海路。遙かな潮路。

やお-あいヤホアヒ［八百會］潮などが方々から集り合ふ所。

やかた-ぶね［屋形船］家の形に屋根の設けてある和船。略して"屋形"ともいふ。小なるを小屋形若しくは屋根船と稱す。

やかん-せんとう［夜間戰鬪］夜中に行はれる戰鬪。略して夜戰といふ。晝間戰鬪の對。

やきくさ-ぶね［燒草船］昔の船戰に燒草を船に積んで敵船に近づき，風上からこれに火をつけて敵船を燒く戰法に用ひた船。

やきだま-きかい［燒玉機械］重油機關の一種で，燒玉と稱する球形部を氣筩の先端に造り，それを豫め熱し置き，氣筩の内部に噴射した重油に點火しディーゼルと同樣な作用をする機關。（セミディーゼル機關）

やく-いん…ヰン［役員］軍艦乘組の下士官・兵は平常大抵1～2ヶ月づつ交代で艦の保安清潔を保つ役に當る，その人をいふ。衞兵・傳令・取次・内外舷掛・掃除番・厠番・從兵・酒保掛・守燈番・艦底掛等。

やくざいか-しかんヤクザイクワシクワン［藥劑科士官］海軍藥劑少尉～海軍藥劑少將。藥劑の事務に從事する海軍高等武官。

やく-そう［躍層］湖や海の溫度は，表面から或る深さに達すると，急に冷くなり，それより上層にも下層にも溫度の急激な變化がない。この溫度の急に降るところを水溫躍層といふ。

やく-のう…ナウ［藥嚢］15糎以上の砲では，火藥を嚢へ入れて用ひる。このふくろを藥嚢といひ，大口徑砲には1發分の火藥として2嚢を用ひることがある。

やく-ぶね［役舟］①民家の船持より公役に出した船。（課船・御用船）②公用に從事する船。（官船）

やく-みず…ミヅ［厄水］三陸地方で春先に，海水が急に濁つて變色する現象を

いふ。他の地方では“潮腐れ”“濁り水”などと呼び，大抵の年は一時魚が捕れなくなる。

やぐら-ぶね［矢倉船］ 敵狀を見，又は矢等を發射せんがための樓，卽ち矢倉の設けある船。《樓船(ロウセン)》

やぐら-もの［矢倉者］中古水軍で，楫取頭(カヂトリ)に次ぐ職名で，軍船の前部櫓(ヤグラ)の上を支配した者。

や-こう…カウ［夜航］夜間に航海すること。《よぶね》

やこう-ぐもヤクワウ…［夜光雲］極めて特殊な雲で，日沒後なほ空に光つて見える雲。非常に高く65～160粁位。非常に高い所に出るため，地上では全く日が沒しても，なほ地球の陰にならず太陽の光が當つてゐるためである。《眞珠雲》

やこう-ちゅうヤクワウ…［夜光蟲］原生動物の一。海水中に群れゐて，夜分に燐光を發するもの。

やしなわ-あみ…［椰子繩網］海苔(ノリ)の養殖に用ひるもので，網地を種子の附著層に水平に張つてこれを附著成長させる。

や-しゅう…シフ［夜襲］夜間に敵を襲ふこと。

や-しょく［夜食］午後10時より午前4時迄の間に業務に從事した者へ，航海中などに給與する食事。

やす［籍・魚叉・稽］漁具の一種。長柄の頭に鐵製の3～7股の叉(マタ)がつけてあつて，水中に潜んでゐる魚を突刺して捕へるために用ひるもの。

や-せん［夜戰］ 夜間の戰鬪。

ヤーダーム［yard-arm］ 桁(ヤード)の兩端の細くなつてゐる部分で，索具を裝する所。

やちゅう-しょうじゅんき…［夜中照準器］艦砲の夜間照準に使用する器具。2個の小電燈を以て，照星及び照門を照し，照準を行ふ。魚雷發射の際も亦同樣である。

やちゅう-にやく［夜中荷役］夜荷役に同じ。➔同項。

やっ-きょうヤクケウ［藥莢］金屬で筒のやうな形に作り，內に火藥を入れ銃砲に裝塡して發射するに用ひるもの。

やっこ-みよし［奴船首］荷船の繩錨(ナハイカリ)のない船首。⇨髻(カモヂ)。

ヤード［yard・桁］桁(ヤード)。➔同項。

やとい-ボーイ…［傭ボーイ］艦船に傭はれてゐる給仕の通稱。《從僕》

やな［築］定置漁業の一。木をならべて水を堰き止め，一部をあけ，そこへ上流から流れて來る魚を，簀の上に受けて捕へる裝置。**——うんじょう**…ジヤウ［築運上］江戸時代に築を設けて漁獲するものに公課した租稅。

やね-ぶね［屋根船］ 川遊に用ひる屋根のある小舟。《日除船(ヒヨケブネ)》

やはん-ちょく［夜半直］正子より翌日午前4時までの當直勤務。ミッドル-ウオッチ(middle-watch)ともいふ。

や-びき［矢引］ 漁業者常用の長さの單位。矢を引く姿勢の兩手の拳から拳までの長さ。

や-ひょう［野氷］海岸附近に生長した氷の，大區域に亙つて存するもの。初めは薄く次第に厚くなる。

や-ひょう…ヘウ［夜標］航路標識の一。夜間航行の目標となるため，燈臺などの如く點燈裝置のあるもの。⇨航路標識。

や-ほ［彌帆・矢帆］ ①大船の舳に張る小帆。②本帆に重ねてかける帆。**——ばしら**［彌帆柱・矢帆柱］ 大型和船の船首にある彌帆(イヤホ)をかける小さい帆柱。《やほのはしら》

やま 釣絲の俗稱。“よま”と稱する地方もある。

やまじ（方）夏から秋にかけてよく吹く南寄りの强烈な風。颱風に伴ふ暴風で瀨戸內海全地域に分布されてゐる語。

やまじ-いかり［山字錨］ その形狀は十字錨とほぼ同じく，錨孔に引込んだ儘收錨し得るため笄がついてゐない。近時艦船の大部は主錨又は副錨としてこの種の錨を用ひる。《ストックレス-アンカー(stockless anchor)》

やま-だて［山立］ 中古水軍で航海の事を掌つた航海長の如き役目の職名。

やま-ちょう［山帳］良好な釣場の位置を記錄したもの。漁場から見た陸の山々や煙突・大樹などの重なり具合等をスケツチした帳面。次回に釣場を探す場合の資料とするもの。

やまとがた-ぶね［大和型船］ 西洋型船に對する日本船の代名詞。大和船ともいふ。

やま-み［山見］ ①魚群を見張すること。②舟を乘り出して岩礁の所在を知るために陸上の目標をつきとめること。

やり-だし［遣出］ 船の舳に突出してゐる帆桁。《斜檣》

やわた-ぶね…［八幡船］ばはん船の別名。➔同項。

ヤーン［yarn］ 纖維を右に撚り合せたもの。

ヤンノウ-せん［ヤンノウ船］ 外房州等で鮪延縄漁業に使用された和船。船首部と船尾部とに水密な室を備へ，幾種かの檣を持ち，舳を高くし，割合に長さをつめてある。略してヤンノウとも呼び，勇敢に活動したことで聞え，遭難船も多く出した。發動機船になつて今は無い。

やんばる-しん［山原船］ 琉球の船の一種。支那ジャンク型式を採り日本式縫釘で釘著した大型の船で，兩舷には所謂眼玉裝飾を施してあるもの。

ゆ

ゆあつ-て［油壓手］ 潜水艦のベント弁開閉の配置に就く兵員。

ゆう-えいイウ‥［游泳］水泳。 ——**せいぶつ**［游泳生物］自分の力で水中を游泳する生物の總稱。⇨游泳動物。 ——**そう**‥サウ［游泳槽］長途航海中，船客の無聊を慰めるために，優秀客船内に設けてある小規模なプールで，十數名同時に游泳することが出來る。この設備の無い船では大きなケンバスで作つた浴槽で，熱帶地方航行中船客を游泳させるやうにしてある。 ——**たいけい**［游泳體形］水面に伏し又は仰臥するのを平體，水面を枕とするやうに横臥するのを横體，水中に立つのを立體といふ。 ——**どうぶつ**［游泳動物］ネクトン(nekton)の譯語。浮游生物(プランクトン＝plankton)の對語で，自力で游泳する動物の總稱。

ゆうかん-びょうイウ‥ベウ［有銹錨］ 銹(カビ)のある錨。

ゆう-きイウ‥［友機］①編隊の各飛行機が相互間に於いて自機以外の飛行機をいふ。(列機) ②一般に飛行機が他の味方飛行機を呼ぶ場合にも用ひる。

ゆうきゃっ-こイウキャク‥［有脚湖］ 水の流出すべき河川を有する湖。

ゆうきん-るいイウ‥ルキ［游禽類］水上を游泳する鳥類。

ゆう-げきイウ‥［遊撃］豫め敵を定めず，時機に應じて味方を援助し，敵を攻撃すること。 ——**たい**［遊撃隊］遊撃を行ふ艦隊。

ゆうこう-こイウ‥［有口湖］有脚湖に同じ。➔同項。

ゆうこう-すいしんイウカウスキ‥［有效水深］船舶の航行に利用し得べき河海の深さ。

ゆうこう-ばりきイウカウ‥［有效馬力］仕事に使用し得べき正味の馬力。(實效馬力)

ゆう-しおユフシホ［夕潮］ 夕方に干滿する潮。

ゆうしゅう-かいイウシウクワイ［有終會］海軍有終會の略稱。➔同項。

ゆうしゅう-せんイウシウ‥［優秀船］船型・設備・性能・速力等，在來船より優秀なる船舶。

ゆうしょう-きイウ‥［優勝旗］短艇競漕・陸上競技・小銃射撃などに優勝した艦船部隊，その他の團體に授與される旗。

ゆうしょう-はいイウ‥［優勝杯］戰技に優秀なる成績を擧げたる軍艦に對し，海軍大臣より授與せられる銀杯。その他短艇競漕の優勝艇に授與せられる杯など。

ゆうしょう-りゅうイウ‥リウ［湧昇流］ 沖の方向に海流が流れて，海岸の表面水を運び去ると，下から冷い水が上つてきてこれを補ふ現象。

ゆうすい-るいイウスヰルキ［游水類］海產哺乳類中の一種。現今は海洋に棲むけれど，元は陸上に於ける哺乳類たりしもの。鯨・海豚(イルカ)の類。

ゆう-せいイウ‥［遊星］太陽を中心として，各自の軌道に從つて公轉する星の總稱。質量の大なる水星・金星・地球など9個を大遊星，その他を小遊星といふ。(惑星・行星)

ゆうぜい-ひんイウ‥［有稅品］①關稅定率法その他により通關の際關稅を賦課せられる貨物。②又一般的に稅を賦課せられる貨物。無稅品の對。

ゆう-せんイウ‥［遊船］遊びの船。遊山船。鮎獵見物の船など。 ——**やど**［遊船宿］遊船を仕立てて貸出すことを業とする家。(ふなやど)

ゆう-せんイウ‥［遊線］測程線に取り附けた扇形板を海中に投じた時，船尾に起る渦水は扇形板の流出を暫く妨げるから，その渦水をかはすために與へた索の餘裕。

ゆう-せんイウ‥［郵船］①郵便船。➔同項。②日本郵船會社の略。③渡し船。

ゆう-そくイウ‥［優速］他の艦船に比較してまさつてゐる速力。

ゆう-ちイウ‥［誘致］我が兵力を示して敵を牽引する作戰行爲。

ゆうちょう-かせんイウテウ‥［有潮河川］ 海洋に注瀉する河川はいづれもその河口に多少潮汐干滿の差があるが，その河口に出入する海潮が河流よりも强くそのために河流の性質に及ぼす勢力の大なるものをいふ。その河身を河區・潮區に分ち上流の潮汐を感ぜざる部を河區，その下流で大滿潮に際し干滿の差ある區域を潮區といふ。

ゆう-てんイウ‥［誘轉］曳航の際，被曳船も曳索の受ける抵抗を減少せしめる

ために推進器を回轉すること。

ゆうとう-きしょう[イウ・シヤウ]［優等徽章］海軍優等徽章の略。➔同項。

ゆうどく-ぎょ[イウ・]［有毒魚］毒質を具有する魚類。魚を食べて中毒を起す場合と，魚に觸れることによつて毒性を與へられるものとの2種類がある。

ゆう-なぎ[ユフ・]［夕凪］①夕方，波風がなぐこと。②夕方海風と陸風とが交替する間，一時海上が無風の狀態となること。

ゆう-ばく[イウ・]［誘爆］砲彈や魚雷などが命中したとき，その爆發により艦自體の火藥が爆發を惹き起すこと。

ゆう-はつ[イウ・]［誘發］爆發した火焰が誘因となつて，他の爆發物を發火させること。

ゆうびん-き[イウ・]［郵便旗］命令航路船或は郵便物を搭載してゐる船であることを示す旗。

ゆうびん-せん[イウ・]［郵便船］郵便物を遞送し，兼ねて航海中郵便事務を取扱ふ船舶。《郵船》

ゆう-ふう［雄風］①海上に白波がやや盛んになる程度の風。②秒速10.8～13.8米の風。

ゆうほ-かんぱん[イウ・]［遊步甲板］最上甲板，若しくは短艇甲板の次の甲板で，船客が遊步・運動する甲板。

ゆう-よく[イウ・]［遊弋］警戒等の目的を以て，艦船が海上を徘徊航行すること。——**かいめん**［遊弋海面］艦艇が作戰行動上徘徊航行する一定の海上區域。

ゆうらん-せん[イウ・]［遊覽船］遊覽客のために使用する船。《遊船》

ゆう-りょう[イウレウ]［遊漁］慰みとして釣や投網などによつて魚を捕ること。

ゆう-わく[イウ・]［誘惑］漁法の名稱。誘ひ惑はして魚を集める方法で，餌を撒いたり，火光を利用したりして，捕獲に不便な處に居るもの，散らばつて居るものを集めたり，游泳迅速のものを久しく留まらせたりする方法。

ゆきあい-ぶね[ユキ・ビ]［行合船］反對の方向から航行して來て互に行き合ふ船。

ゆき-あし［行脚］船舶の機關を停止した後なほその惰力で進行すること。

ゆきなり-あみ［行成網］定置漁業臺網類の一種。鰊の行成網は代表的。

ゆ-しゅつ［輸出］內國より外國に貨物を移出すること。輸入の對。——**こう**[・カウ]［輸出港］①內國貨物を外國に輸出する港。②外國貿易港にして比較的に輸入よりも輸出が多い港の相對的呼稱。輸入港の對。——**しんこくしょ**［輸出申告書］貨物の輸出免許を受けるため稅關に提出する書類。——**ちょうか**[ッテウ・ワ]［輸出超過］一國の輸出總額が輸入總額を超過することをいふ。輸入超過の對。

ゆしゅつにゅう-こう[ッニフ・カウ]［輸出入港］外國貿易港に同じ。➔同項。

ゆ-そう[・サウ]［油槽］機械室にある油を貯へる鐵製の函。《オイル-タンク(oil-tank)》——**せん**［油槽船］石油・重油その他の液狀貨物を輸送するための特殊貨物船。《タンカー(tanker)》

ゆ-そう［輸送］船・車などで貨物を送ること。——**かん**［輸送艦］軍需品や人員の輸送を主要任務とする艦種。排水量1000噸以上のものを一等，未滿のものを二等輸送艦と稱し，その首腦者を輸送艦長といふ。——**せん**［輸送戰］軍團地域が各交戰本國と遠隔なるため，戰地と本國間との軍需物資の海上輸送力の多少が勝敗を支配するが如き戰爭の實相をいふ。——**せん**［輸送船］軍需品その他の貨物運搬に用ひる船舶。

ゆ-とり［淦取・湯取］(古)船中に滲入して溜つた淦(アカ)を汲み取る船具。《あかとり杓》

ユニオン-ジャック［Union Jack］英國國旗。英國軍艦艦首旗。

ゆ-にゅう[・ニフ]［輸入］外國より內地に貨物を移入すること。輸出の對。——**しんこくしょ**［輸入申告書］貨物の輸入免許を受けるために，稅關に提出する書類。仕入書の添附を要する。——**ちょうか**[ッテウ・ワ]［輸入超過］一國の輸入總額が，輸出總額を超過することをいふ。輸出超過の對。

ゆにゅう-こう[ッニフ・カウ]［輸入港］①外國貨物を輸入する港。②外國貿易港にして比較的に輸出よりも輸入が多い港の相對的呼稱。輸出港の對。——**ほんせんわたし**［輸入港本船渡］貨物の受渡が輸入港の本船上にてなされること。賣買條件としての本船渡しの一。本船積込渡の對。

ゆ-ぶね［湯船］昔，江戸の船著場などで浴槽を設備し，料金を取つて入浴させた船。

ゆ-みつ［油密］油の漏らないこと。これには鋲の間隔を水密のときより更に小さくする必要がある。

よ

よい-だし ヨヒ‥［宵出］釣舟などを前日の宵の内に出すこと。

よい-の-みょうじょう ヨヒノミヤウジヤウ［宵の明星］夕方，西天に見える金星。

ヨーイング［yawing］船や飛行機の上下・前後・左右の動揺が一緒になつたもの。

よう ヤウ［洋］海の大きいもの。地球上の海面を，最も大きく區分するに用ひる。太平洋・大西洋・印度洋はその例。

よう-い［用意］前以て或る作業に要するそれぞれの事を支度すること。"出港用意"・"發射用意，打て"などはその例。

ようか-き ヤウクワ‥［揚貨機］綱又は鎖を捲きつける捲胴と，これを回轉させる裝置から成り，捲綱の先につけた荷物を揚卸するに用ひる甲板機械。動力として汽力・電力・人力を用ひる。《捲上機・ウインチ(winch)》

ようかく-とう ヤウ‥［洋角燈］艦内で使用するブリキ製の手提燈で，甲板士官・先任衞兵伍長等の中・下甲板點檢の際携帶するもの。その他夜間の用途が甚だ多い。

ようかん-すい ヤウクワンスヰ［養罐水］罐の水が航海・碇泊中に蒸發して不足するに對し，これを補充する清水。

ようき-かいゆう エウキクワイイウ［幼期洄游］稚魚がその成育場から成魚の成育場へと移動すること。

ようき-せん ヤウ‥［揚旗線］旗を揚揚・降下するため，檣頭・旗竿などに取附けた細い麻索。

よう-ぎょ ヤウ‥［洋魚］產卵をしたり餌を求めるために，棲息するところを變へて洄游する魚。磯魚又は沿岸魚の對。

ようぎょ-ち ヤウ‥［養魚池］魚類を人工で養殖するための池。

ようぐ-こ エウ‥［要具庫］各分隊又は各科の要具を格納する倉庫。砲術科要具庫・第一分隊要具庫はその例。

よう-げき エウ‥［要擊］來襲する敵を途上にまちぶせして攻擊すること。

よう-げき エウ‥［邀擊］敵をむかへうつこと。

よう-こう エウカウ［要港］軍港のほかに特に警備を要する海岸に設けられた軍事上の港。各要港には警備府が置かれてある。⇨警備府。——**ぶ**［要港部］警備府の舊稱。→同項。

よう-さい エウ‥［要塞］國防上重要な土地に，永久築城によつて鞏固に守備した獨立せる防禦地域をいふ。——**ちたい**［要塞地帶］國防のため建設した諸般の防禦營造物の周圍一定の區域の稱。——**とう** ‥タウ［要塞島］國防上必要な島に設置した永久築城。コレヒドール島はその例。

ようさい-じょう ヤウサイジヤウ［洋塞城］浮連城に同じ。→同項。

ようさい-ほう エウ‥ハウ［要塞砲］海岸の要塞に備へ，沿岸防禦や港灣施設の保護に任ずる大砲。戰鬪任務の上から，舷側射擊用と甲板射擊用の2種に大別される。——**へい**［要塞砲兵］海岸要塞の守備に任じ，敵艦船・航空機を擊破し，敵の攻擊上陸を防遏する重砲兵(陸軍兵)。

ようじょう-こうほう ヤウジヤウカウハウ［洋上航法］何等陸影を視認し得ない場合に，天文・推測・無線の各航法によつて航空する術をいふ。《海洋航法》

ようじょう-ほきゅうろ ヤウジヤウ‥キフ‥［洋上補給路］海洋による物資の補給路。

よう-しょく ヤウ‥［養殖］有用な魚貝類や海藻類を保護して，養ひふやすこと。

よう-しん エウ‥［要津］重要な船著場(フナツキバ)。

よう-しん ヤウ‥［洋心］海洋のまん中。

ようせき-さいかのうりょく ‥クワ‥［容積載貨能力］容積による船舶の載貨能力 ⇨載貨容積。

ようせき-トン［容積噸］輕量貨物の容積單位で，40立方呎卽ち我が國の40才(40立方尺)を以て1噸とする。

ようせつ-せん［鎔接船］鋲締めせずに，加熱鎔融して接ぎ合はした鐵板で船殼を造つた船。

よう-せん ヤウ‥［陽船］①昔，舟戰(フナイクサ)に用ひた輕快の小舸(コブネ)。②昔の水戰で陰陽の備をなした時，その陽の備にあてた船。陰船の對。

よう-せん［傭船］貨物又は船客，或はその兩者を運送する目的を以て，船舶の全船腹又は一部を借切ること。期間を以て定めたものを期間傭船，航海を以て定めたものを航海傭船といひ，何れの場合も運送人(船主)が運送の任に當る。《チャーター(charter)》⇨全部傭船・一部傭船。——**しゃ**［傭船者］傭船をなす者。《傭船主》⇨傭船。——**しゅ**［傭船主］傭船

者に同じ。→同項。 ——-りょう ‥レウ［傭船料］傭船者が傭船契約に基づき船主に對して支拂ふ運賃。《チャータレージ(charterage)》

ようせん-けいやく［傭船契約］ 傭船に關し傭船者と船主との間に締結する契約。《チャーター-パーテー(charter-party)》⇨傭船。 ——-しょ［傭船契約書］傭船契約締結に當り，その契約内容を明らかにするため，船主と傭船者間に於いて契約條項を詳記して作製する契約書。⇨傭船。

よう-そろ［宜候］ 操舵號令の一つ。取舵(トリカヂ)或は面舵(オモカヂ)の號令を下して，左或は右へ船首を轉じ，所定の針路に船首が向つたとき，“眞直に進め”と號令するのに“ようそろ”といふ。

ようだん-き ‥ヤウ‥［揚彈機］彈藥庫から砲側へ彈丸を引揚げる機械。

よう-だんやくき ‥ヤウ‥［揚彈藥機］彈藥庫若しくは彈藥通路より砲臺又は砲甲板等に彈藥を配給するための揚彈藥裝置。

ようてい-かん ‥ヤウ‥［揚艇桿］艦載水雷艇・汽艇・ランチ等，固有のダビットを有せざる大艇を，短艇甲板に揚收する際に使用するメーン-デリックで，通例蒸氣力を原動力とし，檣に上張索をとり，前後の側張索と後張索を操作してこの作業を行ふ。

ようてい-き ‥ヤウ‥［揚艇機］船舶に備附けられた短艇の揚卸しに用ひる機械。

ようてい-さく ‥ヤウ‥［揚艇索］短艇上下用の通索。前索と後索とある。《ボートフォール(boat-fall)》

ようとう ヤウトウ［洋島］ 海洋中に孤立し，大陸と地質及び動植物などに就いて何等の關係のない島。陸島の對。

よう-どう ‥ヤウ‥［佯動］作戰上敵の兵力を分割させるやうな目的で，味方の一部隊を動かして敵をして判斷を誤らせる行動。

よう-とか ‥ヤウ‥［陽渡河］主力が渡河するやうに見せかける僞りの渡河。

よう-にん［傭人］ 軍艦に乘組んでゐる洗濯夫・理髮人・割烹人・從僕など。

よう-びょう ヤウビヤウ［揚錨］ 投錨して水中にある錨を船に揚げること。《拔錨》 ——-き［揚錨機］錨の揚げ下げ，索具の捲入(出)をするのに用ひ，錨鎖車・車地・車地機械の各部より成り，蒸氣機械或は電働機で起動させる。小汽船等では車地に挺子(テコ)を入れ人力で捲くものが多い。古くは錨を舷側に引揚げるため起錨機といふものを用ひた。《捲上機・ウインドラス(windlass)》

よう-もく ‥エウ‥［要目］海軍で艦艇の大きさや，搭載してゐる兵器の數，機關の種類などを表はすもの。

よう-れい ‥ヤウ‥［養蠣］牡蠣(カキ)を養殖すること。

よか-れん［豫科練］ 甲・乙・丙種飛行豫科練習生の略稱。→各項。

ヨーク［yoke］横舵柄(ヨコカヂ)。→同項。

よくさ-かん［抑鎖銲］ 錨鎖管の直下に在つて，樞軸により旋回し得るやうに裝著した鐵挺。これと錨鎖管との間に錨鎖を壓著抑止する用をなすもの。《制鎖器・コンプレッサー(compressor)》

よく-そう ‥ヤウ［翼艙］ ①船艙又は下甲板の舷側に接する部分の物品貯藏場所。《ウイング(wing)》②油槽船の左右兩舷側上部にあるタンク。ウイング-タンク，別にサンマー-タンクの名稱がある。③船の左右兩舷側上部にある水槽をカンチレバー-タンク(cantilever-tank)といふ。《舷緣水槽》

よくたん-とう［翼端燈］ 飛行機の左右翼端及び尾翼端につける赤・綠・白の光によつて飛行機の位置と飛行方向を示す燈火。

よくちゅう-き ヨクチウ‥［抑駐器］ストッパー(stopper)。→同項。

よくりゅう-せん ヨクリウ‥［抑留船］ ①一國の法規を遵守せざるため又は復仇のため，その國の權力下に置き差押へられたる外國船舶。②國際法上，交戰國又は中立國によつてその權力下に置き差押へられたる敵國又は中立國の艦・船舶。

よこ-およぎ［横泳］ 體を横にして浮き，扇足を用ひ，下の手を前方に伸ばし，上の手で水を搔いて進む泳法。

よこ-きかん ヨコ‥［横機關］横に据附けた機械(キカイ)で，現時これを使用することは稀である。《横置機械・横機械》

よこ-づけ ‥ヅケ［横附・横著］船を岸壁又は棧橋などに繫ぐこと。解纜の對。 ——-えいこう ‥カウ［横附曳航］ 曳船を被曳船(ヒキフネ)の舷側に横附して曳航すること。“よこびき”ともいふ。

よこ-とも［横艫］ 和船の劍先船(ケンサキブネ)などにある艫の形式。昔の大和・河内の荷物舟の類。

よこ-ながし［横流］ 潮流に直角に船を浮べて流すこと。

よこ-なみ［横浪］ 船舶の龍骨と直角に進行する浪。船の正横から打ち寄せる波。

よこ-ばね［横刎］海岸の浸蝕を防ぐ護岸法として築いた海岸に直角な突堤。

よこ-ばり［横梁］ 船の舷側に强みを與へる材。

よこ-まく［横幕］ ブリッヂ・最上甲板などの周圍に張る日除け・風除けの

幕。《スクリーン(screen)》

よごれ［汚］船の水線以下の船底に，海藻類や介殼類が寄生して，次第に成長繁殖すること。船底を腐蝕せしめ，水との摩擦抵抗を增加して，船の速力を減殺する。

よ-じお‥ジオ［夜潮］夜間に差引きする潮。

よじ-しんごう‥ガウ［四字信號］國際信號旗中の4旗で，地名・船名を表はす信號。

よせ-うち［寄打］多數の船が共同して，魚を取卷いて投網を打つこと。

よせ-え‥エ［寄餌］糠や麥などを炒(イ)り，粘土(ネバツチ)に混合したもので，魚類を寄せ集めるのに用ひる餌。

よせきずみ-かもつ‥ヅミ‥［餘積積貨物］船舶の餘積を利用して積んだ荷物。

よせ-なみ［寄波］寄せては碎ける波。——**のり**［寄波乘］短艇で寄せ波を乘切る遊戯。——**ぶね**［寄波船］寄波を乘切るために浮力を大にした船。

よた［津浪］（方）夏の終り近く，外洋方面から打寄せ來る大波。晴れて風のない日でも襲來して往々船を碎くことがある。"よだ"ともいふ。和泉の濱でいはれる語。

よつあし-ぶね［四足舟］小さい通船で，日覆屋形を設けるため四本柱のある船。

よつで-あみ［四手網］方形の網の四隅を竹竿で張つたもの。この網を水底に沈め，魚が網の上に來て乘るか，又は魚を驅つて網に乘せ，引き上げて捕る。略して"よつで"ともいふ。

ヨット［yacht］快遊艇又は快走艇の意。帆走艇・汽艇・モーター-ボート等もこれに屬するが，我が國では普通帆走ヨットにこの語を用ひる。巡航艇と競走用ヨットとあり，その型式は艤裝や構造によつて種々ある。帆を持たない大型のモーター-ヨットは，快遊船といふ。——**ハーバー**［yacht-harbour］防波設備や棧橋・繫留杭・船具置場などの設備を施したヨット繫留池。——**マン**［yachtman］ヨット操縱者，又はヨット所有者。

よつ-の-ふね［四舶・四船］遣唐使の乘つた船。遣唐使は正使・副使・判官・主典の4使があつて，4艘の船で遣はしたからこの稱がある。

よつめ-いかり［四爪錨］①大和船の使用した4本の爪で海底を搔く樣式の大錨。千石船は40～80貫の錨7～8挺を備へ，大船には100～150貫の錨もあつた。②短艇の碇泊・示錨浮標の鉤捉，或は海中に落した錨・錨鎖又は物品などの探索に使用する爪が4本ある小さな錨。歐米式二爪錨の對稱。

よつめ-いわ‥イハ［四目岩］底刺網，又は底延繩・振繩などの中央部につける沈子。漁業者の俗稱。

よど［淀］水の流れがゆるくなる所。——**せ**［淀瀨］水流が淀んでゐる瀨。

よ-にやく［夜荷役］船舶が特に出帆を急ぐ場合などに，夜間になす荷役。⇨荷役。

よび［呼］喇叭などの號音で呼集すること。總員呼・士官呼・候補生呼などといふ。

よび-えき［豫備役］軍人服役の一。現役終了者が服役し，海軍では士官現役定限年齡後5年まで，下士官は7年，志願兵は11年，徵兵は12年。

よび-かん［豫備艦］特別の役務に服せず，在籍軍港にあつて改裝・修理などを施行する軍艦。在役艦の對。

よび-ぎょらい-ほじゅう-タンク‥ホジユウ‥［豫備魚雷補重タンク］潛水艦に搭載の豫備魚雷の重量の補塡をなすもので，通常各魚雷の格納位置に設けてある小タンク。

よび-しかん‥クワン［豫備士官］高等商船學校出身の海軍豫備將校で，豫備佐官と，豫備尉官との總稱。又，大學・高等專門學校の卒業又は在學者から採用する豫備學生・生徒出身の者で，飛行機の操縱・偵察・整備・防備その他に從事する海軍豫備將校をいふ。海軍少尉〜海軍大佐の官階がある。

よび-ずな‥ツナ［導索］迎索(ムカヘビ)に同じ。➡同項。

よび-そくりょく［豫備速力］全速力と航海速力との間に存する餘裕をいふ。

よび-びょう‥ベウ［豫備錨］船首錨の豫備として船首樓附近に備へる豫備の錨。《シート-アンカー(sheet-anchor)》

よび-ふりょく［豫備浮力］①潛水艦の水中排水量と艦の重量の差。②滿載吃水線まで船體を沈めたとき，水線上に乾舷を殘すことによつて存する船體の餘剩浮力。

よめいり-ぶね［嫁入船］日本型帆船の船齡11～12年目までの賣船。

よ-めん［餘面］滑弁が行程の眞中にある時，蒸汽口を覆つて餘りある部分をいふ。"累面"ともいふ。外側卽ち蒸汽側にあるのを外餘面(ソトヨ)，內側卽ち排汽側にあるのを內餘面(ウチヨ)と稱す。《ラップ(lap)》

より［寄］魚の集團。漁師の間に用ひられる語。

よりあい-ぶね‥ブネ［寄合船］進貢船の內，幕府の遣明使の搭乘した船。一號

船又は本船といふ。⇨進貢船。

よりうお-ぎょぎょう ニウヲ [寄魚漁業] 秋冬の候，鰯(ボラ)が靜穩な灣の一ヶ所に寄り集る性質を利用して，大切にそこを保護し，安心して段々集まり充分集團した頃，大網でこれを取り卷き漁獲する。

より-くじら ヨリ [寄鯨] ①死んで海邊に打ちよせられた鯨。②鯨が魚を追跡し，誤つて砂洲に乘上げたもの。

より-す [寄洲] 泥沙が風で吹きよせられ，又は浪に打寄せられて出來た洲。

より-ば [寄場] ①魚の寄り集まる場所。(より) ②平常港灣勞務者の集る世にいふ人夫溜。

より-ふね [寄船] 海邊に風で吹きよせられた船。遭難船舶の舊稱。

より-もどし [撚戻] 釣絲の中途に取附けて，絲に撚のかかるのを防ぐ金具。絲に加はつて來る撚はこの具の回轉によつて戻り，絲の撚は常に元の儘に保たれる。旋網の括網などにも取附ける。型式は種々ある。關西では"さるかん"といふ。

ヨール [yawl] ①大前檣と小後檣とを有する縱帆裝置の小型帆船。②艦載の雜用艇。(ジョリー-ボート(jolly-boat))

よれ-こぶ [撚節] キンク(kink)。➔同項。

よろい-ばり ヨロヒ [鎧張] 短艇外板の張り方の名稱。板を瓦葺のやうに重ね張りにして最後に止釘で止める重搭法。(クリンカー(clinker-built))

ら

らい-かん ライクワン [雷管] 火藥に點火する發火具。銅・眞鍮・アルミニウム製の管内に點爆藥又は點爆藥と爆藥層とを塡充して造る。

らい-げき [雷擊] 魚雷で攻擊すること。——**かんさ-しゃしんき** [雷擊鑑査寫眞器] 敵艦船雷擊の實況を撮影し，戰果を確認する資料とする目的に使用する兵器。——**き** [雷擊機] 攻擊機の一種で空中から魚雷を發射するための飛行機。——**て** [雷擊手] 雷擊機に搭乘し，魚雷發射の配置を有する飛行兵。

らい-こう [來寇] 外敵が攻めて來て害を加へること。

らい-こう ‥カウ [來港] 港に入り來ること。(入港)

らい-こう ‥カウ [來航] ①船で來ること。②外國から船に乘つて來ること。

らい-しゅう ‥シフ [來襲] 不意に敵が攻め來ること。(襲來)

らい-せき [雷跡] 魚雷が水中を進行した跡に排氣のため海面に殘す1條の線。

らい-そう ‥サウ [雷裝] 魚雷發射管を裝備すること。

らい-そく [雷速] 魚雷發射に際し，射點から到達點までの距離を，發射時より到達時までの時間で除した魚雷の平均速力で，節を以てこれを表はす。

ライター [lighter] 艀(ハシケ)。平底船。荷足船。わが海軍では佛語でシャラン(chaland)船と呼ぶことがある。

らい-ちょう ‥テウ [來朝] ①外國人が日本に來ること。②屬國の王や使節などがわが朝廷に來ること。

らい-どう ‥ダウ [雷道] 發射された魚雷の進行する經路。

ライト-セール [light-sail] 主立つた帆でない比較的補助的な帆の總稱。ゲルン帆以上の帆。フライング-ジブ及び補助帆(スクワッディング-セール)をいふ。

ライナー [liner] ①定期航路の經營者。トランパー(tramper)の對。②定期船。③昔の戰列艦。

ライフ-ギグ [life-gig] 艇内の周邊にコルクのバンドを裝著し若しくは艇の首尾兩側等に空所を設けて匣の如くし，水中に沈むも水の浸入せざるやうに構造されたギグで，救助艇の一種。

ライフ-ジャケット [life-jacket] 救命衫(キウメイシン)。➔同項。

ライフ-ブイ [life-buoy] 救命浮環。➔同項。

ライフ-ベルト [life-belt] 救命浮帶。➔同項。

ライフ-ボート [life-boat] 救命艇・救助艇。➔各項。

ライフ-ライン [life-line] 命索(イノチヅナ)・救命索。➔各項。

ライフ-ラフト [life-raft] 救命筏。➔同項。

らいれき-ぼ [來歷簿] 艦船に備附けてある兵器その他の今までの經歷を記入する帳簿。

ライン [line] ①航路。②救命索發射器にて投射する綱。その他救命環の索や曳索等をいふ。(救命索) ③ 線綱。

ライン-ホーラー [line-hauler] 延繩漁船の延繩捲揚機。手力・汽力を以てするものと發動機附のものとがある。

ラガー［lugger］ラグを懸けた1檣(又は2〜3檣)の小船。《ラグボート(lug-boat)》

ラグ［lug］一種の斜桁用縦帆。ラグ-スル(lug-sail)の略稱。

らく-ご［落伍］艦艇が所屬隊列から離脱しておくれること。

らく-さ［落差］高低2箇所に於ける水面の高さの差。

らく-しゃ［絡車］麻索絡車・輕測鉛線絡車・鋼索絡車・測程線絡車など。又大小の索條や釣絲などを卷く車。《絲卷車・リール(reel)》

らく-しゃ［落射］魚雷を飛行機や落射機などで相當の高さから水中に落して發射すること。この種の魚雷は射程はさほど大なるを必要としないが，相當の速力を出し爆發力大にして重量の輕いことを要件とする。**——き**［落射機］飛行機や高速魚雷艇・艦載水雷艇のやうな輕快な小艇に裝備し，發射管を用ひずにただ拘束してゐる魚雷を水平に落下させるだけの簡單な裝置。

らく-そく［落速］射彈の地上に落ち又は目標に命中するときの速度。

らく-たつ［落達］爆彈などが目的物に命中，又は海面に到達すること。

らく-ちょう［落潮］おちしほ。干潮。**——-びょう**［落潮錨］漲潮流と落漲流の強き場所に雙錨碇泊中，落潮中に船を維持する錨。漲潮錨の對。《エッブ-アンカー(ebb-anchor)》**——-りゅう**［落潮流］落潮に伴なふ流れ。

ラジオ［radio］無線電信(電話)。無線放送。**——-コンパス**［radio-compass］無線方位測定器。→同項。**——-ゾンデ**［radio-sonde］海上氣象觀測用航海兵器。氣球に吊るして上空に放し，一定波長式のものは短波發振器から溫度・濕度・氣壓などの變化を時間間隔によつて表はす機構をもち，他の波長を變へる式のものは氣象狀態を種々異なつた波長で發振させる。**——-ビーコン**［radio beacon］無線標識局。ラジオ燈臺ともいふ。→同項。**——-ロケーター**［radio-locator］電波探信機。→同項。

ら-しん［羅針］磁石・磁針。**——-かんきょう**［羅針艦橋］羅針儀を備へ，且つ通常航海に主として使用せられる艦橋。**——-ぎ**［羅針儀］天象及び物標の方位を測定し，船舶及び航空機の位置・針路を定める器具。磁石の南北を指す力を利用して方位を表はしたもので磁針・羅牌・羅盆の3部分から成り船舶の航海上必要缺くべからざるものである。その構造により磁氣羅針儀と轉輪羅針儀があり，用途により原基羅針儀・操舵用羅針儀・

短艇羅針儀がある。《羅針盤・磁石盤(ジシバン)・コンパス》**——-ず**［羅針圖］海圖に掲載されてゐる地磁氣の偏差を示す圖。**——-ばん**［羅針盤］羅針儀・磁石盤(ジシバン)・コンパスに同じ。→各項。**——-ほうい**［羅針方位］羅針儀の示す南北線から左又は右へ計つた方位。これによる針路を羅針路といふ。**——-ろ**［羅針路］船内の磁氣羅針儀の南北線と船首尾線との交角。船内に据附けてある磁氣羅針儀は船體及び船内鐵器の影響を蒙むり，誤差を生じ正しい磁針方位を示さない。

ラスター［ruster］遠洋不定期船。長途の航海で船體が錆だらけになるのでこの稱がある。

らせんき-こうりゅう［螺旋器後流］推進器(プロペラ)によつて生ずる水流又は氣流。

らせんしき-ひこうき［螺旋式飛行機］發動機で回轉するプロペラーの推進力によつて飛行する飛行機の總稱。プロペラーの主翼に對する位置により牽引式・推進式の別がある。

らせん-すいしんき［螺旋推進器］一般船舶に使用せられる推進器で，金屬製の翼面を螺旋形に屈曲させ，これを水中に回轉させその反動力を利用して船舶を前後に推進させるもの。その翼は3〜4枚ある。

らせん-せん［螺旋船］螺旋推進器によつて航走する船。推進器の數により單螺旋船・雙螺旋船・三螺旋船・四螺旋船と稱す。

ラダー［ladder］昇降用の梯子。サイド-ラダー(舷梯)・ジャコブス-ラダー(索梯子)等がある。タラップ又はラッタルともいふ。

ラダー［rudder］舵。方向舵(航空)。

ラチーン-セール［lateen sail］大三角帆。ラチーンは地中海やナイル河及びスイスの湖の帆船で使用する一種の大三角帆。

らっ-かく［落角］落點に於ける彈道への切線が水平線となす角。

らっか-さん［落下傘］飛行機に故障の起つた場合に，機上から安全に降下するために使用する傘形の救命具であつたが，近時，兵員・兵器に裝置し敵の虚を衝いて著陸奇襲し，又友軍に彈藥・糧食を投下補給するためにもこれを使用することとなつた。**——-きらい**［落下傘機雷］飛行機から落下傘を裝置して，投下敷設することが出來る機雷。**——-ぶたい**［落下傘部隊］落下傘で飛行機から敵陣の後方に降著し，敵の虚を衝き味方が進擊するまで敵の基地要點を確保したりする部隊。

らっか-りゅうこつラク- [落下龍骨] 海軍ではドロップ-キール(drop-keel)といふ。➔同項。ドロッピング-キールともいふ。

ラッタル 船内の梯子。ラダー(ladder)の訛稱。➔同項。

ラット-ライン [ratline] 登檣用階梯として檣の側方維持索(シラウド)に横に結著した細い段索。ラットリンともいふ。《段索》

ら-てん [羅纏] 漁法の名稱。網が目的物の體に搦みついて行動を束縛する方法で，刺網・流網などがこれに該當する。

ラニヤード [lanyard] 靜索の下端を緊締するための短い綱。《締索(ジメ)》

ら-はい [羅牌] 磁氣羅針儀の紙製圓牌で，測者の地平圈を表はし，その周圍に北東南西の各方位と，360度の劃度を施し，北東南西を四方點といひ，全圓周を32等分して32點に分ち，各名稱を定めてある。羅牌の裏面にはその南北線と平行に磁針を取附け，中心には羅盆の底部中央より垂直に立てられた軸針の尖端を支へ受けて自由に回轉するための裝置がある。

ラバース-ホール [lubber's hole] 檣樓の昇降口。負傷者を吊下す時だけに使はれ，その他の場合の昇降はファトック-リギン(futtock-rigging)からする。その扉をトラップ-ハッチ(trap-hatch)といふ。

ラビン-ストレーキ [rubbing-strake] 防舷帶。短艇の緣板(ヘリ)の直下外側を周繞する細い木材をいふ。

ラフ [luff] ①帆の前緣(風上緣)。②詰め開き(船首を風上へ向けて)にて帆走すること。③單複滑車各1個を以て構成する絞轆。ラフ-テークルの略稱。

——-テークル [luff-tackle] 單滑車・複滑車各1個を以て構成するテークル。

ら-ぼん [羅盆] 磁氣羅針儀の硝子蓋ある半圓球形の金屬製容器で，その底部中央より垂直に軸針がありその上に羅牌を載せるやうに裝置してある。

ラム [ram] 衝角。➔同項。

らもう-りつラウ- [羅網率] 網をしかけて漁獲する成績の割合。

ラン [run] 協定荷役期間。積(揚)荷役に要すべき時間を計算する基準としての一日の荷役量。各港の特殊事情を考慮して1日に附○○噸と定むるを普通とす。ランニング-レー-デーズ(running-lay-days)の略。➔同項。

らん-うん [亂雲] 下層雲に屬し上限2粁位，形狀不定の暗雲の厚層で，この雲から普通雨や雪を降らす。《雨雲》

らん-かくラン- [濫獲] 將來のことを考へず，蕃殖する以上にむやみに漁獲すること。

らん-ぐい-クヒ [亂杙] やたらに繁く打ちこんだ杙。河中に設けて網を張り敵の障碍物などにするもの。

らん-こうラン- [藍光] 夜間信號に用ひる煙火の一種。《ベンガル-ライト(Bengal light)》

らん-しゃ [亂射] 盲(メクラ)打ちに銃砲彈を發射すること。《亂發》

らん-せん [亂戰] 敵味方が入亂れて戰ふこと。

らんそう-うん [亂層雲] 上層にあつて厚い層狀をなしてゐる亂雲で，多く雨・雪の降るのに伴ふもの。

ランチ [launch] ①軍艦に搭載し重量物運搬，下士官・兵の上陸の際などに用ひられる構造堅固な短艇で，發動機を裝備したものと專ら橈漕によるもの，又必要に應じ帆走し得るものとある。②港灣・船舶等にて使用する機動艇をランチと稱す。

ランナバウト [runabout] 輕快な自動艇。

ランニング [running] 帆走の際後方より風を受けること。追手。追手が船の進路と風の方向が完全に一致した場合を眞追手といふ。

ランニング-レー-デーズ [running-lay-days] 積揚荷役に要すべき時間につき運送契約の當事者が一定の基準を以て協約せる時間。時間の限定方法に ㋑ 積(揚)ラン一日に附○○噸と定むる場合 ㋺ 積(揚)，○○日と定むる場合等あり。單にランニング-レー-デーズといふ場合は天候のための荷役不能時間をも合はせ碇泊時間を通算するに對し，ウェザー-ウァーキング-レー-デーズといふ場合は天候のための荷役不能時間を除く。➔ラン。

ランバー-アイロン [lumber-iron] 檣桁架。短艇の兩舷側に裝し帆檣・豫備橈等を載せる鐵具。

らん-ぱつ [亂發] 亂射に同じ。➔同項。

らん-びょう-ベウ [亂俵] 穀類・雜穀等の俵裝が壞れて，その荷姿が大いに亂れてゐること。

ランプ-サム-フレート [lump-sum-freight] 總括運賃・總運賃。➔各項。

ランミング [ramming] 軍艦の衝角で衝擊すること。又は商船が船首で潛水艦を衝擊すること。

り

リアスしき-かいがん［リアス(Rias)式海岸］平面的に鋸齒狀を呈した海岸地形で，地盤運動又は海水面の變化のため山地が直ちに海に迫るもの。

リーウェー［leeway］風壓差。➔同項。

リ-かん［離艦］①軍艦から離れ去ること。②艦載飛行機がその軍艦から飛び立つこと。

りがん-しんごうき［離岸信號旗］出帆する場合に信號所で解纜させる船の船名符字とともに揭げる特定の信號旗。

りき-ざい［力材］木船の船首材又は船尾材が龍骨と結合する部分に於いて内側に添へる構造材料。

りき-せん［力戰］あらん限りの力を出して戰ふこと。

りき-そう［力漕］力のかぎり舟を漕ぐこと。

リギン［rigging］檣を左右に維持する靜索で，その屬する檣によつて名稱を區別する。前檣維持索(フォア-リギン＝fore-rigging)・大檣維持索(メーン-リギン＝main-rigging)の如し。リギンに横につけた，登檣の場合に足掛けとなる細い索を段索(ラッドライン)といふ。

りく-あげ［陸揚］入港したる船舶の荷物を直接又は一度艀取りしたる上，揚陸すること。(揚荷)——**きかん**［陸揚期間］航海傭船の場合，傭船者が陸揚港に於いて積荷を陸揚するため本船を碇泊せしめ得る期間。➪碇泊期間。——**こう**［陸揚港］積荷を陸揚する港。(荷揚港)——**じゅうりょう**［陸揚重量］積荷陸揚の時の重量。——**ば**［陸揚場］積荷を陸揚する場所。——**ひ**［陸揚費］艀舟賃・人足賃等貨物の陸揚に要する費用の總稱。——**めんじょう**［陸揚免狀］輸入貨物の陸揚許可書。

りくかいぐん-しゅうかいじょ［陸海軍集會所］明治天皇の聖旨を奉體し，陸海軍間の親密なる連絡と互助啓發を圖り，兩軍協和の美風を維持昂揚することを目的とし，現役非現役を問はず一切の陸軍將校及び海軍士官を所員とする恩賜財團。東京都麴町區霞ヶ關に在る。

りくけい-とう［陸繫島］砂嘴や普通の砂濱が陸の方から發達して，島と陸とが續いて半島になつたもの。(トンボロ(tombolo))

りく-とう［陸光］遠距離に現はれる，氷に覆はれてゐる陸上の朦朧として黃色がかつた光。

りく-さん［陸産］免責委付の目的となりたる海産以外の船舶所有者の財産で，海産と區別するための呼稱。必ずしも陸上に在る財産のみに限らず，委付の目的外に置かれる場合，その船舶も亦陸産である。海産の對。

りくじょう-き［陸上機］車輪を裝備し，陸上の飛行場に發著する海軍飛行機の總稱。艦上機の對。

りくじょう-きんむ［陸上勤務］陸上海軍官衙・部隊に勤務すること。海上勤務の對。

りくじょう-こうほう［陸上航法］航空機が主に地文航法によつて，陸の上空を飛行する方法をいふ。

りくじょう-せつび［陸上設備］港灣設備中，陸上に施設されたる諸設備の總稱で，貨物及び船客の取扱に必要なる起重機・上屋・倉庫・鐵道・道路・渡橋・待合所・手荷物檢査場等。➪臨港設備。

りくじょう-ぶたい［陸上部隊］海兵團・防備隊・航空隊・通信隊・學校・病院等の陸上に所在する海軍部隊の總稱。

りく-せい［陸星］極地方に於いて，雪に覆はれてゐる陸地に近づく時に見える反射光。(氷の空映)

りくせん-たい［陸戰隊］陸上の戰鬪に從事する海軍部隊。

りく-とう［陸島］分離島に同じ。➔同項。

りく-なんぷう［陸軟風］陸風に同じ。➔同項。

りく-はんきゅう［陸半球］フランスのロアール河口を中心點とした地球の北西部の半球。海面積は52.7%である。

りく-ひょう［陸氷］陸岸に附著せる氷で，その間に水路なきもの。

りく-ひょう［陸標］船舶の航海の安全を計るために，陸上に設置された目標。

りく-ふう［陸風］沿海地に於いて，夜間陸から海へ吹き出す風。(陸軟風)

りくふうせい-ぎょるい［陸封性魚類］溯河魚類が內陸の湖沼又は河川內に定著して，海へ降下することなしに成育繁殖し得るに至つたもの。

りく-ぼう［陸棚］海底に屬する大陸の周緣帶で，深海に對し緩斜せる

棚狀を呈し，常浸線より深さ約100尋卽ち200米迄の區間をいふ。(海棚)

——がい［陸棚崖］陸棚の邊緣の深海に臨める多少急斜せる斜面。(海棚斜面)

——ぎょじょう［陸棚漁場］沿岸漁場の一で，200米等深線までに行はれる定置漁業(大謀網・大敷網等)・曳網・打網等で鰤・鮪・鰯・鰊・鮭・鯛等を目的とした漁業を行ふ場所。

りくよう-ばくだん［陸用爆彈］海軍で使用してゐる，陸上目標を破壞するための飛行機から投下する爆彈。

リゲル［(羅)Rigel］天測常用恒星の一。オリオン座の青白色の一等星。

り-こう［離航］豫定航路を離れて航行すること。(離路)

り-こう［離港］港をはなれること。(出帆)

りごうしき-さいすいき［離合式採水器］深層の海水を汲み取るために用ひる器械。

リザード［lizard］一端又は兩端に鐵環を嵌めた索條。

り-しゅう［離洲］坐洲した船舶が洲から離れて浮揚すること。

り-しょう［離礁］暗礁に乘上げた船舶が浮いて，そこから離れること。

り-しょう［離昇］飛行機が離水・離陸・離艦して出發すること。發動後離昇するまでの距離を離昇距離といふ。

り-すい［理水］堤防をつくつて水害のないやうにすること。

り-すい［離水］飛行艇並びに水上飛行機が水面を離れて上昇すること。

リスト［list］①名簿。目錄。一覽表。②船體の左右の傾斜。

リーチ［leech］帆緣。縱帆の後緣。橫帆の緣。

リーチング［reaching］風を正橫前から受けて帆走すること。(橫風)

リッジ-チェーン［ridge-chain］天幕の中央線を支へる鐵鎖。同目的に使用する索を天幕背索(リッジ-ロープ)と稱す。

リッジ-ポール［ridge-pole］天幕の中央線を支へる棟木。

リッジ-ロープ［ridge-rope］兩側に垂れる天幕の頂部中央線を支へる綱。鐵鎖のものをリッジ-チェーン(ridge-chain)といふ。

りったい-えいほう［立體泳法］平體・橫體とともに泳法の3基本體型の一。立泳(タチオヨギ)に同じ。➔同項。

りったい-せん［立體戰］空中・水上・水中と飛行機・水上艦艇・潛水艦とが各その特質を同時に發揮する戰鬪。

りっ-ぴょう［立標］航路標識の一。航路に接近せる暗礁・淺瀨・露岩などに設置される警戒標で點燈裝置を有するものと有せざるものとがある。

リーディング-ライン［leading-line］迎索(ムカヒヅナ)。➔同項。

り-とう［離島］港灣若しくは陸地より離れて沖合にある島。

リーフ［reef］强風の場合，帆面積を小にして，風壓を減少するために行ふ縮帆をいひ，一段縮又は數段にわたる縮め方がある。

——バンド［reef-band］各縮帆索の座をなす補强帆布。

——ポイント［reef-point］縮帆のため，帆の縮帆部(リーフ)に取附けてある多數の細索。(縮帆索)

リブ［rib］船舶の兩舷を組み立てる肋材。

リフト［lift］桁の兩端を上方に維持する索。

リフト-ドック［lift-dock］船體を水中より浮かし上げ修繕をなす設備ある船渠。引揚船渠。

リベート［rebate］割戾。特約に基づき船主が一旦受取りたる運賃の一部を荷主に返附すること。

リー-ボード［lee-board］小型船につける，船が風下に流されるのを防ぐため舷側より水中に降したる板。(防板)

リマン-かいりゅう［リマン(Riman)海流］オホーツク(Okhotsk)海に起り，間宮海峽を南下して，大陸沿岸を洗ひ日本海に流れ込み，一部は對馬海峽附近まで達する寒流。他の一部は浦鹽斯德附近で分派し，對馬海流と合して隱岐・能登方面に還流する。

りゃくしき-しょくちょ［略式飾緒］廳內に限り使用されるもので，參謀肩章の石筆型金色の金具がなくなつて2本の繩のみとなつた飾緒。

りゃく-そく［略測］規定の正確さの度合によらない略式測量。

りゅう-いき［流域］河流に沿つた一帶の地域。海流の流過する區域。

りゅうき-かいがん［隆起海岸］陸地の隆起してゐる海岸で，概れ出入に乏しい平岸をなし，現今の水面よりも高い所に海蝕洞・海岸段丘・海崖などを殘すことがある。

りゅうき-かいてい-へいや［隆起海底平野］隆起のために海底が陸化した平野で，九十九里濱のやうな帶狀海岸平野や，關東平野のやうな洪積層が隆起陸化したものなどはその例。

りゅうき-さんごしょう［隆起珊瑚礁］珊瑚礁の生成後，土地の隆起作用によつてもり上つて陸化したもの。石灰岩質の瘠地となり易い。

りゅうき-とう［隆起島］地盤の變動によつてその一部のもりあがつて出

來た島。

りゅうき-ひょう［隆起氷］氷山。小丘のやうな形をして海上に浮游する氷。

りゅうきゅう-せん［琉球船］琉球で用ひられる船で，刳舟・山原船(ヤンバル)・ハジブニ・唐船(クウシン)・爬龍船(ハリン)の5種がある。

りゅう-ぐう［龍宮］海中，龍王の居るといふ宮殿。《うみのみやこ・たつのみや》**——せん**［龍宮船］南北朝時代の能島流水軍の奥祕にある軍船。敵の陣營内へ海底を押し行きて龍頭を擧げて浮び出で，破裂彈を敵軍に投じ再び海中へ沈み入りわが陣へ歸る工夫をしたもので，龍眼に水晶を入れ海上から敵陣を見る裝置も施してあつたといふ。

りゅう-こう［流向］潮流などの流れ行く方向。

りゅうこう-ふう［流行風］地方で或る期間中或る風向にばかり吹く風。

りゅう-こつ［龍骨］キール(keel)に同じ。➔同項。**——よくはん**［龍骨翼板］龍骨の兩側に通つてゐる第一列の外板。《ガーボード-ストレーク(garboard-strake)》

りゅう-しゅう［龍舟］龍を象つた船。船首には木彫り彩色の龍を飾り，船腹兩舷に龍身を描き，船尾には木彫の龍尾がつけてある。珠江に於いて端午節句の水祭に行ふ龍舟競漕は廣東名物として知られてゐる。

りゅうじょう-かもつ［粒狀貨物］穀類その他粒狀をなす貨物。

りゅう-ず［龍頭］投網の圓錐狀をなす網の頂點につけた珠。この所に手綱をつけて網を引揚げる。

りゅう-すい［流水］流れる水。ながれ。**——ようしょく**［流水養殖］池中の水を絶えず流過させてその流の中で魚類を養ふこと。**——りょう**［流水量］河の或る地點の横斷面を單位時間に流れる水の體積。《流量》

りゅう-せい［流星］天體の碎片が地球大氣中に突入し，大速力のため摩擦により發光し，星の流れる如き光を曳いて落下する現象。燃え殘つて地上に落下せるを隕石といふ。《ながれぼし・よばひぼし》

りゅう-せん［龍船］船首に龍の裝飾をした船。8～10世紀頃ヨーロッパの海賊が用ひた。

りゅう-せん［流線］①空氣又は水が渦動せずに流れる線。《流跡》②（兵語）河川の流速が最も速い水面上の一線。

りゅう-そく［流速］①水の流れる速力。河水の流速は水面勾配と水深とに比例して變化する。②氣流の速力。**——けい**［流速計］潮流計・タコメーター(tachometer)に同じ。➔各項。

りゅう-だん［流彈］流れだま。それだま。《流丸》

りゅう-だん［榴彈］①彈體の内部に炸藥を裝塡した彈丸の總稱。②遭難船舶が他船又は陸岸よりの救助を求める際，夜間これを打揚げ，爆發して星火を發し信號するに用ひるもの。

りゅう-ちょう［流潮］潮の流れ。流れる潮。**——こうほう**［流潮航法］海流・潮流の影響を加算し，又は既知流潮に對して船の採るべき針路を決定する行船法。**——そくりょく**［流潮速力］潮流の進行する速力。**——ほうこう**［流潮方向］潮流の進む方向。

りゅう-てい［流程］潮流に因つて針路からそれる漂流距離。

りゅう-てん［留點］地球より惑星を見るとき，その固有運動の一時留まる如く見える位置。

りゅう-とう［流燈］剝板(ハギ)を底とし種々の形を紙でつくり，中に燈火を點じて水に浮べ流すもの。

りゅう-とう［龍燈］海中の燐火の時として燈火のやうに連なり光つて現はれるもの。嚴島神社社前の海上に現はれ見える火光。

りゅうとう-げきしゅ［龍頭鷁首］昔の支那の船で天子の御座船。龍頭は船の頭を龍に作つて飾とした船。《龍首》鷁首は船の頭に鷁といふ水鳥の形をつけたもので，鷁は水神を壓し或はよく波浪に耐ふと想像された。よつて水に浮べて安全を希望して船首飾としたもの。《鷁舟》中古わが國にても貴族が池に浮べて遊んだと傳へてゐる。"りょうとうげきす"ともいふ。

りゅう-ひょう［流氷］風や海流に伴はれ，運動の自由を有する海氷の多數浮泛するもの。流氷の密集して帶狀をなしてゐるものを流氷帶といひ，その一面に存在する區域を流氷原といふ。**——げん**［流氷原］漂流する海氷の原野のやうなもの。

りゅう-ふく［流幅］海流の幅。

りゅう-ぼく［流木］水に浮いて流れる木材。海上に浮流し航海上危險な丸太。

りゅう-らく［流落］船舶が潮流・海流に因つて押し流され，針路からそれること。《ドリフト(drift)》

りゅう-りょう［流量］河の或る地點の横斷面を，單位時間に流れる水の體積。降水量・融雪量・蒸發量及び人工的灌漑等によつて四季規則的に變

化するのが普通である。《流水量》

りょう リャウ［梁］ 甲板梁(カンバン)に同じ。➔同項。

りょうあつ-ざい リャウ［梁壓材］ 木造船の梁(ビーム)の上面にありて，梁受板とともに梁端を挾みこれが固著竝びに位置を確保し，船體の縱强力を强め，且つ暴露甲板に於いては甲板面の水は梁矢によつて舷側に集り梁壓材上を流れ去る。《ウォーター-ウェー(water-way)》

りょううけ-ざい リャウ［梁受材］木造船の梁(ビーム)の末端を支持するもので，甲板梁と艙梁の區別なく，すべて梁を設けてある個所には必ずこれを取附ける。《ビーム-シェルフ(beam-shelf)》

りょう-かい リャウ［領海］ 一國統治權の及ぶ海域で普通，沿岸海をいふも廣く領水たる海灣・內海・港津をも包括して領海といふことがある。領海たる沿岸海の限界は最低干潮時に於ける水陸分界線より3海里を以て通說とする。公海の對。 **——ぎょぎょう**‥ゲフ［領海漁業］領海內に於ける漁業。自國人及び自國船舶に限りこれに從事することが出來る。

りょうかい-せん リャウクワイ［兩桅船］ 帆柱が2本ある船。

りょう-かん レウ‥［僚艦］同じ艦隊に屬する軍艦。 **——き**［僚艦機］僚艦の艦載機。

りょう-き レウ‥［僚機］同じ任務に就いてゐる仲間の飛行機。陸軍では特に編隊の指揮官機がその隊の部下の搭乘せる各飛行機をいふ。

りょう-き レフ‥［漁期］魚に就いてはその魚の漁獲を見た始から，その終に至る期間。それを更に初漁期・盛漁期・終漁期に分ける。漁具に就いてはその操業の始から切上に至る期間。漁期は大體一定してゐるが海況の變化，氣候の遲速及び魚群の移動など種々の原因によつて異なる。

りょうきゃく-き リャウ［兩脚器］海圖上で距離を測るために用ひる金屬製の兩脚を有する器具。ディバイダー(divider)又コンパス(compass)といふ。俗稱ぶんまはし。

りょう-くう リャウ［領空］ 領土と領海の上方無限の空間をいふ。一國の主權は領域上の空間に及ぶのを原則とするが，平時には軍用にあらざる他國航空機の無害航過の自由を認められる。

りょう-げん［兩舷］左右兩方の"ふなばた"。 **——ちょく**［兩舷直］軍艦乘組中の電信兵・信號兵・衞兵・從兵とか特に何かの役員になつてゐるものを除いた水兵部下士官・兵の左右兩舷員，卽ちその日の當番の者も非番の者

も併せた全員。 **——つなぎ**［兩舷繫］兩舷の繫留索を用ひて浮標に繫留すること。 **——びょう**‥ベウ［兩舷錨］左右兩舷の錨。

りょう-ざい リャウ［梁材］その兩端を肋材に接する梁(ハリ)。

りょう-し リャウ［梁矢］上向きの反(ソリ)がつけてある船の甲板梁。船が傾いても甲板の一部は水平になつてゐるので帆船や小型船舶に用ひられ又甲板に打上げた水を成るべく早く舷外に流すのに役立つ。ビーム-キャンバー(beam-camber)又はラウンド-アップ(round-up)ともいふ。⇨舷弧。

りょう-し レフ‥［漁師］魚を捕ることを業とする人。

りょうしょく-とう リャウ［兩色燈］油船燈の左紅色・右綠色で，1海里以上の光達距離を有し，甲種は燃照後5燭光以上，乙種は3燭光以上の燈光を發し得るもの。40噸未滿の汽船に使用する。

りょうしょくひん-こ リャウ［糧食品庫］米穀などの如き食料品を貯藏して置くところ。

りょう-すい リャウスヰ［領水］國家の統治權の下に立つ全水域をいひ，その國の領海は勿論河川・湖沼・運河などをも含む。⇨領海。

りょうすい-ひょう リャウスヰヘウ［量水標］水面計の②に同じ。➔同項。

りょうせい-るい リャウセイルヰ［兩棲類］魚類と爬蟲類との間に位し，幼時には多く水中で鰓を以て呼吸し，成時には陸上で肺臟を以てするもの。現存するもの1400餘種で"蛙・ゐもり・さんせううを"の類。

りょう-ちゅう リャウ［梁柱］梁を支へるために立てた支柱。《スタンション(stanchion)》

りょう-ちゅう リャウチウ［梁肘］梁の兩端を肋骨に取り附けるために造つた三角形の部分。

りょうちょう-ひょう リャウテウヘウ［量潮標］目盛をした柱を干潮の時でも干上らない海中に立て，每時間水面の高さを讀んで潮汐の高低を觀測するもの。

りょうは-せい［凌波性］ 船舶が風浪をかきわけて航進する性能。

りょうめん-がま リャウ［兩面罐］ 罐の兩面に焚口を有するもの。片面罐の對。

りょうよう-さくせん リャウヤウ［兩洋作戰］米國海軍の大西洋と太平洋の兩洋同時作戰をいふ。

りょう-よく リャウ［兩翼］横陣の左右の翼。 **——の-そなえ**‥［兩翼の備］中古水軍の陣形。凹横陣でほぼ偃月及び鶴翼の備に等しく，左右强弱なきやうにして敵を包圍するのに用ひる。 **——びらき**［兩翼開］縱帆船が眞艙

から風を受ける場合，前後兩帆を鳥の兩翼の如く左右に張り出して帆走する法。(觀音開)

りょうり-にん[料理人] 調理手の舊稱。→同項。

りょ-かく[旅客] 旅行する人。 **——こう**[旅客港] 旅客の乘下船を主とする港。貨物の揚卸・旅客の乘下船を主とするものを貨客港，貨物の揚卸のみを主とするものを貨物港といふ。 **——せん**[旅客船] 主として旅客及び郵便を運送する船舶。法規上は12人以上の旅客定員を有する船舶をいふ。(客船) **——ていいん**[旅客定員] 船舶に搭載し得べき旅客の最大人員。船舶安全法及び同施行規則により船舶の航行區域・設備等に應じて管海官廳がこれを決定し，各船はこの定員以上に旅客を搭載することが出來ない。 **——めいぼ**[旅客名簿] 旅客の姓名・年齢・性別・國籍・住所・乘下船地等を記載した名簿で，旅客を運送する船舶に必ず備ふべき法定書類。沿海航路のみを航行する船舶についてはこれを備へなくても差支へない。

りょくそう-るい[綠藻類] 藻類の一種。淡水產が多く，海產のものは少い。アヲノリ・ヒトヘグサ・ミルは食用とし，アヲサは主として肥料又は飼料とする。⇨海藻。

りょく-でい[綠泥] 亞洋性沈澱物の一種で，青泥と同じ泥質の上に海綠石といふ綠色粒を含み，暗綠色に見える泥。大河の流入してゐない海に見られるもの。

リール[reel] 絡車。→同項。

り-ろ[離路] 船舶が航海の途中，豫定航路外に航行し，或は逆航迂廻するをいひ，天災その他已むを得ずして離路をなす場合の外，保險契約は無效となる。(變路)

りんえ-ぐさり[輪廻鎖] 循環する鏈鎖。ウエストン絞轆は2個の鐵滑車と1條の輪廻鎖とより成る。(エンドレス-チェーン(endless-chain))

りん-かい[鱗介] 魚類と貝類と。

りん-かい[臨海] 海にのぞむこと。海に近いこと。 **——がっこう**[臨海學校] 夏季，海岸地に都會の兒童を集め學科を授けつつ保健・鍛錬を圖る施設。 **——じっけんしょ**[臨海實驗所] 海岸の適當な所に在つて海洋及び海洋生物に關する諸事項の研究に從事する所で，これに必要な設備が施してある。多くは水族館を併置してゐる。臨海研究所ともいふ。

りん-かん[輪鐶] 甲板・舷側などに取附け，これに鉤或は鋼索等を鉤する鋼鐶で，眼鐶に楕圓形の輪を連結したもの。

リンク[link] 錨鎖を構成する鐵鐶。(鎖鐶)

リング[ring] 鐶。→同項。 **——ボルト**[ring-bolt] ①艇內前後に設けてある鐶杆。②鐶附螺釘に更に遊鐶を取附けたもの。

リンク-そうち[リンク(link)-裝置] 船舶を前進或は後進させる場合に，機械を任意に所要の方向に回轉させるのに必要な裝置。

りんけい-じん[輪型陣] 米國海軍の對日進攻作戰に用ひるものと豫想される艦隊戰鬪隊形であつて，戰艦艦隊を基準にしてその前後左右に航空母艦や巡洋艦・驅逐艦等を多數配置した特殊のもの。

りん-けん[臨檢] 交戰國が船舶の中立性を確め，戰時禁制品輸送・軍事的幫助・封鎖侵破等のことなきやを檢分するため，船舶を停船せしめて訊問し，要すれば船內を搜索すること。(臨檢搜索)

りん-こう[燐光] 海面を搔きまはしたとき夜光蟲の發する燐火に似た光。

りん-とう[臨港] 港にのぞむこと。港に近いこと。 **——せつび**[臨港設備] 貨物及び旅客揚積のため，臨港地域に施設されたる埠頭・岸壁その他の諸設備。⇨陸上設備。 **——てつどう**[臨港鐵道] 海陸連絡運輸の便宜のために，埠頭(岸壁)相互間又は埠頭(岸壁)と港の後方地域との間に延長敷設せられたる鐵道。 **——れっしゃ**[臨港列車] ①荷客，殊に旅客の船車連絡の便宜を計るため，船舶發著の都度特別に船側岸壁まで差立てる臨時列車。②臨港鐵道に運轉せられる列車。

りんさい-ほう[輪採法] 時期により數個所順々に禁漁を行ひ，魚類の蕃殖保護をはかる方法。

りんじ-かいぐん-ぼうびたい[臨時海軍防備隊] 昭和8年3月より滿洲國哈爾濱に置かれた防備隊。⇨防備隊。

りん-じく[輪軸] 輪に軸を取附け動かし又は擧げんとする重き物體に結びつけた綱を軸に卷き，軸を回轉してその物體を動かす裝置の機械。車地又は轆轤の類。

りんじ-けんえつ[臨時檢閱] 海軍大臣の命により海軍兵科將校が檢閱官となつて官衙及び學校に就き臨時に行ふ檢閱。⇨檢閱。

りんじ-けんさ[臨時檢査] 航行區域，最大搭載人員，滿載吃水線等船舶檢査證書記載事項の變更その他船舶安全法施行規則の定むる所により，管海

官廳が檢査を行ふ必要ありと認めたる時又は申請若しくは屆出により臨時に行ふ船舶檢査。

りんじ-じょうりく[臨時上陸] 艦船が長途の航海に出る前とか，又は一ヶ月以上航海して歸著した時とか，拔群の勤務をなしたる者，善行表彰を受けた者，或は已むを得ざる事故のある者に，それぞれ24時間以内といふやうに臨時に外出を許されること。

りんじせんぱく-かんりほう[臨時船舶管理法] 支那事變に關聯し，海上に於ける一般交通運輸の調整を圖るために昭和12年9月制定せられた法律。その目的とする處は本邦海上交通運輸機關を戰時體制下に置き，配船の調整，造船の促進等により國家の必要とする重要物資の圓滑なる輸送を期し，物價對策として公正な運賃・傭船料を維持安定せしめ，又海外に於けるわが航權を維持するに在る。

りんじ-とう[臨時燈] 出入頻繁ならざる港灣・河口に在つて，船舶出入の際若しくは季節により臨時に點火される燈竿。

りんじ-りょかく[臨時旅客] ①臨時旅客定員に引き受けたる船客。②臨時に船舶に搭載したる船客。——**ていいん**[臨時旅客定員] 本船の旅客定員以上に臨時に旅客を搭載せんとする場合，管海官廳に願ひ出で特殊船檢査を受け，臨時にその定員以上に搭載することを許可せられる旅客定員。⇒旅客定員。

りん-せん[輪船] 汽船。火輪船の略稱。

りんせん-じゅんび[臨戰準備] 戰時に艦船がその戰鬪力を完備し且つ不必要なる物品の陸揚げ及び設備に長時間を要する作業を施行すること。船體・兵器・機關の修理をなし，又入渠して艦底を清淨にし，乘員の充實，燃料・糧食・軍需品の搭載などをする。

りん-れつ[鱗列] "うろこ"のやうに列なること。鱗次。

る

るいけい-せん[類型船] 同一の設計で造られた型式の類似する船。

るい-せん[類船] ①昔，進貢船に隨行して，貿易を營んだ商人の船。②難破した船。(難船) ③同類の船。連れ立つ船。

ルック-アウト[lookout] 見張・見張員。➔各項。

ルート[route] 航路。航空路。

れ

れい-すい[齡衰] 船齡の老衰に達すること。

れい-そう[冷走] 發射した魚雷が，諸種の原因で燃料に點火せずに航走すること。——**ぎょらい**[冷走魚雷] 加熱器のついてゐない魚雷。

れい-そう[禮裝] 海軍服裝の一。宮中晩餐・天皇及び皇族の奉送迎・外國軍艦の公式訪問・夜會等正裝の場合に次いで嚴肅なる儀式に著用する。

れいぞう-こ[冷藏庫] 船內で漁獲物の腐敗を防ぐために，外氣との絶緣裝置を施した倉庫。

れいぞう-せん[冷藏船] 牛肉や魚類を生(ナマ)のまま積む船で，船內が恰も幾つかの冷藏庫になつてゐて，それに肉類を積む。

れい-たつ[令達] 海軍の部隊指揮官がその麾下に發令すること。麾下一般に發令するものを一般令達，一部に發令するものを特別令達と稱す。命令・訓令・日令・法令・訓示・告示の種別がある。

れいとう-ぎょ[冷凍魚] 鮮魚を極めて新鮮な狀態に保つため，よく洗滌し，攝氏零下20度以上の低溫で急速に凍結させ，數回水に浸して引上げ，外面に氷の被幕を作つて被覆したもの。冷藏庫內に貯藏して置く。

れいとう-せん[冷凍船] 漁獲した魚を，凍結させて貯藏運搬する設備を有する船。

れい-ほう[禮砲] 陸海軍禮式の一で，軍隊又は軍艦で敬禮又は奉祝のために發する空砲。——**いん**[禮砲員] 軍艦に於いて禮砲を發射するために特に編成された砲員。

レガッタ[regatta] 短艇競漕。帆走競爭。

れき-せい[瀝青] "ちゃん"に同じ。➔同項。

レーキド-ステム［raked-stem］直線でやや傾斜してゐる船首。

レーキ-マスト［rake mast］檣を傾斜させること。帆走艇などで檣をやや前方に傾ける方が結果が良い。檣に"レーキ"を與へるといふ。

レーク［rake］①熊手狀をなす罐の灰掻(アッシュ-レーク)及び火掻(ファイヤー-レーク)。②傾斜。檣の傾斜をマスト-レーク(mast-rake)といふ。

レグルス［(羅)Regulus］天測常用恒星の一。獅子座の主星で大鎌の柄の端に當る所に輝いてゐる。

レシプロ-せん［レシプロ船］往復機械を裝置する汽船の俗稱。⇨往復機械。

レーシング［racing］船の縱動搖(ピッチング＝pitching)により推進器が水から出て空轉すること。

レスポンデンシヤ［respondentia］冒險貸借の一種。船舶の修繕・救護その他航海繼續に必要なる費用を支辨するため，船長がその積荷のみを擔保として資金を借入れること。船舶及び積荷を抵當として借入れることをボットムリー(bottomry)といふ。

れつ-い［列位］艦船の占めてゐる列中の位置。

れっ-き［列機］一指揮官の直接指揮下にある一隊の飛行機。

レッコー［let go］海員用語。放て(レットゴー)の訛り。"スライキ，スライキ，レッコー"は"延せ，延せ，放て"といふ意味。

れっしゃ-こうそうせん［列車航送船］旅客・貨物の乘換・積込をなす代りに列車をそのまま積載して運送する連絡船。

れっ-せい［劣勢］勢力が敵よりも劣つてゐること。

れっ-そく［劣速］速力が他の艦船に比較して劣つてゐること。

レッド［lead］測鉛。➔同項。

れっ-とう［列島］數島のやや列をなしてゐるもの。

れっ-ぷう［烈風］①はげしい風。②樹の大幹を動かす程度の風。陸上用語で海上ではビューフォート式風力階級の語を用ひる。

レール［rail］手摺(テスリ)。(ハンド-レール(hand-rail))

れん［錬］①1海里の十分ノ一。100尋。(ケーブル(cable))②錨鎖の1錬は90尋である。

れんかい-うんが［連海運河］海洋と海洋とを連結し，海洋航行船を通航させる人工的水路。地中海と紅海とを連ねるスエズ運河の類。

れんかん-ちょう［聯管長］聯裝魚雷發射管の配置にある發射管員中の先任下士官。

れん-けい［連繫］①作戰行爲中，分離せる兵軍の動作の連結をいふ。②つづけ繫ぐこと。

れんごう-かんたい［聯合艦隊］2隊以上の艦隊を聯合して編制した艦隊で，必要に應じこれに艦船部隊を編入，又は附屬せしめられたもの。司令長官は天皇に直隷し麾下全般を統率す。

れんごう-そうかいていたい［聯合掃海艇隊］掃海艇隊と特別掃海艇隊との兩者を合同して編制したるもの。

れん-こん［漣痕］泥土又は細砂上に印せられた波浪の痕跡。普通は水深30米以内の淺所に出來るが大嵐の際には200米の深所にも生ずることがある。

れんしゅう-かん［練習艦］海軍少尉候補生などの艦務練習に使用する軍艦。——**たい**［練習艦隊］海軍少尉候補生及び研究乘組軍醫科士官の實務練習教育のために編成される艦隊。

れんしゅう-き［練習機］初期の操縱練習生の飛行機で，陸上練習機と水上練習機とがある。

れんしゅう-こうかい［練習航海］海軍の諸學校又は商船學校の學術を修得したものに，實地に海上訓練を施すため艦船に搭乘し航海させること。

れんしゅう-じゅんようかん［練習巡洋艦］學生・練習生等の練習に使用される巡洋艦。

れんしゅう-せい［練習生］①(海軍用語)砲術學校，水雷學校等にて特技を修業中の海軍下士官・兵の通稱。②(商船用語)學校修業生として船舶に乘組むもの。

れんしゅう-せん［練習船］商船學校・水產學校の實習科生徒に海上實務を修得させるための船。

れんしゅう-せんかん［練習戰艦］海軍諸學校の學生・練習生等の練習に使用される戰艦。

れんしゅう-とくむかん［練習特務艦］海軍の新兵を教育する軍艦。又士官の教育のためにも舊式の軍艦をこれに充てることがある。

れんじょう-たんか［簾狀擔架］竹を編んだすだれのやうなもので，戰鬪中，檣樓・艦橋などの高所から負傷者をのせて卷き縛つた上徐かに綱で吊り下ろし治療所に運搬する用具。

れんしん-こうろ［聯針航路］直線航路の聯合より成る航路。

れん-すい‥スヰ［連吹］①風が引續いてしきりに吹くこと。②汽笛・汽角・霧中號角などを連續して吹きならすこと。

れんせい-ふどう-かいてんとう［聯成不動回轉燈］燈臺用語。回轉燈と同じく漸次光力を增し，その頂點に達すると漸次光力を減ずるが，全く暗黑に至らず弱い不動光を存するもの。

れん-せん［連戰］ 次から次と戰ふこと。しきりに戰ふこと。

れんせん-こうこうとう［連閃交光燈］ 燈臺用語。連閃燈で異色の閃光を發するもの。

れんせん-とう［連閃燈］ 燈臺用語。2個若しくは2個以上の閃光を幾許かの暗黑を隔てて連發するもので，普通2～4連光までとする。

れんそう-ほう［聯裝砲］軍艦の一つの砲塔又は一つの魚雷發射機に，數門の大砲又は數門の魚雷發射管をつらねて裝備したもの。二聯裝・三聯裝などといふ。

れんぞく-こうかい［連續航海］ 同一航路を折返し數航海續けて航海すること。 **——-しゅぎ**［連續航海主義］戰時禁制品輸送に當り，中立國の船舶が直接敵港に向はず，一旦敵國に近き中立港に仕向けて一の航海を終り，更にその中立港より同一の船舶又は別の船舶にて別の航海として敵港に仕向けて航海するも初めの中立港に向ふ航海を以て，後の直接敵港に向ふ航海と相連續して，最初より敵港に向ふ一の航海と見做し，初めの航海中に於いても拿捕を行ひ得るとする中立國際法上の主義。

れんぞく-ゆそうしゅぎ［連續輸送主義］ 一旦中立港に陸揚して陸路，敵地又は敵軍に送達する場合，それが戰時禁制品であるならば，前の海上輸送と後の陸上輸送とを以て連續せる輸送と認め，前の中立港に向ふ航海中に於いて拿捕を行ひ得るとする中立國際法上の主義。⇨連續航海主義。

れん-たん［煉炭］ 石炭の粉末にピッチを混じ，壓力を加へて一定の形を與へた加工燃料。主として小艦艇にてこれを使用する。

れん-らく［連絡］ 作戰行爲中，隔離せる兵軍の意志の連結をいふ。

れんらく-うんが［連絡運河］ 海洋と海洋，又は二つ以上の可航河川，若しくは湖沼と海洋を連絡する運河。前者は連洋(海)運河とも稱し，スエズ運河・パナマ運河はその代表的なものである。

れんらく-こう‥カウ［連絡港］①連絡船の發著する港。②船車(船舶と鐵道)連絡をなす港。

れんらく-しょうこう［連絡將校］外國と協同作戰を行ふ場合に彼我の連絡に任ずる將校。

れんらく-せん［連絡船］2港間に頻繁且つ定期的に旅客・貨物の輸送に從事する船舶。

ろ

ろ［艫］とも。ふね。船尾。艉。

ろ［櫓・艪］和船の主要漕具。船端に固著せる櫓臍(ロベツ)を櫓の入子(イレコ)に嵌め，櫓柄を櫓綱で船床に繫ぎ，櫓腕を前方へ推して手許に引けば，櫓脚は水中で螺狀を畫き恰も螺旋推進器のやうな作働をして船を進める。櫓は又操舵の用をも爲す。

ろ［炉］罐の下方に位し，燃料中の固體成分，又は瓦斯成分の全部，若しくは一部を燃燒せしめる所。窯又はファーネース(furnace)とも稱す。1枚の平板を圓筒形に曲げ，縱の接合部を鍛合せしめた平形炉筒と，更にこれを一定の型に壓縮して製造した波形炉筒とある。

ろ-あし［櫓脚］ ①櫓を漕ぐ時，その水中に浸つた部分。②櫓を漕いで船の進む時，その後に波の搖ぐ痕。

ロアリング-フォーティズ［roaring-forties］大西洋上北緯40～50度間の暴風帶。南緯同緯度帶にもいふ。《咆哮緯度》

ロイド(ロイヅ)［Lloyd's］ロイド組合。この組合に二つある。一は海上保險を主なる業務とする個人保險者の集合體で，他は船主及び保險者の集合體である。前者は保險の營業及び海事通信を目的とし，後者は船體の檢査格附又は造船の監督等をなし又ロイド船名錄の編纂發行をなす。本據を英京倫敦に置き世界各主要港に代理人(Lloyd's agents)を有し上記事業經營に必要なる船舶の建造・就航・發著・遭難等海事に關する凡ゆる情報を蒐集し，又遭難の場合にロイド保險者のために種々斡旋させる。本組合の船舶檢査格附は世界的に權威あるものとされてゐる。 **——-せんめいろく**［ロイド(Lloyd's)船名錄］英國ロイド組合編纂の船名錄。世界各國の船舶を網

羅し年々發行するもので，船名・船質・噸數・船級・造船所名・建造年・船舶所有者，船の長さ・幅・深さ・船籍港・機關の種類等一目瞭然として海運業者及び海上保險業者にとつて好き參考書である。

ろうかい-さぎょう[ラウ-ケウ] [撈海作業] 海底・海水中の沈積物・布設物・浮游物等を取りのける作業。

ろう-こう [漏口] 船などに水の漏り入る口。

ろう-こく [漏刻] 水時計。《刻漏》

ろう-すい…スヰ [漏水] ①船舶が衝突・擱坐・觸礁及び敵の攻撃等のため水線以下に大なる破孔を生じ，船内に浸水すること。②水時計の水。

ろう-せん [樓船] 屋形船のこと。樓舟(ロウシウ)とも稱す。

ろうそく-いわ[ラウ-イハ] [蠟燭岩] 海中の岩の軟かい所が波浪に浸蝕され，硬い所だけが殘つて圓柱狀になつたもの。

ろ-うで [櫓腕] 櫓の上部の琵琶形をなしてゐる部分。⇨櫓下(ロシタ)。

ろ-か [櫓歌] 櫓を押しながら漁夫のうたふ歌。《船歌(フナウタ)・欸乃(アイ)》

ろかい-はくち [露開泊地] 風浪に暴露してゐる港外の海岸に近い一時的避泊處。

ろかい-ぶね [櫓櫂船] 櫓櫂(竿・棒・オールを含む)を用ひて人力により推進する小舟。

ろ-かく[ロ-カク] [鹵獲] 戰勝の結果，敵の艦船・兵器・軍用品などを手に入れること。

ろ-がん [露岩] 干出岩に同じ。➔同項。

ろきょう-せんこう[ロキヤウ-センカウ] [露鏡潛航] 潛水艦が潛望鏡のみを水面に露出して潛航すること。

ろ-ぐい…グヒ [櫓杭] 櫓床にさし，櫓の入子に合はせて櫓を受けるもの。多く樫材を用ひる。

ろく-ざい [肋材] 龍骨・船首材・船尾材より兩側に多數縱立する彎曲したもので，人體の肋骨に相當する。《フレーム-バー(frame-bar)》

ろく-じ [錄事] 法務局に屬し，また軍法會議の職員たる判任文官。

ログ-シップ [log-ship] 扇形板。➔同項。

ろぐち-いた [爐口板] 火格子の前端をかけるために，炉の前方に裝置した鐵製の板。《デッド-プレート(dead-plate)》

ろく-ばん [肋板] 船舶の彎曲部以下に於いて，肋骨の間に挿入する鐵鋼板。

ろく-もつ [六物] 竿・綸・浮・沈・鉤・餌を釣の六物といふ。僧の携へる6種の什物を六物といふことから轉じた語。六具ともいふ。

ろ-ぐり [櫓繰] 櫓を操り漕ぐこと。

ろく-ろ [轆轤・絞車] ①物を引き又は吊り上げるに用ひる滑車。②車地。まんりき。**——-ざ** [轆轤座・絞車座] 船の舳と艫とに於ける絞車(ロクロ)のあるところ。中船以下は艫の方のみ絞車を用ひ，表には車知(シヤチ)を用ひ，小舟は飛蟬(トビセミ)のみを用ふ。**——-ぶね** [絞車船] 船を揚げ卸しする絞車を備へ又は絞車・筋綱等の道具を積み行く船。

ロケット [rocket] 火箭。狼火。筒内に爆發物を充塡しこれに點火爆發せしめ，ガスを筒の一方から噴出させる反動で火箭を飛ばすもの。近年發射推進裝置として自動車・飛行機等にも利用され，超高速度を出し兵器にも應用される。**——-ばくだん** [ロケット爆彈] 爆彈の底部にロケットを仕掛け，火藥ガスを吹出し，その反動で落下の際に速度を增し，軍艦の甲板に命中した時に砲彈のやうな速力になつてその貫徹力を增大させるもの。

ろごう-せんすいかん[ゴガウ-スヰ-カン] [呂號潛水艦] 二等潛水艦(排水量1000噸未滿)の別稱。

ろ-した [櫓下] 櫓の櫓腕より下部をいふ。⇨櫓腕。

ろ-しょう[シヤウ] [櫓檣] 近代の軍艦の前檣が，昔の城の天主閣の櫓のやうな司令塔その他の主要部となつてゐる，その櫓のこと。

ろ-しょう…セウ [露礁] 水面上に露出せる海中の岩石。

ろ-ずか…ヅカ [櫓柄] 櫓の腕に附いてゐる柄で，櫓綱をこれに掛け，櫓腕を前後に動かして漕ぐもの。

ろ-ずく…ヅク [櫓杆・櫓杭] つく・櫓栓(ロセン)に同じ。➔各項。

ろ-ずな…ヅナ [櫓綱] 船床と櫓柄とをつなぐ綱。これによつて櫓の下端の水に入る度を定めその操縱を便にする。

ローズ-ボックス [rose-box] 淦水吸引管の下端に取り附け，固形物が管内に吸入されるのを防ぐための芥除箱。

ろ-せん [櫓栓] 櫓の腕の上方に取附けた早緒をかける突起した木杆。《ろづく・つく》

ろ-そう…サウ [櫓漕] 櫓を以て船を操ること。櫓の入子の穴を櫓杭に挿入し早緒を櫓杆(ロヅク)にかけて操作する。

ローター-せん [ローター(rotor)船] 獨人フレットナー(Flettner)博士の考案

せる回轉筒柱により船舶の動力を供給する風走船。

ローチャ 支那で用ひる戎克(ジンク)より大きい帆船。

ろ-ちょうヽチャウ［露頂］ 潜没してゐた潜水艦が，浮上つて艦體の上部を水面にあらはすこと。**——せんこう**…カウ［露頂潜航］潜水艦の船體が大體水中に隠れて，上部が僅かに水面に残る狀態で潜航すること。

ロッカー［locker］①各自の所有品を入れておく小戸棚。②武器などを格納して錠前を施しておく仕切戸棚。

ロック［lock］閘門(カフモン)。➔同項。

ろっ-こつロク…［肋骨］高等動物の背骨から肋骨が左右に出てゐるやうに，船の龍骨から左右兩側に出てゐる船舶に，横面の强力を賦與する構材。**——しんきょ**［肋骨心距］船體の肋骨と肋骨との間隔。肋骨の中心から次の肋骨の中心までを測る。

ロッビー［lobby］艦・船舶内に設けられたる，諸室出入のための合廊下又は控室。

ろっぷん-ぎロク…［六分儀］①任意の2點間の角距離を測るのに用ひる器具。天體の高度を測り，船舶所在の經緯度を測算するのに用ひる。⇨天測(テンソク)。②測距器具の發達してゐなかつた頃は，高さの知られてゐる他艦の檣を測つて自艦との距離を測定するのに用ひた。《セキスタント(sextant)》

ろ-てい［櫓艇］ 櫓で漕ぐ船で，通船・傳馬船などに對する海軍用語。

ろてん-かんぱん［露天甲板］ 上甲板以上の覆のない甲板。

ろてん-ほう…ハウ［露天砲］何にも蔽はれてゐない大砲。

ろ-どこ［櫓床］ 櫓杭を固著してある床板で，舷側外板の上部に横にわたしてあるもの。

ろ-なみ［櫓波］ 櫓を漕いだあとに立つ小波。

ろ-なわ…ナハ［櫓繩］船の床に繫いで櫓の上端にかける繩。《早緒(ハヤヲ)》

ろ-びょうしヽビヤウ…［櫓拍子］櫓を操る拍子。櫓を押し漕ぐ調子。

ろ-べそ［櫓臍］ 船端に設けた小突起。櫓の入子(イレコ)に嵌めて櫓を漕ぐためのもの。《ろほぞ》

ろ-ほうとうヽハウタウ［露砲塔］裝甲の壁障で，内部に重砲を裝備し，水壓力・電力若しくは人力を以て，砲のみその壁上を旋回する裝置のもの。**——かん**［露砲塔艦］露砲塔を備へてゐる裝甲艦。艦首・艦尾に露砲塔があり，又仰角を大きくする目的の下に設計されたもの。

ろ-みさおヽミサヲ［櫓篙］ 淺瀬の出入に櫓を水棹(ミサヲ)に代用して船を動かす時の名。

ローヤル［royal］ 横帆船のローヤル檣に懸ける帆。**——マスト**［royal-mast］最上檣。檣の最高部。

ろりょう-ぎょぎょうヽリヤウ…［露領漁業］ 北洋漁業の一で，日露戰爭の結果ポーツマス(Portsmouth)條約によつて獲得した漁業權による漁業。

ローリング［rolling］ 船の，左右に搖れる動き方。《横動》**——テークル**［rolling-tackle］横帆船動搖中，帆の風上に搖動するのを防止するための絞轆。

ローリング-スパー［rolling-spar］短艇ダビットに渡した圓材で，短艇を固縛するに用ふ。

ローリング-チョック［rolling-chock］ 桁を檣に固定するため，その中央部に取附けた木片。

ローロック［rowlock］ 櫓座。➔同項。

ロワー-トップスル［lower-topsail］各檣のロワー-トップスル-ヤードに展ずる横帆。

ロワー-マスト［lower-mast］下檣(カシヤウ)。➔同項。

ロワー-ヤード［lower-yard］ロワー-マストに横架する桁。

ロング-トン［long-ton］英噸。➔同項。

わ

ワイヤ［wire］はりがね。鐵條索。**——ドラム**［wire-drum］鋼製の吊索や揚索を捲く揚貨機・起重機の回轉する捲胴。**——ロープ**［wire-rope］鋼索。➔同項。

わえ ①遠淺の海の潮の引殘りをいふ。そこで採る魚を"わえな"と稱す。②狹隘な水道の沿岸に生ずる反流。

わか-しお…シヲ［若潮］潮の干滿差の最小な長潮の翌日から，再びその差が次第に增大するので，潮が若返る意から出た語で，大陰曆の11日及び26日に

相當する。(潮替(シホガ))

わか-わし［若鷲］海・陸軍少年飛行兵出身の若い空の勇士。雛鷲ともいふ。

わき-かじ‥カヂ［脇梶］①船の兩側面に取附けた板。②またその處にかけて押す櫓。"わいかぢ"ともいふ。

わき-しお‥シホ［脇潮］岸に沿つて本流の反對に流れる潮。本潮(ホンシホ)の對。

わき-ろ［脇櫓］艫櫓の力を助けるため舷に取附けた櫓。

わ-く［湧く］魚や貝類の蕃殖したこと。

わく-あみ［枠網］鰊の陸揚に用ひる網。袋狀の網の口を，木枠を以て張り擴げ，口を水面に浮かせ角網などの定置漁具に入網した漁獲物をこれに抄ひ込み，舟を以て陸岸に引き行き，漁獲物を陸揚げするに使用するもの。

わく-せい［惑星］遊星に同じ。→同項。

わし-ずかみ‥ヅカミ［鷲摑］底にある貝類を捕獲するに用ひる漁具。長さ4米位の柄の先に鐵製の鉄狀のものを附けたもの。

わ-ずな‥ヅナ［環索］絞轆を索具圓材等に懸けるに用ひる輪環狀の索。多數の細索を束ね，その數箇所を括つて環に造つたものを束環索(ツカカンサク)といひ，なほその他に鋼索・環索・鎖環索などがある。(ストロップ(strop))

わ-せん［和船］①人力又は風力を以て推進せしめる我が國在來の形式の木造船。外國船の對。(大和船)　②西洋型帆船に對する日本型帆船の意と，通船又は艀船の意味の2義がある。

わだ［海］(古) うみ。

わた［曲］曲つて水の淀む所。

わたし［渡］①船で人などを對岸に渡すこと。又，その所。(船渡(フナワタシ)・渡場(ワタシバ))　②船より他へ移り渡るに用ひる板。(歩板(ガイタ))　**——せん**［渡錢］船渡の賃錢。(ふなちん・とせん)　**——ば**［渡場］船渡しのある場所。　**——ぶね**［渡舟］渡場にて人又は物を渡す舟。(わたりぶね・渡船(トセン))　**——もり**［渡守］渡船の船頭。"わたりもり"ともいふ。

わた-つ-み［綿津見・渡津見］①海神。(わたつみのかみ)　②うみ。(わたつうみ)　**——の-かみ**［海津見の神］海を主宰する神。海路を守護する神。(わたつみ・海神・海若)

わた-ぬき［腸抜］魚の腸を抜き去ること。又その抜き去りたる魚。

わた-の-はら［海の原］"はら"は廣い意。海の上。(海原(ウナバラ)・大海(オホウミ))

わたり［渡］①海や川などを渡ること。②渡(ワタシ)・渡場(ワタシバ)。③外國から船

來すること。④渡板(ワタリイタ)。

わたり-いた［渡板］船から陸岸へかけわたして，往來に備へる長い板。(あゆみいた・板道)

わたり-せ［渡瀨］(古) 徒歩で渡ることの出來る川の淺瀨。((古)わたるせ)

わ-たん［和炭］日本國產の石炭。

ワード-ルーム［ward-room］軍艦の士官室。

ワニス［varnish］塗料の一。樹脂又は乾燥油を，アルコール又はエーテル若しくはテレビン油等に溶かしたもので，木具の表面に塗抹し，光澤を附し美觀を添へ，且つ濕氣を防ぐのに用ひる。

わに-ぶね［鰐魚船］鰐魚は我が神話中に現はれるもので，例へば大國主命が救助し給へる兎が鰐魚とその勢力爭ひをなし，鰐魚の部族を隱岐島から氣多崎まで列べて數へたといふ神話の鰐魚は船を意味してゐる。その船形が鰐魚に似てゐたので船に例へられたもので，もちろんこの時代の鰐魚とは鮫の一種である。畢竟鰐魚とは船の意味で，またその船を使用せる部族を鰐魚なる語を以て代表したものといはれる。

ワープ［warp］①艦船を曳移するための索條又は小鎖。②引網具を曳き廻すに使用する曳綱。

わ-ふう［和風］①海面半分以上に白波を見る程度の風。②秒速5.5～7.9米の風。

わら-ずな‥ヅナ［藁綱］藁で綯(ナ)つた綱。

わりあい-うんちん‥ヅ‥［割合運賃］航路相當運賃に同じ。→同項。

わりまし-うんちん［割增運賃］危險品・重量品・嵩高品・長尺物等，荷扱上特別の手數を要するの故を以て，或は貨物の種類を問はず特定の航路を運送するの故を以てなどのため，普通運賃以上に課徵する運賃をいふ。

わ-ろう‥ラウ［和浪］穩かな浪。その符號式はM(moderate sea)を用ふ。

わん［灣］陸地に彎曲して入り込んだ海面。海灣よりはやや小なるもの。館山灣・碣石灣などはその例。(入海(イリウミ))

わん-おう‥アウ［灣奥］灣の奥部をいふ。灣口の對。(灣首)

わんきょくぶ-りゅうこつ［彎曲部龍骨］船底外側彎曲部に於いて前後に長く縱に取附けられた材で，水に抵抗し，船體の動搖を緩和するもの。(ビルジキール(bilge-keel))

わん-こう［灣口］灣の入口。灣奥の對。

わん-しゅ［灣首］灣の奥部。

わん-とう［灣頭］灣のほとり。**——こう**‥カウ［灣頭港］灣港ともいひ，天然の灣内に在る港。

わんとう　船の舵床の溝。即ち舵の身木(ミキ)を嵌め入れる所。まろくち。

わんとう-つみとり‥ヅミ［灣糖積取］臺灣の砂糖を積取り内地に運送すること。

わん-にゅう‥ニフ［灣入・彎入］水が陸地に弓形に曲つて入り込むこと。

わん-ぴょう［灣氷］極地にて秋季に生じた新氷。

わん-りゅう‥リウ［灣流］メキシコ(Mexico)灣から發して，遠く北歐の北緯75度附近に及ぶ，北大西洋を南西から北東に流れる暖かい海流。ガルフ-ストリーム(Gulf-Stream)。《メキシコ灣流》

帝國海軍武官官階表（1）

	(科別)	士官								
		將官			佐官			尉官		
將校相當官	兵科	海軍大將	海軍中將	海軍少將	海軍大佐	海軍中佐	海軍少佐	海軍大尉	海軍中尉	海軍少尉
	軍醫科		海軍軍醫中將	海軍軍醫少將	海軍軍醫大佐	海軍軍醫中佐	海軍軍醫少佐	海軍軍醫大尉	海軍軍醫中尉	海軍軍醫少尉
	藥劑科			海軍藥劑少將	海軍藥劑大佐	海軍藥劑中佐	海軍藥劑少佐	海軍藥劑大尉	海軍藥劑中尉	海軍藥劑少尉
	主計科		海軍主計中將	海軍主計少將	海軍主計大佐	海軍主計中佐	海軍主計少佐	海軍主計大尉	海軍主計中尉	海軍主計少尉
	技術科		海軍技術中將	海軍技術少將	海軍技術大佐	海軍技術中佐	海軍技術少佐	海軍技術大尉	海軍技術中尉	海軍技術少尉
	齒科醫科			海軍齒科醫少將	海軍齒科醫大佐	海軍齒科醫中佐	海軍齒科醫少佐	海軍齒科醫大尉	海軍齒科醫中尉	海軍齒科醫少尉
	法務科		海軍法務中將	海軍法務少將	海軍法務大佐	海軍法務中佐	海軍法務少佐	海軍法務大尉	海軍法務中尉	海軍法務少尉
	軍樂科						海軍軍樂少佐			
	看護科						海軍衛生少佐			

帝國海軍武官官階表 (2)

	(科別)	特務士官			准士官	下士官		
						上等下士官	一等下士官	二等下士官
特務士官・准士官・下士官	兵科	海軍大尉	海軍中尉	海軍少尉	海軍兵曹長	海軍上等兵曹	海軍一等兵曹	海軍二等兵曹
					海軍飛行兵曹長	海軍上等飛行兵曹	海軍一等飛行兵曹	海軍二等飛行兵曹
					海軍整備兵曹長	海軍上等整備兵曹	海軍一等整備兵曹	海軍二等整備兵曹
					海軍機關兵曹長	海軍上等機關兵曹	海軍一等機關兵曹	海軍二等機關兵曹
					海軍工作兵曹長	海軍上等工作兵曹	海軍一等工作兵曹	海軍二等工作兵曹
	軍樂科	海軍軍樂大尉	海軍軍樂中尉	海軍軍樂少尉	海軍軍樂兵曹長	海軍上等軍樂兵曹	海軍一等軍樂兵曹	海軍二等軍樂兵曹
	看護科	海軍衞生大尉	海軍衞生中尉	海軍衞生少尉	海軍衞生兵曹長	海軍上等衞生兵曹	海軍一等衞生兵曹	海軍二等衞生兵曹
	主計科	海軍主計大尉	海軍主計中尉	海軍主計少尉	海軍主計兵曹長	海軍上等主計兵曹	海軍一等主計兵曹	海軍二等主計兵曹
	技術科	海軍技術大尉	海軍技術中尉	海軍技術少尉	海軍技術兵曹長	海軍上等技術兵曹	海軍一等技術兵曹	海軍二等技術兵曹

備考　必要ニ應ジ海軍兵曹長以下ヲ水兵科准士官下士官、海軍飛行兵曹長以下ヲ飛行科准士官下士官、海軍整備兵曹長以下ヲ整備科准士官下士官、機關兵曹長以下ヲ機關科准士官下士官、海軍工作兵曹長以下ヲ工作科准士官下士官ト稱スルコトヲ得

帝國海軍武官官階表 (3)

			豫備士官						豫備士官	豫備下士官		
			豫備佐官			豫備尉官						
		兵科	海軍大佐	海軍中佐	海軍少佐	海軍大尉	海軍中尉	海軍少尉	豫備士官准士官	豫備上等下士官	豫備一等下士官	豫備二等下士官
豫備員	豫備將校	兵科							海軍兵曹長	海軍上等兵曹	海軍一等兵曹	海軍二等兵曹
	豫備准士官豫備下士官								海軍飛行兵曹長	海軍上等飛行兵曹	海軍一等飛行兵曹	海軍二等飛行兵曹
									海軍整備兵曹長	海軍上等整備兵曹	海軍一等整備兵曹	海軍二等整備兵曹
									海軍機關兵曹長	海軍上等機關兵曹	海軍一等機關兵曹	海軍二等機關兵曹
									海軍工作兵曹長	海軍上等工作兵曹	海軍一等工作兵曹	海軍二等工作兵曹

備考　必要ニ應ジ海軍兵曹長以下ヲ水兵科豫備准士官豫備下士官、海軍飛行兵曹長以下ヲ飛行科豫備准士官豫備下士官、海軍整備兵曹長以下ヲ整備科豫備准士官豫備下士官、海軍機關兵曹長以下ヲ機關科豫備准士官豫備下士官、海軍工作兵曹長以下ヲ工作科豫備准士官豫備下士官ト稱スルコトヲ得

帝國海軍兵職階表（4）

（科別）	兵			
	兵長	上等兵	一等兵	二等兵
兵科	海軍水兵長	海軍上等水兵	海軍一等水兵	海軍二等水兵
	海軍飛行兵長	海軍上等飛行兵	海軍一等飛行兵	海軍二等飛行兵
	海軍整備兵長	海軍上等整備兵	海軍一等整備兵	海軍二等整備兵
	海軍機關兵長	海軍上等機關兵	海軍一等機關兵	海軍二等機關兵
	海軍工作兵長	海軍上等工作兵	海軍一等工作兵	海軍二等工作兵
軍樂科	海軍軍樂兵長	海軍上等軍樂兵	海軍一等軍樂兵	海軍二等軍樂兵
看護科	海軍衞生兵長	海軍上等衞生兵	海軍一等衞生兵	海軍二等衞生兵
主計科	海軍主計兵長	海軍上等主計兵	海軍一等主計兵	海軍二等主計兵
技術科	海軍技術兵長	海軍上等技術兵	海軍一等技術兵	海軍二等技術兵
豫備員	豫備			兵
	豫備兵長	豫備上等兵	豫備一等兵	
兵科	海軍水兵長	海軍上等水兵	海軍一等水兵	
	海軍機關兵長	海軍上等機關兵	海軍一等機關兵	
	海軍工作兵長	海軍上等工作兵	海軍一等工作兵	

備考　必要ニ應ジ海軍水兵長以下ヲ水兵科兵、海軍飛行兵長以下ヲ飛行科兵、海軍整備兵長以下ヲ整備科兵、海軍機關兵長以下ヲ機關科兵、海軍工作兵長以下ヲ工作科兵ト稱スルコトヲ得、豫備員ニ付亦之ニ準ズ

海上の模樣（波浪階級）表

海上の模樣は主として波浪の高さにより次の如く區別せらる

階級	用語		説明	波高ノサ（米）
0	穩カ	Calm	鏡ノ如シ	0
1	極滑ラカ	Very smooth	僅ニ細漣アリ	＜0.3
2	滑ラカ	Smooth sea	細漣立ツ	0.3– 0.6
3	少々浪アリ	Slight sea	細キ白波見ユ	0.6– 1.0
4	浪可ナリアリ	Moderate sea	全部白波トナル	1.0– 1.5
5	浪稍荒シ	Rather rough sea	白波高シ	1.5– 2.5
6	浪荒シ	Rough sea	大波トナル	2.5– 4.0
7	浪高シ	High sea	大波高シ	4.0– 7.0
8	浪甚ダ高シ	Very high sea	怒濤頗ル高シ	7.0–13.0
9	怒濤	Precipitous sea	怒濤山ノ如シ	＞13.0

風力·風速·風ノ名稱表（海上用）

階級	名稱	解說	風速範圍 米/秒	風速範圍 浬/時
0	平穩	海面油ヲ流シタルガ如シ	0.—0.5	1以下
1	至輕風	海面ニ細波アルヲ見ル	0.6—1.7	1—3
2	輕風	海面ニ小波ヲ明ニ認ム	1.8—3.3	4—6
3	軟風	波ノ間ニ處々白波ヲ見ル	3.4—5.2	7—10
4	和風	海面半分以上ニ白波ヲ見ル	5.3—7.4	11—14
5	疾風	海面殆ド全部ニ白波ヲ見ル	7.5—9.8	15—19
6	雄風	白波稍盛トナル	9.9—12.4	20—24
7	强風	白波盛ニ立ツ	12.5—15.2	25—29
8	疾强風	風ヨリ起ル波大浪トナル	15.3—18·2	30—35
9	大强風	大浪頗ル高シ	18.3—21.5	36—41
10	全强風	風浪更ニ高シ	21.6—25.1	42—48
11	暴風	———	25.2—29.0	49—56
12	颶風	———	29.1以上	57以上

雲形表

雲形	記號 國際	記號 本邦	高サ（米）
卷雲	Ci	C	
卷層雲	Ci. St	CS	上層雲　平均ノ高サ 9000
卷積雲	Ci. Cu	CK	
高積雲	A. Cu	KC	中層雲　平均ノ高サ3000～7000
高層雲	A. St	SC	
層積雲	St. Cu	SK	下層雲　平均ノ高サ 2000以下
亂雲	Nb	N	
積雲	Cu	K	上昇氣流ニヨリ生ズル雲　頂部 1800　底 1400
積亂雲	Cu. Nb	KN	上昇氣流ニヨリ生ズル雲　頂部 3000～8000　底 1400
層雲	St	S	高キ霧　平均ノ高サ 1000以下

水産製品分類表

水産講習所教授　深山義道

(A) 食糧品

製品		種類
冷凍品		冷凍鮭、冷凍大鮃、冷凍鰤、冷凍蝦、フイシユフイレー
乾製品	素乾品	鯣、身欠鰊、棒鱈、鱶鰭、鳴戸和布、昆布、田作、乾海苔
	煮乾品	明鮑、灰鮑、海參、煮乾鰮、乾蝦、鰹節、鮪節、ウルメ節、鯖節、魚粉
	燒乾品	燒乾鰮、燒乾鮎、燒乾沙魚、燒乾雲丹
	鹽乾品	鰮丸乾、鰮目刺、鹽乾鱈、鹽乾鰺、鹽乾鯖、興津鯛
	燻乾品	鮭燻製、鰤燻製、太鮃燻製、鰊燻製、秋刀魚燻製、大羽鰮燻製
	凍乾品	寒天、明太魚
鹽藏品		新卷鮭、鮭鹽引、鹽鱒、鹽鱈、鹽鰤、鹽鰊、鹽鰮、鹽鯖、筋子、イクラ、紅葉子
罐詰壜詰品	水煮罐詰	鮭鱒水煮罐詰、蟹水煮罐詰、蝦水煮罐詰、鯖水煮罐詰、鰮水煮罐詰
	大和煮罐詰	鰹大和煮罐詰、鯖大和煮罐詰、鰮大和煮罐詰、鯨肉大和煮罐詰

製品		種類
	照燒蒲燒罐詰	鯖照燒罐詰、鰺照燒罐詰、秋刀魚照燒罐詰、鰻蒲燒罐詰、鰮蒲燒罐詰
	蒲鉾魚團罐詰	蒲鉾罐詰、竹輪罐詰、魚團罐詰、サツマ揚罐詰
	トマト漬罐詰	鰮トマトピユーレー漬、鯖トマトピユーレー漬、鰮トマトソース漬、鯖トマトソース漬、秋刀魚トマトソース漬罐詰
	酢・ソース漬罐詰	鰊酢漬罐詰、鰮酢漬罐詰、鯖バターソース漬、鰻バターソース漬、鰮ゼリーソース漬罐詰
	油漬罐詰	鰮油漬罐詰、鮪油漬罐詰、鯖油漬罐詰鰹油漬罐詰、鮭燻製油漬罐詰
	調味品罐詰	鱈田麩罐詰、鰹田麩罐詰、鯛味噌罐詰牡蠣味噌罐詰、海苔佃煮罐詰、鮒佃煮罐詰、ペースト罐詰
	スープ罐詰	牡蛎スープ罐詰、あをうみがめスープ罐詰、クラムチヨウダー罐詰、蛤蜊スープ罐詰
	配合煮罐詰	月島煮罐詰、鰊北海煮罐詰、鮭筍罐詰野菜入罐詰
煉製品		蒲鉾、半平、竹輪魚團、鳴戸卷、魚鰾
醃醬品	鹽辛類	雲丹鹽辛、柔魚鹽辛、鰹鹽辛、鮎ウルガ「しよつつる」
	魚醬油類	牡蛎醬油、柔魚醬油、王筋魚醬油、アンチヨビー　醬油

製品		種類
調味品	煮熟調味品	各種佃煮、時雨煮、海苔佃煮、飴煮、田麩
	焙乾調味品	儀助煮、鮒雀燒、味付海苔
	乾燥調味品	鰮櫻干、河豚櫻干、惠美壽鱈
漬物品		鮑粕漬、鮎粕漬、鱈粕漬、鯛味噌、マナ鰹味噌漬、甘鯛味噌漬、粟漬品、鰊酢漬、鰮卯花漬、ナンバン漬、鰮糠漬
鮨類		鮒鮨、鱒鮨、鮎鮨
削刻品		揉鯛、揉鱈、刻鰨、削章魚、削蒲鉾、刻昆布
エツキス品		鰹煎汁、牡蛎エツキス、蛤エツキス、鰮エツキス

(B) 非食糧品

(一) 化製品

製品		種類
油脂蠟		鰊油、鰮油、鯨油、鱈肝油、鮫肝油、鯨蠟抹香鯨油、抹香鯨蠟、硬化油
魚糧魚肥		フイシユミール、鰊、搾粕、鰮搾粕、骨粉、血粉、干鰯
藥用品		鱈肝油、鱶肝油、ビタミン油、臓器製劑、加里鹽、沃土、臭素、タウオリン、クレアチン、クレアチニン、驅虫劑

製品		種類
粘質製品	植物性粘質	アルギン酸、布糊
	動物性粘質	膠、ゼラチン、アイミングラス
鞣製品		鯨革、海驢革、鮫革、鱈革、ウツボ革オツトセイ毛皮及海豹毛皮、ラツコ
蛋白質利用製品		毛皮カゼイン、ペプトン、フアイバー
顔料		貝灰、胡粉、セピア

(二) 工藝品

製品		種類
工藝品	美術的工藝品	鼈甲製品、珊瑚製品、鯨鬚製品
	一般的工藝品	貝釦、鯨筋製品

(C) 附海水利用製品

(一) 食鹽

製品		種類
食鹽		食鹽

(二) 苦汁利用製品

製品		種類
苦汁利用製品		鹽化カリ、カラナイト、炭酸マグネシア、金屬マグネシア、鹽化苦土、臭素

有用有害水産動物分類表

水産講習所教授
理學博士　松原喜代松

第一門　脊椎動物

綱	目	種類
哺乳類	食肉類	ラツコ・オツトセイ・トド・アシカ・アザラシ・セイウチ
	鯨類	シロナガスクヂラ・ナガスクヂラ・ザトウクヂラ・セミクヂラ・イワシクヂラ・コイワシクヂラ・ホクキヨククヂラ・コセミクヂラ・コクヂラ・ブライドクヂラ（以上鬚鯨類）マツカウクヂラ・ツチクヂラ・マイルカ・サカマタ（一名シヤチ）ゴンドウクヂラ・スヂイルカ・スナメリ・ネズミイルカ・カマイルカ・イシイルカ（以上齒鯨類）
	海牛類	ジユゴン（一名サンフイオといひ、昔から人魚と稱し、神祕的に取扱はれてゐる）
鳥類	翡翠類（ヒスイ）	カハセミ
	鸛鷺類（カフロ）	ゴキサギ
	雁鴨類	ウミアイサ
	全蹼類（ゼンボク）	ウミウ・ゲンカンドリ・カツヲドリ
	管鼻類	ウミツバメ・アハウドリ
	阿比類（アビ）	カイツブリ・アビ

綱	目	種類
	鷗類	ウミネコ・カモメ・アヂサシ
	海雀類	ウミスヾメ
	鶴類	タンチヤウ・オホバン
爬蟲類	龜類	タイマイ・アヲウミガメ・アカウミガメ・オサガメ・スツボン・イシガメ
	ワニ類	アメリカワニ
	蛇類	エラブウナギ・セグロウミヘビ
兩棲類	無尾類	食用蛙・トノサマガヘル
	有尾類	サンセウウヲ・ヰモリ
魚類	硬骨魚類	アンカウ・マダラ・スケトウダラ・コマイ・ヒラメ・オヒヤウ・マツカワ・マコガレヒ・マガレヒ・ソウハチ・アカガレヒ・アブラガレヒ・ムシガレヒ・ホシガレヒ・ギンボ・イカナゴ・コバンイタダキ・マハゼ・ドンコ・ハウボウ・コチ・カジカ・アイナメ・ホツケ・カサゴ・メバル・オニオコゼ・トラフグ・マフグ・カワハギ・アイゴ・キウセン・ブダヒ・スズメダヒ・ウミタナゴ・イサキ・イトヨリダヒ・マダヒ・チダヒ・キダヒ（レンコダヒ）・メヂナ・キス・ニベ・グチ・ススキ・マハタ・アラ・イシナギ・ムツ・ヒメヂ・イシダヒ・ハタハタ・ブリ・カンパチ・ヒラマサ・マアヂ・ムロアヂ・ヒラアヂ・イボダヒ・マナガツヲ・メダヒ・・ハマシマガツヲ（一名エチオピ

綱	目	種類
		ア）・シイラ・マカヂキ・シロカヂキ・クロカヂキ・バセウカヂキ・メカヂキ・タチウヲ・サハラ・クロマグロ・キハダマグロ・ビンナガ・メバチ・カツヲ・マルサウダ・ヒラサウダ・マサバ・ゴマサバ・カムルチー・キンメダヒ・マトウダヒ・ボラ・カマス・アカマンバウ・サンマ・トビウヲ・サヨリ・ダツ・タツノオトシゴ・トゲウヲ・ウナギ・ハモ・ウツボ・ウミヘビ・マアナゴ・コヒ・フナ・ハス・ドゼウ・ナマズ・キンギヨ・メダカ・サケ・マス・ベニザケ・ギンザケ・マスノスケ・ヒメマス・ニジマス・カハマス・ヤマベ・アマゴ・イワナ・アユ・ワカサギ・シラウヲ・ニシン・マイワシ・ウルメイワシ・サバヒー・コノシロ・サツパ・ギス
	硬鱗魚類	テフザメ
	横口類	アブラツノザメ・ネズミザメ（モウカ）・ホシザメ・ヨシキリザメ・アイザメ・ツノザメ・アオザメ・シユモクザメ・オナガザメ・アカエヒ・シビレエヒ・ガンギエヒ・サカタザメ・カスザメ
	全頭類	ギンザメ
圓口類	八眼鰻類	カワヤツメ（ヤツメウナギ）・スナヤツメ
	盲鰻類	メクラウナギ・ヌタウナギ・ムラサキヌタウナギ・クロメクラウナギ

第二門　原索動物

綱	目	種類
頭索類	ナメクヂウヲ類	ナメクヂウヲ
尾索類	ホヤ類	マボヤ・アカボヤ・エボヤ・スボヤ
擬索類		ギボシムシ

第三門　棘皮動物

綱	目	種類
海鼠類	幅足類	ナマコ・フジナマコ・ジヤノメナマコ・クロホシナマコ・キンコ
蛇尾類	クモヒトデ類	クモヒトデ
	テヅルモヅル類	テヅルモヅル
海昆類	顯帶類	モミヂガヒ
	隱帶類	ヒトデ・アカヒトデ・ヤツデ・イトマキヒトデ
海膽類	正形類	ガンガセ・ラツパウニ・ムラサキウニ・アカウニ・バフンウニ・エゾムラサキウニ
	歪形類	タコノマクラ・クワシパン・ブンブクチヤガマ

第四門　節足動物

綱	目	種類
蛛形類	劍尾類	カブトガニ
甲殼類	十脚類	クルマエビ・フトミゾエビ・クマエビ・ウシエビ・ヨシエビ・シバエビ・モエビ・アカエビ・トラエビ・サクラエビ・ヌカエビ・ホツカイエビ・テナガエビ・イセエビ・ハコエビ・ウチワエビ・ザリガニ・アナジヤコ・タラバガニ・ヘイケガニ・アサヒガニ・タカアシガニ・ズワイガニ・オホクソガニ・ガザミ・ノコギリガザミ・サワガニ・モクズガニ・シホマネキ
	裂脚類	アミ
	口脚類	シヤコ
	等脚類	フナムシ・タイノエ
	蔓脚類	フヂツボ・エボシガヒ・テフ・カメノテ

第五門　軟體動物

綱	目	種類
頭足類	十脚類	マイカ・ソデイカ・ハリイカ・ヤリイカ・アオリイカ・ケンサキイカ・スルメイカ・ホタルイカ・ミミイカ
	八腕類	マダコ・ミヅダコ・イヒダコ・アシナガダコ・タコブネ

綱	目	種類
雙殼類	下等筋類	カキ・イタボガキ・ホタテガヒ・イタヤガヒ・クロテフガヒ・テフガヒ・アコヤガヒ・イガヒ
	櫛齒類	アカガヒ・サルボウ・ハイガイ
	眞瓣鰓類	イシガヒ・カラスガヒ・ドブガヒ・シジミ・シヤコ・トリガヒ・ハマグリ・アサリ・アゲマキ・マテガヒ・バカガヒ・シホフキ・フナクヒムシ
腹足類	原始腹足類	アハビ・マダカ・メガヒ・エゾアハビ・トコブシ・リウテン・サザエ
	中腹足類	タニシ・マメタニシ・カハニナ・イモガヒ・ホラガヒ
	狹舌類	アカニシ・エツチウバイ・バイ・テングニシ
	肋腔類	アメフラシ
	基眼類	モノアラガヒ

第六門　環形動物

綱	目	種類
毛足類	多毛類	ゴカヒ・イトメ
蛭類	アゴビル類	ヒル
蝨類		ユムシ

第七門　腔腸動物

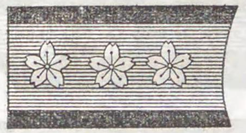
綱	目	種類
花蟲類	僞軸類	アカサンゴ・シロサンゴ・モモイロサンゴ・イソギンチヤク
鉢水母類	根口水母類	ビゼンクラゲ・エチゼンクラゲ
	扁口水母類	ミヅクラゲ・イウレイクラゲ・アカクラゲ
	行燈水母類	アンドンクラゲ

第八門　海綿動物

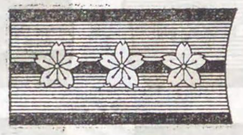
綱	目	種類
無石灰海綿類	六放海綿類	カイラウドウケツ・ホツスガヒ
	角維海綿類	モクヨクカイメン

海軍士官 准士官　軍衣襟章

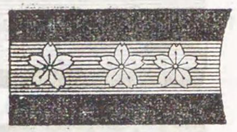
大將



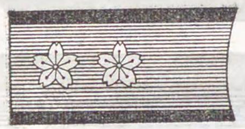
各科大佐



各科大尉（特務士官タルモノヲ含ム）



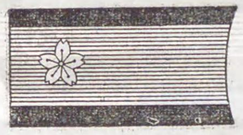
各科中將



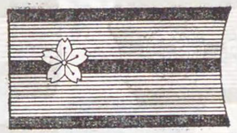
各科中佐

各科中尉（同上）

各科少將

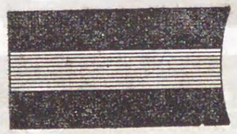


各科少佐

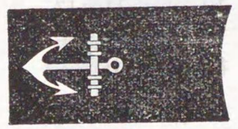


各科少尉（同上）

候補生・見習士官・准士官



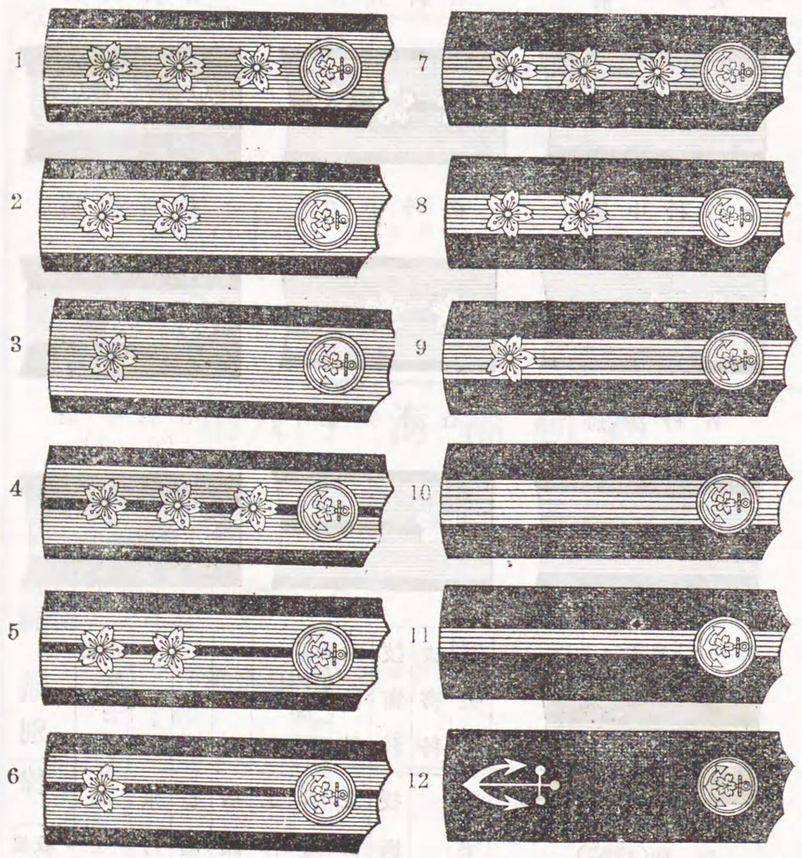
生徒（禮裝）



識別線（夏衣肩章及軍衣襟章ニ附ス）

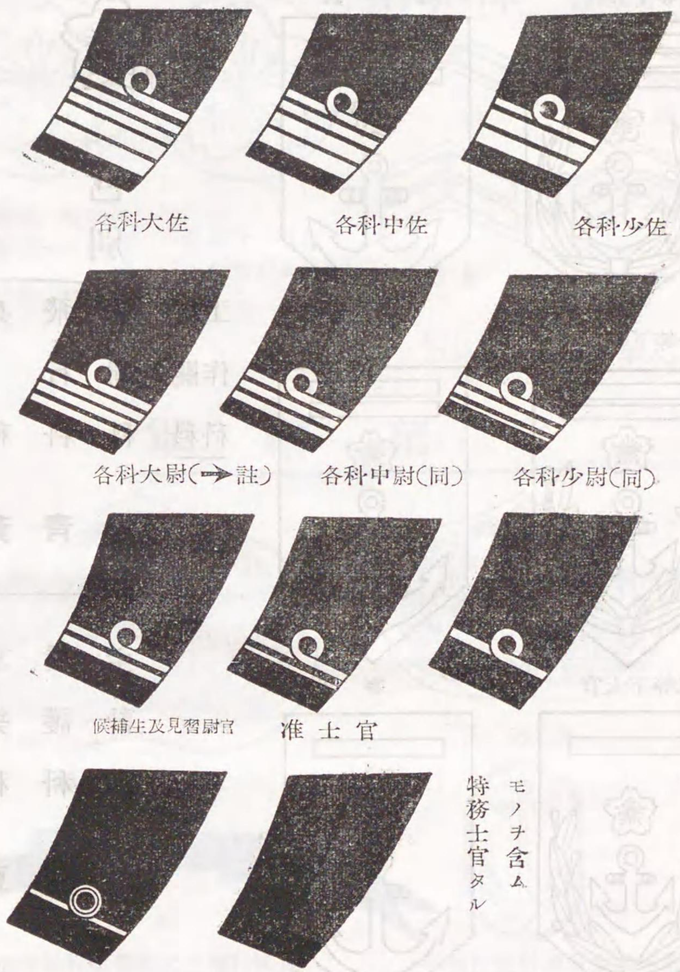
		色線
特務士官	准士官	
	飛行科	青
	整備科	綠
	機關科	紫
	工作科	
軍醫科・藥劑科・獸醫科・看護科	看護科	赤
主計科	主計科	白
技術科	技術科	鰕茶
法務科		萠黃
軍樂科	軍樂科	藍

士官 准士官 夏衣肩章



1 大將
2 各科中將
3 各科少將
4 各科大佐
5 各科中佐
6 各科少佐
7 各科大尉
8 各科中尉（モノヲ含ム特務士官タル）
9 各科少尉（同）
10 候補生及見習尉官
11 准士官
12 生徒

士官 准士官 袖章

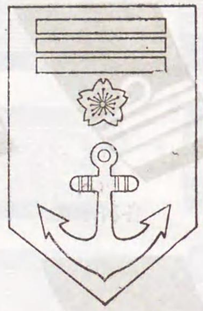


下士官兵 官職區別章

（臂章）三等兵ヲ除ク

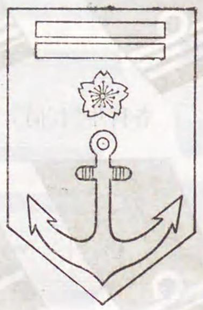
上等下士官

兵長



一等下士官

上等兵



二等下士官

一等兵

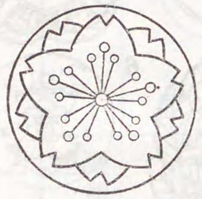
各科識別章

色別

工作科	機關科	整備科	飛行科	兵科
紫		緑	青	黄
主計科	看護科	軍樂科		
白		赤		藍

特技章

（下士官・兵）



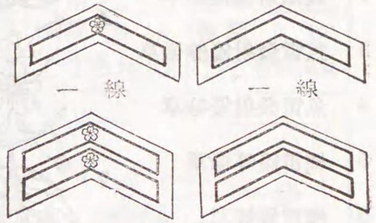
特修科、專修科高等科又ハ飛行練習生ノ教程ヲ卒業シタル者

普通科ノ教程ヲ卒業シタル者

善行章

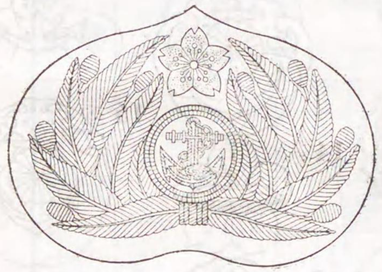
（下士官・兵）

特別善行章　普通善行章



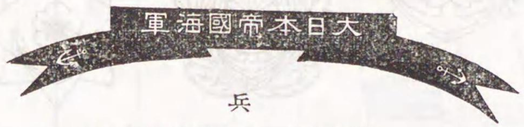
（三線以上ハ本圖ニ準ズ）

軍帽前章



准士官以上

下士官



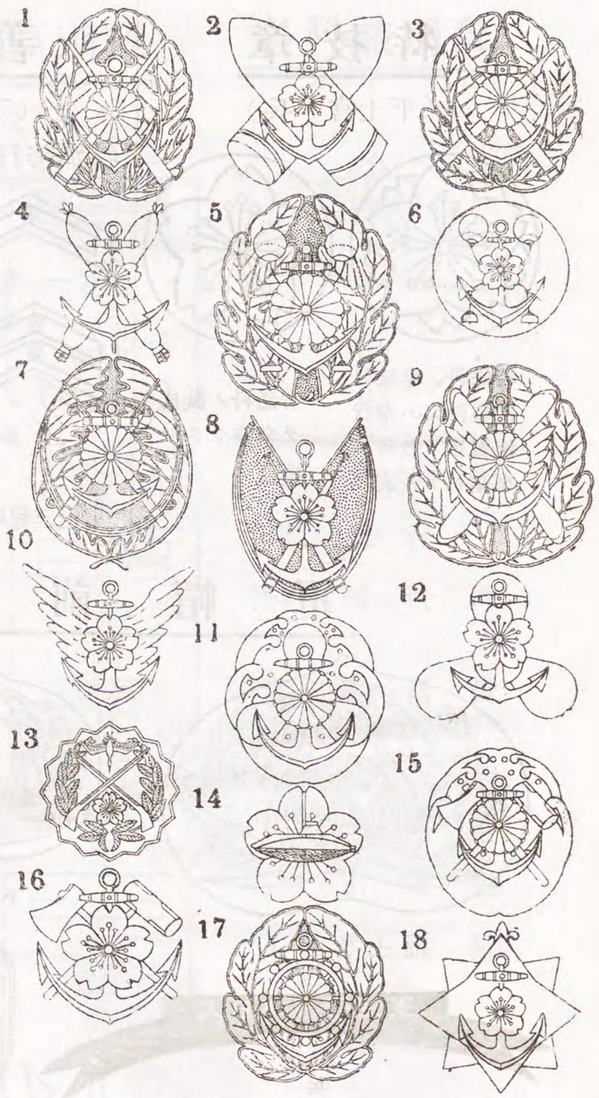
兵

（飛行豫科練習生又ハ飛行術練習生タルモノ及軍樂兵ヲ除ク）

（兵飛行豫科練習生又ハ飛行術練習生タル兵及軍樂兵）

海軍優等徽章

1 艦砲射撃優等徽章
2 艦砲射撃優等章
3 魚雷發射優等徽章
4 魚雷發射優等章
5 機雷優等徽章
6 機雷優等章
7 通信優等徽章
8 通信優等章
9 航空優等徽章
10 航空優等章
11 機關運轉優等徽章
12 機關運轉優等章
13 小銃射撃優等章
14 海軍潜水學校練習生修業徽章（廢止）
15 工作優等徽章
16 工作優等章
17 操舵優等徽章
18 操舵優等章

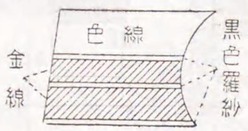


船員（職員）袖章

	船長 機關長	船醫 主任通信士 事務長 一等機關士 一等運轉士 月給百五十円以上	船醫 通信士 事務員 二等機關士 二等運轉士 月給百円以上	船醫 通信士 事務員 三等機關士 三等運轉士 月給百円未滿
船長 機關長 運轉士 機關士				
事務長 事務員				
主任通信士 通信士				
船醫				

船員（職

總噸數千噸以上	船長運轉士	機關長機關士	事務長事務員
船機長	＊＊＊黑 ＊	＊＊＊紫 ＊	
一等運轉士 一等機關士 一等事務長 主任通信士 船醫 月給百五十円以上	＊＊＊	＊＊＊	＊＊＊白
二等運轉士 二等機關士 二等事務員 通信士 船醫 月給百十円以上	＊＊	＊＊	＊＊
三等運轉士 三等機關士 三等事務員 通信士 船醫 月給百十円未満	＊	＊	＊



區分	甲板	機關	事務	無線	醫務
色線	黒	紫	白	緑	赤

チ以テス
ル襟章ノ色線
別ハ左表ニ依
船内各部ノ識

員）襟章

ノ船舶	主任通信士 通信士	船医
	＊＊＊緑	＊＊＊赤
	＊＊	＊＊
	＊	＊

總噸數三百噸以上千噸未満ノ船舶	船長運轉士	機關長機關士
	＊＊＊黒 ＊	＊＊＊紫 ＊
	＊＊＊	＊＊＊
	＊＊	＊＊
	＊	＊

總噸數三百噸未満ノ船舶	船長	機關長	運轉士
	＊＊黒 ＊	＊紫 ＊	＊黒 ＊

船員（普通）

總噸數千噸以上ノ船舶

	甲板	機關	事務	衛生
職長（事務補（貨物係）職長ニ準ジ待遇セラレル者）	黑 ＊＊＊	黑 ＊＊＊	白 ＊＊＊	赤 ＊＊＊
船部庫匠手・各部庫手・一等操舵手・一等操機手・司厨手・調理手・看護手	＊＊	＊＊	＊＊	＊＊
二等操舵手・二等操機手・二等調理手・副罐手	＊	＊	＊	
一等甲板員・一等機關員・一等司厨員・一等調理員	＊＊＊	＊＊＊	＊＊＊	
二等甲板員・二等機關員・二等司厨員・二等調理員・洗濯人	＊＊	＊＊	＊＊	
三等甲板員・三等機關員・三等司厨員・三等調理員	＊	＊	＊	

銀線　＊

銀色金屬

船員）襟章

總噸數三百噸以上千噸未滿ノ船舶

甲板	機關	事務	衛生
甲板長並ニ之ニ準ズル者	操機長並ニ之ニ準ズル者	司厨長並ニ之ニ準ズル者	職長ニ準ジ待遇サレル看護手
黑 ＊＊	紫 ＊＊	白 ＊＊	赤 ＊＊
操舵手・船匠・庫手	操機手・庫手	司厨手・調理手・庫手	看護手
＊	＊	＊	＊
甲板員	機關員	司厨員・調理員	
＊	＊	＊	

總噸數三百噸未滿ノ船舶

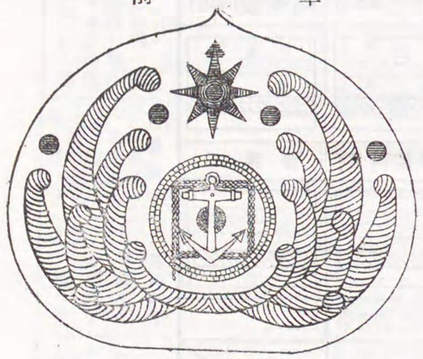
甲板	機關	事務
甲板長	操機長	司厨長
黑 ＊	紫 ＊	白 ＊
甲板員	機關員	司厨員・調理員
＊	＊	＊

（見習ハ襟章ヲ附セズ）

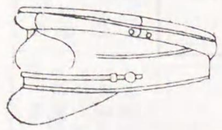
船員帽子

職員

前章

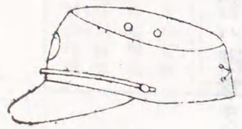


正帽　前章

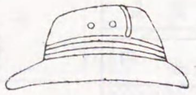


船內帽

帽暑防



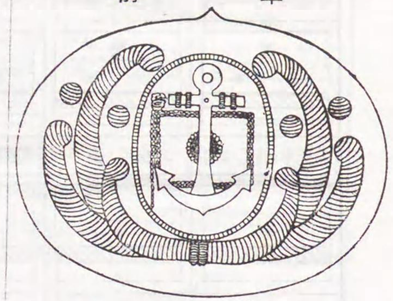
釦



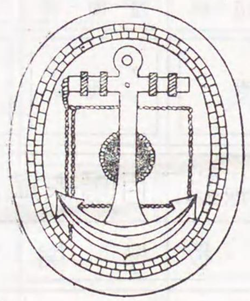
帽日覆

普通船員

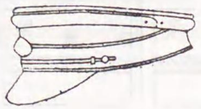
前章



前章

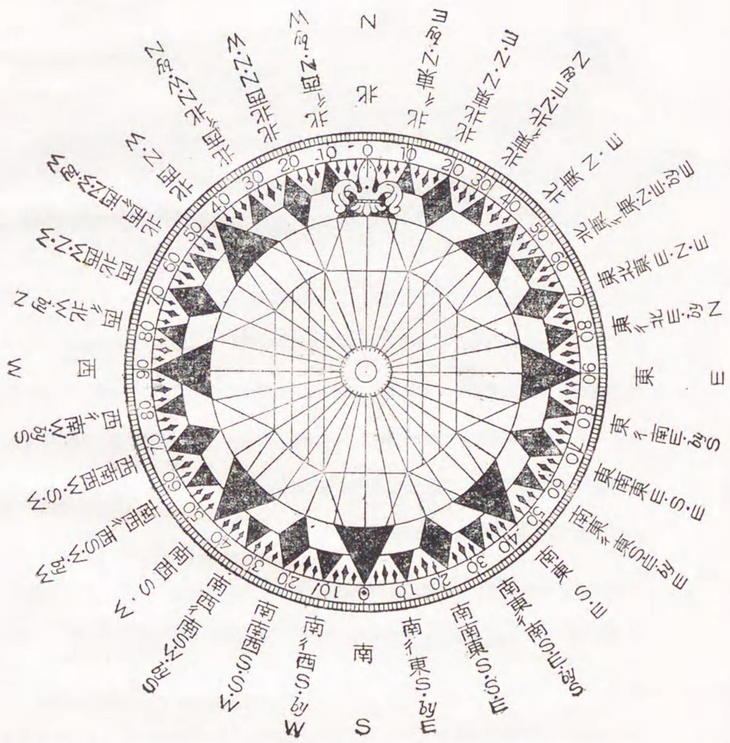


正帽

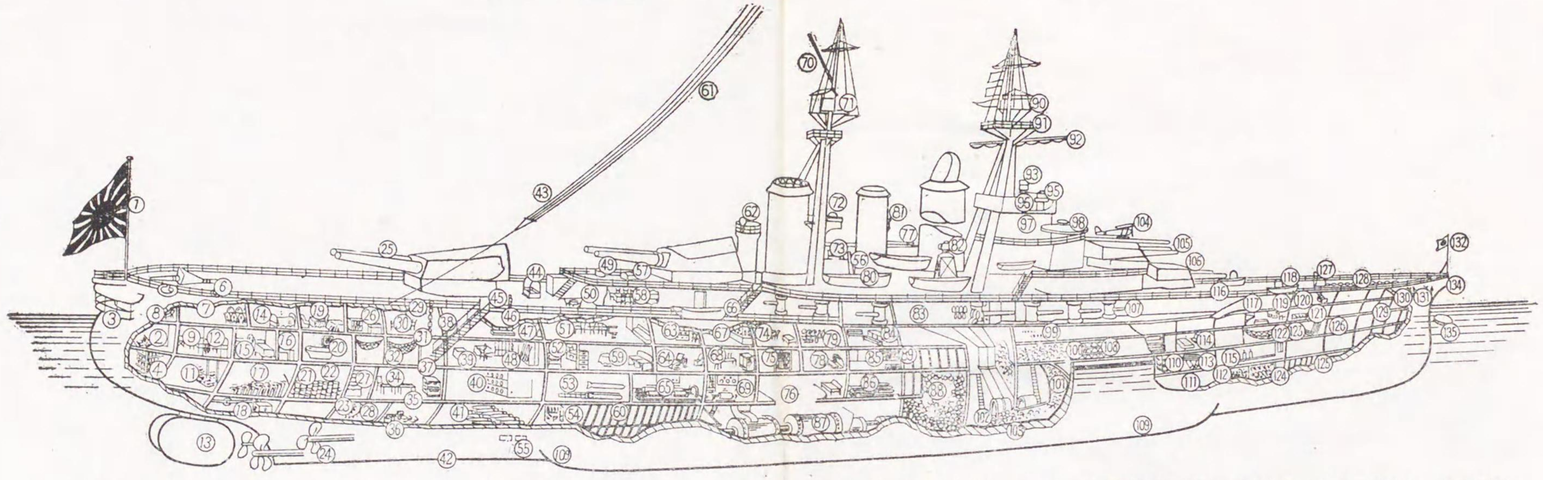


防暑帽

羅牌圖

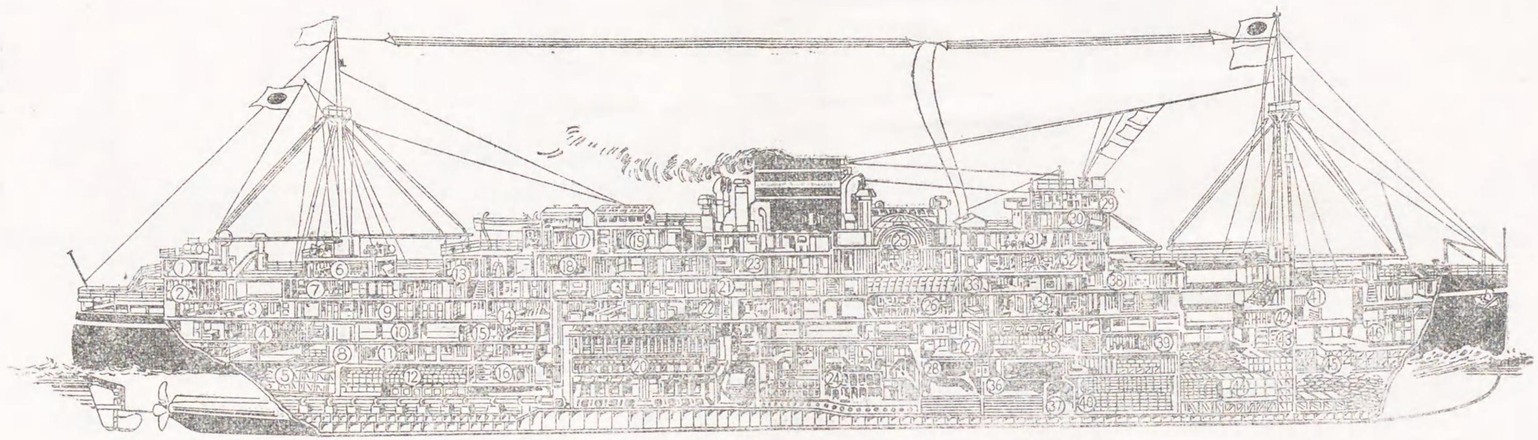


軍艦縱斷面圖



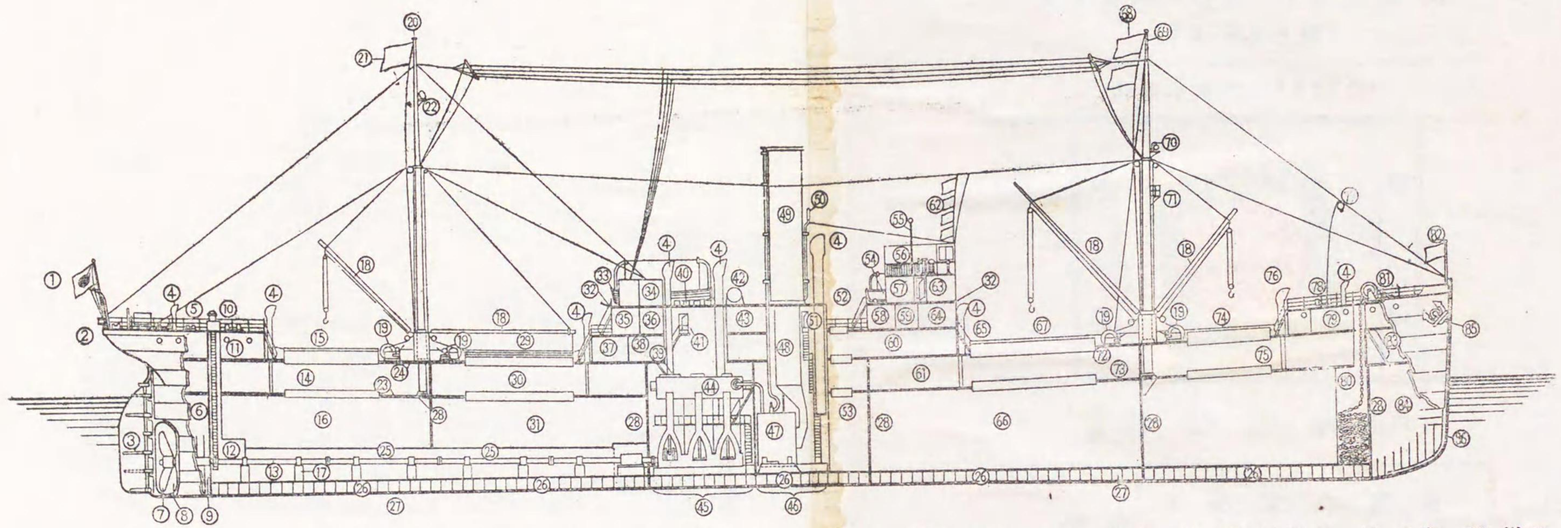
1 軍艦旗　2 天幕庫　3 艦名　4 倉庫　6 收錨浮標　7 長官公室　8 長官室　9 分隊長室　11 帆布庫　12 分隊長室　13 舵　14 長官寢室　15 士官寢室　16 士官寢室　17 米麥庫　18 舵柄室　19 艦長公室　20 士官浴室　21 醬油庫　22 梁(ビーム)　23 人力舵取室　24 推進器　25 主砲　26 艦長控室　27 士官室倉庫　28 人力舵取室　29 上甲板　30 幕僚事務室　31 中甲板　32 次室士官寢所　34 戰時治療室　35 船艙甲板　36 濱物庫　37 下甲板　38 舷梯　39 機關長室　40 火藥庫　41 彈庫　42 龍骨　43 無線電信空中線　44 昇降口　45 舷門　46 舷門番兵　47 士官室厠　48 銃架　49 通風筒　50 士官喫煙所　51 士官室　52 砲術長室　53 發射管室　54 電話交換室　55 注水孔　56 高角砲　57 天窓　58 士官次室　59 士官病室　60 肋材(フレーム)　61 無線電信空中線　62 後艦橋　63 士官室食器室　64 理髮　65 水壓機室　66 短艇　67 釣床格納所　68 機關科事務室　69 發電機室　70 斜桁(ガーフ)　71 舵柄信號　72 探照燈　73 艦載水雷艇　74 主計科事務室　75 昇降機　76 機械室　77 デリック　78 士官次室浴室　79 酒保　80 汽艇　81 汽角(サイレン)　82 探照燈　83 砲廓　84 兵員室　85 衣囊室　86 彈庫　87 蒸氣タービン　88 石炭庫　89 肋材(フレーム)　90 前檣樓　91 探照燈　92 桁(ヤード)　93 測距儀　95 羅針儀　96 前艦橋　97 舵取室　98 前部司令塔　99 兵員室　100 裝甲帶　101 防禦甲板　102 罐室　103 二重底　104 飛行機　105 主砲　106 第一砲塔　107 舵取　108 吃水標　109 ビルヂキール　110 洗濯桶室　111 清水タンク　112 錨鎖庫　113 水中發射管室　114 准士官室　115 揚薪庫　116 ケプスタン　117 治療室　118 通船　119 下士官室　120 兵員室　121 兵員室　122 休業患者　123 船匠工場　124 帆布庫　125 フレーム　126 倉庫・格納庫　127 昇降口　128 錨鎖　129 倉庫・格納庫　130 副錨　131 主錨　132 艦首旗　134 菊花御紋章　135 繫留浮標（海軍智識ニ依ル）

商船縱斷面圖



1 病院　2 三等喫煙室　3 洗濯室　4 三等船室　5 第五貨物艙　6 二等ベランダ　7 二等社交室　8 絹物庫　9 二等船室　10 三等船室　11 貨物冷藏庫　12 第四貨物艙　13 兒童室　14 二等食堂　15 三等食堂　16 食料品冷藏庫　17 一等ベランダ　18 一等喫煙室　19 一等和室　20 主機關室　21 一等船室　22 厨房　23 一等ギャラリー　24 補助機關室　25 一等社交室　26 一等大食堂　27 體操室　28 燃料油槽　29 指令船橋　30 船長室　31 士官室　32 一等讀書室　33 一等大廣間　34 一等船室　35 水泳プール　36 燃料油槽　37 貨物油槽　38 一等船室　39 三等船室　40 第三貨物艙　41 第二貨物艙　42 三等船室　43 三等船室　44 二等喫煙室　45 第一貨物艙　46 三等船室

貨物船縱斷面圖



1 商船旗　2 船尾燈　3 舵　4 通風筒　5 船尾樓甲板　6 船尾水艙　7 推進器　8 船尾材　9 支水隔壁　10 船尾樓甲板　11 倉庫　12 梯子　13 車軸　14 第四番甲板間船艙　15 第四番艙口　16 第四番船艙　17 軸承　18 デリック　19 ウェンチ　20 後檣　21 船主旗　22 後檣燈　23 第二甲板　24 上甲板　25 車軸隧道　26 二重底　27 龍骨　28 支水隔壁　29 第三番艙口　30 第三番甲板間船艙　31 第三番船艙　32 短艇甲板　33 短艇　34 無線電信室　35 機關長室　36 機關士室　37 倉庫　38 操舵機室　39 支水隔壁 40 天窓 41 汽機室出入口　42 用水タンク　43 厨室　44 汽機　45 汽機室　46 汽罐室　47 汽罐　48 煙路　49 煙筒　50 汽笛　51 出入口　52 載炭口　53 石炭庫　54 短艇　55 モールス式信號燈　56 航海船橋　57 海圖室　58 運轉士室　59 配膳室　60 豫備石炭庫　61 第二番甲板間船艙　62 信號旗63 船長室　64 食堂　65 船橋樓甲板　66 第二番船艙　67 第二番艙口　68 出帆旗及行先旗　69 前檣　70 前檣燈　71 見張所　72 上甲板　73 第二甲板　74 第一番艙口　75 第一番甲板間船艙　76 通風筒　77 碇泊燈　78 船首樓甲板　79 船員室　80 錨鎖庫　81 揚錨機　82 船首旗　83 索庫　84 船首水艙　85 錨　86 船首材

昭和十九年八月二十日印刷
昭和十九年八月二十四日發行
(25.000部)

出版會承認い490121

不許複製

標準海語辭典 附奥

著者 海洋文化協會
代表者 上田良武（うへだよしたけ）

發行者 東京都牛込區若宮町三八番地 大橋進一
126503

印刷者 東京都小石川區久堅町一〇八 大橋芳雄
東京121

發行所 東京都牛込區若宮町三八番地 株式會社 博文館

配給所 東京都神田區淡路町二ノ九 日本出版配給株式會社

(新)定價金八圓
査定番號六ノ一一一ノ禮

CL.
NO. 65704

天氣豫報信號標

天氣の旗　　風向の旗

晴
晴時々曇
晴時々雪
北
北東
曇
晴時々雨
晴時々雨か雪
東
北西
雨
曇時々雨
曇時々雪
南
南東
雪
曇時々晴
曇時々雨か雪
西
南西
雨か霧
霧
暑くなる
暖くなる
寒くなる
涼くなる

氣象特報信號標

晝標　夜標

風強くなる
風雨強くなる
風雪強くなる

暴風警報信號標

晝標　夜標

暴風雪になる
暴風雨になる

浮標及立標式圖

洲の上端浮標 紅白横線
左舷浮標 黑色
右舷浮標 紅色
白色の奇數番號を描く
白色の偶數番號を描く
洲の下端浮標 黑白横線
孤立障害浮標 紅黑横線
沈船浮標 綠色にして白色〔沈船〕と描く
孤立障害圓柱浮標 紅黑横線
孤立障害立標 紅黑横線

河口又ハ海口
水源

550.33
Ka191k
00030897
複写